

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

PCT/JP 2004/004677

31. 3. 2004

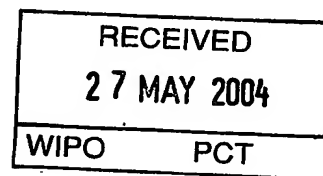
別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日
Date of Application: 2003年3月31日

出願番号
Application Number: 特願2003-096863
[ST. 10/C]: [JP 2003-096863]

出願人
Applicant(s): クラリオン株式会社

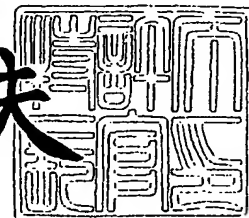


PRIORITY DOCUMENT
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH
RULE 17.1(a) OR (b)

2004年 5月13日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今井康夫



出証番号 出証特2004-3039755

【書類名】 特許願

【整理番号】 C15894

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 G11B 17/26

【発明の名称】 ディスク位置決め機構

【請求項の数】 6

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都文京区白山 5 丁目 3 5 番 2 号 クラリオン株式会社
社内

 【氏名】 関 覚二

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都文京区白山 5 丁目 3 5 番 2 号 クラリオン株式会社
社内

 【氏名】 時田 敬二

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都文京区白山 5 丁目 3 5 番 2 号 クラリオン株式会社
社内

 【氏名】 田中 一哉

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都文京区白山 5 丁目 3 5 番 2 号 クラリオン株式会社
社内

 【氏名】 鈴木 謙夫

【特許出願人】

 【識別番号】 000001487

 【氏名又は名称】 クラリオン株式会社

【代理人】

 【識別番号】 100081961

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 木内 光春

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 013538

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9004586

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 ディスク位置決め機構

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 複数のディスクを収容可能なディスクホルダと所望のディスクを再生するドライブユニットとの間で所望のディスクを受け渡す際に、所望のディスクを位置決めするディスク位置決め機構において、

前記ディスクホルダの分割により生じた空間に、所望のディスクのみを前記ディスクホルダから分離して把持するディスク把持手段を有することを特徴とするディスク位置決め機構。

【請求項 2】 前記ディスク把持手段は、前記ディスクホルダに対してディスクを搬入及び搬出するディスク搬送機構を有することを特徴とする請求項 1 記載のディスク位置決め機構。

【請求項 3】 前記ディスク搬送機構は、所望のディスクに接離する方向に移動可能に設けられたローディングローラを有することを特徴とする請求項 2 記載のディスク位置決め機構。

【請求項 4】 前記ディスク把持手段は、所望のディスクの外縁を把持するディスクストッパ機構を有することを特徴とする請求項 1～3 のいずれか 1 項に記載のディスク位置決め機構。

【請求項 5】 前記ディスク把持手段によるディスク把持と同期してディスクのセンターホールを解放し、前記ディスク把持手段によるディスク解放と同期してディスクのセンターホールを保持するディスク保持機構が、前記ディスクホルダに設けられていることを特徴とする請求項 1～4 のいずれか 1 項に記載のディスク位置決め機構。

【請求項 6】 前記ディスク把持手段によるディスク把持と同期してディスクのセンターホールを解放し、前記ディスク把持手段によるディスク解放と同期してディスクのセンターホールを保持するディスククランプ機構が、前記ドライブユニットに設けられていることを特徴とする請求項 1～5 のいずれか 1 項に記載のディスク位置決め機構。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、分割型のディスクホルダとドライブユニットとの間でのディスクの受け渡しの際に、ディスクを位置決めするディスク位置決め機構の改良に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

従来、ディスクを収納したマガジンを装置に装着し、このマガジン内から引き出されたディスクを自動的に再生するタイプのディスク装置が広く普及している。このようなディスク装置は、ディスク再生の度に、ディスクを一枚ずつ挿入・排出する操作を行う必要がない点で、操作性に優れている。

【0003】

しかしながら、装置に対して着脱されるマガジンには、外部に取り出された際に、それが保持する複数のディスクを保護するために、十分な強度が要求されるため、マガジン本体の壁はかなり厚くなり、その結果、マガジン及びこれを装着する装置全体が大型化する。また、マガジン内でディスクを保持するトレイ等を引き出すために、マガジン側壁の内面に、ガイド用の溝やレール部が設けられる。このような溝やレール部を形成すると、マガジン側壁の厚さがさらに増大すると共に、隣接するディスクホルダ間の間隔も広くなるため、マガジンの高さ寸法が増大し、これを装着する装置も大型化する。

【0004】

さらに、マガジンに収納されたディスクを引き出して再生するために、装置内に十分な空間を設ける必要があり、装置が大型化する。特に、車載用ディスク装置等のように、DINサイズと呼ばれる180×50（mm）、あるいはダブルDINサイズと呼ばれる180×100（mm）に収める必要がある場合には、小型化の要請が高い。

【0005】

これに対処するため、マガジンを分割式として、装置に装着されたマガジンを分割することによって形成されたスペースに、ディスク再生用のドライブユニッ

トを振り込ませて、マガジンからディスクを引き出すことなく再生できるようにしたディスク装置が開発されている（特許文献1、特許文献2）。かかるディスク装置では、ディスクを引き出して再生するためのスペースが必要ないので、全体として装置の小型化を図ることができる。

【0006】

さらに、着脱型のマガジンを使用せずに、あらかじめ装置内に複数のディスクを収納可能なディスクホルダを積層状態で組み込み、このディスクホルダに対して、ディスク挿入口から挿入したディスクを自動的に収納すると共に、収納したディスクを自動的に排出できるディスク装置が提案されている。かかるディスク装置においては、マガジンの厚さやマガジン着脱のための開口及び機構等が不要となるため、装置の小型化を実現できる。特に、特許文献3に開示された発明は、上記の分割式のマガジンのようにディスクホルダを上下に分割可能に設け、分割されたディスクホルダ内にドライブユニットを挿入することによって、ディスクを引き出すことなく再生できるようにして、より一層の小型化を図ったものである。

【0007】

【特許文献1】

特開平11-232753号公報

【特許文献2】

特開平11-306637号公報

【特許文献3】

特開2000-195134号公報

【0008】

【発明が解決しようとする課題】

ところで、上記のような分割型のディスクホルダを用いたディスク装置においては、所望のディスク保持部材からターンテーブルへディスクを渡すために、ディスクホルダを分割してドライブユニットを挿入した後、所望のディスクを保持したディスク保持部材をドライブユニット側に移動させて、所望のディスクをターンテーブルに圧着させるという複雑な動作が要求されることになり、カムや駆

動機構が複雑化する。

【0009】

また、ディスクホルダからドライブユニットへのディスクの受け渡しに、ディスク保持部材を用いるので、ターンテーブルとの間でディスクを挟んで確実にチャッキングするディスククランプ機構を用いることができず、ターンテーブル側にディスク内縁を把持するための特別な構造が必要となる。

【0010】

本発明は、以上のような従来技術の問題点を解決するために提案されたものであり、その目的は、ディスクホルダからドライブユニットへのディスクの受け渡しをスムーズに且つ確実に行うことができるディスク位置決め機構を提供することにある。

【0011】

【課題を解決するための手段】

以上のような目的を達成するために、本発明は、複数のディスクを収容可能なディスクホルダと所望のディスクを再生するドライブユニットとの間で所望のディスクを受け渡す際に、所望のディスクを位置決めするディスク位置決め機構において、以下のような技術的特徴を有する。

【0012】

すなわち、請求項1記載の発明は、前記ディスクホルダの分割により生じた空間に、所望のディスクのみを前記ディスクホルダから分離して把持するディスク把持手段を有することを特徴とする。

以上のような請求項1記載の発明では、ディスクホルダからドライブユニットへ所望のディスクを受け渡す際には、ディスク把持手段が所望のディスクを一時的に把持することができるので、ディスクホルダは、所望のディスクから分割回避する動作を行うのみでよく、カムや駆動機構を簡素化でき、受け渡し動作をスムーズに行うことができる。

【0013】

請求項2記載の発明は、請求項1記載のディスク位置決め機構において、前記ディスク把持手段は、前記ディスクホルダに対してディスクを搬入及び搬出する

ディスク搬送機構を有することを特徴とする。

以上のような請求項 2 記載の発明では、ディスク搬送機構をディスク把持手段と兼用させることにより、部材数の削減と装置の小型化が実現できる。

【0014】

請求項 3 記載の発明は、請求項 2 記載のディスク位置決め機構において、前記ディスク搬送機構は、所望のディスクに接離する方向に移動可能に設けられたローディングローラを有することを特徴とする。

以上のような請求項 3 記載の発明では、ディスク搬送時及びディスク位置決め時には、ローディングローラをディスクに接する方向に移動させてディスク搬送及び把持を確実にを行い、ディスク再生時には、ローディングローラをディスクから離れる方向に移動させてディスクとの干渉を避けることができる。

【0015】

請求項 4 記載の発明は、請求項 1～3 のいずれか 1 項に記載のディスク位置決め機構において、前記ディスク把持手段は、所望のディスクの外縁を把持するディスクストッパ機構を有することを特徴とする。

以上のような請求項 4 記載の発明では、ディスクストッパ機構によって、ディスクの外縁を把持することにより、ディスクホルダやドライブユニットの邪魔にならず、確実な位置決めが可能となる。特に、ディスク搬送機構と組み合わせた場合には、より確実且つ正確な位置決めが可能となり、振動にも強くなる。

【0016】

請求項 5 記載の発明は、請求項 1～4 のいずれか 1 項に記載のディスク位置決め機構において、前記ディスク把持手段によるディスク把持と同期してディスクのセンターホールを解放し、前記ディスク把持手段によるディスク解放と同期してディスクのセンターホールを保持するディスク保持機構が、前記ディスクホルダに設けられていることを特徴とする。

以上のような請求項 5 記載の発明では、ディスク保持機構とディスク把持手段とを同期させることにより、ディスクホルダのディスク解放から、ディスク把持手段のディスク位置決め状態、ディスクホルダへのディスク収納への移行をスムーズに且つ確実に行うことができる。

【0017】

請求項6記載の発明は、請求項1～5のいずれか1項に記載のディスク位置決め機構において、前記ディスク把持手段によるディスク把持と同期してディスクのセンターホールを解放し、前記ディスク把持手段によるディスク解放と同期してディスクのセンターホールを保持するディスククランプ機構が、前記ドライブユニットに設けられていることを特徴とする。

以上のような請求項6記載の発明では、ディスククランプ機構とディスク把持手段とを同期させることにより、ディスク把持手段によるディスクの位置決め状態から、ドライブユニットへのディスクのセット、ドライブユニットのディスク解放、ディスク把持手段によるディスクの位置状態への移行をスムーズに且つ確実に行うことができる。

【0018】

【発明の実施の形態】

以下には、本発明を適用した車載用のディスク装置の一つの実施の形態（以下、本実施形態とする）について、図面を参照して具体的に説明する。なお、請求項に記載のディスク搬送機構はローディングブロックに対応する。また、以下の図面においては、ディスク装置の正面側を前方、背面側を後方とし、正面側から見て上側を上方、下側を下方、左側を左方、右側を右方とする。

【0019】

[A. 全体構成]

本実施形態は、図1～図4に示すように、以下のような構成部から成っている。なお、図1は、本実施形態の全体構成を示す分解斜視図、図2及び図3は透視平面図、図4は正面図である。なお、図1～図4においては、一部の部材の図示を省略しているが、各構成部における部材の詳細はそれぞれの括弧内に示した図面に開示されている。

(1) ディスクDを個別に収容可能なホルダプレート11が複数積層されたディスクホルダ10(図5～図20)

(2) ディスクホルダ10が装着されたローシャーシユニット20(図21～図44)

(3) ディスク挿入口 31 を備えたアップシャーシユニット 30 (図 45 ~ 図 51)

(4) ディスクホルダ 10 を分割するディスクセクタ 41A, 41B を備えたドライブシャーシユニット 40 (図 52 ~ 図 66)

(5) ディスクホルダ 10 に対してディスクの挿排を行うローディングローラ 51 を備えたローディングブロック 50 (図 67 ~ 図 74)

(6) ディスクホルダ 10 間に振込み可能に設けられ、ディスク再生のためのドライブユニット 62 を備えたドライブベースユニット 60 (図 75 ~ 図 94)

【0020】

このような本実施形態においては、図 2 及び図 3、図 11 ~ 図 13 に示すように、ローディングローラ 51 によってディスク挿入口 31 から搬入されたディスク D を、各ホルダプレート 11 の上部に収納しておくことができる。そして、ディスク再生時には、ホルダプレート 11 に収納されたディスク D のうち、所望のディスク D に対してドライブシャーシユニット 40 の高さを合わせ、図 58 に示すように、ディスクセクタ 41A, 41B によって該ディスク D の上下のホルダプレート 11 を分割退避させる。このようにホルダプレート 11 が退避することによって生じたスペースに、図 12 及び図 87 に示すように、ドライブユニット 62 を振り込ませ、これにディスク D をセットして、その情報を読み取る。

【0021】

[B. 各ユニットの構成の概略]

以上のような本実施形態の各部の構成の概略を簡単に説明する。

[1. ディスクホルダ (図 5 ~ 図 20)]

ディスクホルダ 10 は、ディスク間を仕切る 6 枚のホルダプレート 11 と 1 枚の上面板 12 が、積層状態で昇降可能に設けられることによって、所望の位置で上下に分割可能 (各ホルダプレート 11 間の間隔を変更可能) に構成されたものである。そして、各ホルダプレート 11 には、ディスク D のセンターホールの縁 (以下、ディスク内縁と呼ぶ) を把持することにより、個々のホルダプレート 11 の上部にディスク D を一枚ずつ保持するディスク保持機構 15 が設けられている。

【0022】

[2. ロワーシャーシユニット (図21～図44)]

ローワーシャーシユニット20は、その内底面に配設されたカムギア21を回動させることによって、ディスクホルダ10の分割、ディスク内縁の把持／解放、ディスクDの外縁の把持／解放、ローディングローラ51の前後動、ディスク挿入口31の開閉、ドライブベースユニット60の回動等を行うように構成されている。このカムギア21は、カムギア駆動モータM1を駆動源とするカムギア駆動ギア機構22aを介して、回動可能に設けられている。また、ローワーシャーシユニット20には、ドライブシャーシ昇降モータM2を駆動源とするドライブシャーシ昇降ギア機構22bが設けられている。

【0023】

[3. アPPERシャーシユニット (図45～図51)]

アPPERシャーシユニット30におけるディスク挿入口31は、正面側のフロントプレート30aに設けられている。また、フロントプレート30aには、シャッタ開閉プレート33によって、ディスク挿入口31を開閉するシャッタ32が設けられている。また、アPPERシャーシユニット30のフロントプレート30a及び後外側面には、ドライブシャーシユニット40を所望の位置に昇降させるドライブシャーシ昇降プレート34A、34Bが設けられている(図4及び図44参照)。

【0024】

[4. ドライブシャーシユニット (図52～図66)]

ドライブシャーシユニット40は、上記のドライブシャーシ昇降プレート34A、34Bのスライド移動に従って、装置内を昇降可能に設けられている。ドライブシャーシユニット40の後内側面には、ホルダプレート11を分割昇降させるディスクセクタ41Aが左右にスライド移動可能に設けられている。また、ドライブシャーシユニット40の右内側面には、ディスクセクタ41Aとともに、ホルダプレート11を分割昇降させるディスクセクタ41Bが前後にスライド移動可能に設けられている。さらに、ドライブシャーシユニット40の右前部には、ローディングローラ51を回動させるローディングモータM3及びこれ

を駆動源とするローディングギア機構 44 が設けられている。

【0025】

[5. ローディングブロック (図 67～図 74)]

ローディングブロック 50 は、ドライブシャーシユニット 40 の前部に、前後にスライド移動可能に設けられており、ディスク挿入口 31 からディスク D を挿排する手段として、ディスク挿入口 31 に平行に配置されたローディングローラ 51 を備えている。ローディングローラ 51 は、ローディングブロック 50 が後方に移動したとき、ローディングローラ 51 の軸端に設けられたローラギア 51a が、前述のローディングギア機構 44 に係合することによって、ローディングモータ M3 を駆動源として、ディスク挿入方向（正方向）若しくは排出方向（逆方向）に回転するように構成されている。

【0026】

[6. ドライブベースユニット (図 75～図 94)]

ドライブベースユニット 60 は、分割されたディスクホルダ 10 内に振り込まれるプレートであるドライブベース 61 と、このドライブベース 61 上に設けられたドライブユニット 62 を備えている。ドライブユニット 62 は、ターンテーブル 63 やピックアップユニット 65a 等、ディスク D の再生に必要な部材を備えている。また、ドライブベース 61 には、ドライブユニット 62 をダンパー 66 のみによって弾性支持するフローティング状態と、ドライブベースユニット 60 上に固定するロック状態との切り替えを行うフローティングロック機構が設けられている。つまり、ドライブベース 61 が分割されたディスクホルダ 10 内に振り込まれると、ドライブユニット 62 がフローティング状態となり、所望のディスクがターンテーブル 63 上にセットされ、ピックアップユニット 65a による再生が行われるように構成されている。

【0027】

[C. 各ユニットの構成と機能の詳細]

さらに、図 1～図 94 を参照しながら、各ユニットの構成と機能について、より詳細に説明する。

[1. ディスクホルダ]

[1-1. ホルダプレート]

ホルダプレート 11 は、図 5～図 8 に示すように、略扇形のプレートであり、その円弧部分は、ディスク外縁に沿うとともに、半円よりもやや短く形成されている。ホルダプレート 11 には、ローシャーシユニット 20 の右側面及び後側面に対応する位置に、ディスクセクタ 41A, 41B が係合する突起 14a が設けられている。そして、ホルダプレート 11 にはガイド穴 14b が形成されており、このガイド穴 14b には、ローシャーシユニット 20 の内底から垂直方向に立ち上げられた 4 本のガイドシャフト 20a (図 1 参照) が挿通されている。さらに、ホルダプレート 11 の後部には、後述するディスクストッパ 25B の凸部 25Ba が入るための凹部 14c が形成されている。なお、他の図面においては図示を省略したが、図 5 に示すように、最上段のホルダプレート 11 の上部には、上記の突起 11a、ガイド穴 14b 及び凹部 14c に対応する突起 12a、ガイド穴 12b 及び凹部 12c が設けられた上面板 12 が配設されている。

【0028】

この上面板 12 及び最下層のホルダプレート 11 には、図 5 及び図 7 に示すように、係留突起 12d, 14d が設けられており、この係留突起 12d, 14d には、図 9 及び図 10 に示すように、垂直方向の引張コイルばねであるスプリング 14e の上下の端部が取り付けられている。このため、全てのホルダプレート 11 は、スプリング 14e によって、互いに近接する方向 (ディスクホルダ 10 が閉じる方向) に付勢されている。そして、上述のように、ディスクホルダ 10 は、ディスクローディング時及びディスク再生時には、ディスク D の上下のホルダプレート 11 が退避するように構成されているが、図 11～図 13 に示すように、ディスクローディング時及びディスク再生時におけるディスクホルダ 10 の開き量 A の寸法は同じとなるように、且つ、図 16 に示すように、ディスクローディング時におけるディスク D の位置 (ディスク挿入口 31 に対応する位置) が、ディスク再生時におけるディスク D の位置よりも、寸法 B だけ高くなるように設定されている。

【0029】

また、図 5～図 8 に示すように、各ホルダプレート 11 におけるディスク D の

センターホールに対応する位置には、略円形の穴 11a が形成されている。この穴 11a には、ディスク内縁に当接する 3 つの当接爪 11b が設けられている。さらに、図 3、図 2 及び図 60 に示すように、ローシャーシユニット 20 に装着されたディスクホルダ 10 は、その穴 11a の中心が、平面方向から見て、ディスク挿入口 31 の中心から、やや右方にずれた位置となるように設定されている。

【0030】

[1-2. ディスク保持機構]

ディスク保持機構 15 は、上記の当接爪 11b とともに、ディスク D の内縁を保持する機構である。すなわち、ディスク保持機構 15 は、図 17 及び図 18 に示すように、ディスク D の半径方向にスライド移動可能に設けられたディスクホルドアーム 16 と、このディスクホルドアーム 16 の移動に従って、ディスク D の内縁に係脱するディスクホルドリंक 17, 18 によって構成されている。

【0031】

ディスクホルドアーム 16 には、図 19 及び図 20 に示すように、そのディスク外縁側の端部に、後述するディスクストッパ 25A の凸部 25Aa によって押圧される被押圧部 16a が設けられるとともに、トーションスプリング 16c によってディスク外縁側へ付勢されている。また、ディスクホルドアーム 16 におけるディスク中心側の端部には、ピン 16b が設けられている。

【0032】

ディスクホルドリंक 17, 18 は、図 17 に示すように、それぞれが略 L 字形のプレートであり、その一端にディスク D の内縁に係合する係合爪 17a, 18a が設けられている。このディスクホルドリंक 17, 18 は、図 6 及び図 7、図 19 に示すように、互いの係合爪 17a, 18a が相反する（開く）方向に向いてディスク D に係合するように、その係合爪 17a, 18a と反対側の端部が重ねられ、ホルダプレート 11 の穴 11a の縁に設けられた共通の軸 19 を中心に、回動可能に構成されている。

【0033】

そして、ディスクホルドリック 17, 18 には、略くの字形状のカム穴 17b, 18b が形成されており、このカム穴 17b, 18b には、ディスクホルドアーム 16 のピン 16b がスライド移動可能となるように挿通されている。このため、図 20 に示すように、被押圧部 16a を押されたディスクホルドアーム 16 が、ディスク D の中心側にスライド移動すると、カム穴 17b, 18b に沿ってピン 16b が移動するので、ディスクホルドリック 17, 18 が、互いの係合爪 17a, 18a を閉じる（接近する）方向に回転して、ディスク内縁を解放するように構成されている。

【0034】

[2. ロワーシャーシユニット]

[2-1. カムギア]

ローシャーシユニット 20 の内底面に回転可能に設けられた円形のカムギア 21 は、図 21 及び図 22 に示すように、その外縁に円弧状のギア溝 21a が形成されている。このギア溝 21a には、カムギア駆動モータ M1 を駆動源として作動するカムギア駆動ギア機構 22a が係合している。また、カムギア 21 には、ディスクホルダ 10 を所望の位置で分割してドライブベースユニット 60 の振込みスペースを形成するために、ディスクセクタ 41A, 41B を制御するディスクセクタ駆動制御カム 21b、ドライブベースユニット 60 を回転させて振込みスペースへの振り込み及び振り出しを行うためのドライブユニット駆動制御カム 21c、ディスク D の保持／解放を制御するためのディスクストップ駆動制御カム 21d、ローディングブロック 50 を前後動させるためのローディングブロック駆動制御カム 21e が形成されている。

【0035】

カムギア 21 に設けられた各カムは、カムギア 21 と同心であって、回転径の異なる複数の円弧を連通させたものであり、各カムに挿通されたピンがいずれの箇所に移動するかによって、ピンが設けられた制御対象の位置が決定されるように構成されている。すなわち、ディスクセクタ駆動制御カム 21b は、図 23～図 27 に示すように、ディスクセクタ 41A, 41B を初期位置（0）とする部分、所望のホルダプレート 11 の上下のホルダプレート 11 を退避させるホ

ルダー開き位置（１）とする部分、所望のホルダプレート１１を下降させてディスクから退避させるホルダー開き位置（２）とする部分、全てのホルダプレート１１を上下にさらに退避させるホルダー開き位置（３）とする部分を有している。

【００３６】

ディスクストッパ駆動制御カム２１ｄは、図３２及び図３３に示すように、後述するディスクストッパ２５Ａ、２５Ｂを、ディスクＤを解放するリリース位置（１）とする部分と、ディスクＤを把持するホールド位置（２）とする部分とを有している。ローディングブロック駆動制御カム２１ｅは、図３９～図４１に示すように、ローディングローラ５１をディスクＤから解放するリリース位置（０）とする部分と、ローディングローラ５１を後方に移動させてディスクＤを保持可能なホールド位置（１）とする部分と、ローディングローラ５１をさらに後方に移動させてディスクローディング及びアンローディング可能なホールド位置（２）とする部分とを有している。さらに、ドライブユニット駆動制御カム２１ｃは、図４３に示すように、ドライブベース６１を初期位置（１）に保持する部分と、ドライブベース６１を回動位置（２）とする部分を有している。

以下、ローシャーシユニット２０に設けられ、上記のようなカムギア２１によって駆動される各機構を説明する。

【００３７】

〔２－２．ディスクセクタ駆動機構〕

まず、ドライブシャーシユニット４０に設けられたディスクセクタ４１Ａ、４１Ｂを駆動するディスクセクタ駆動機構２４を説明する。すなわち、ディスクセクタ駆動機構２４は、図２１及び図２３に示すように、ディスクセクタ４１Ａ、４１Ｂに直接接して駆動するディスクセレクトプレート２４Ａ、２４Ｂと、カムギア２１からの駆動力を、ディスクセレクトプレート２４Ａ、２４Ｂに伝達するディスクセレクトプレート２４Ｃ、２４Ｄを備えている。

【００３８】

ディスクセレクトプレート２４Ａは、図２８（Ａ）（Ｂ）に示すように、ローシャーシユニット２０の内底に沿った水平面と後側面に沿った垂直面を有する

プレートであり、左右方向にスライド移動可能に設けられている。ディスクセレクトプレート 24A の垂直面には、ディスクセクタ 41A に設けられたピン 41Ad との連結用の凹部 24Aa が形成されており、水平面には、ディスクセレクトプレート 24C に設けられたピン 24Ca との連結用の凹部 24Ab が形成されている。

【0039】

ディスクセレクトプレート 24B は、図 29 (A) (B) (C) に示すように、ローシャーシユニット 20 の内底に沿った水平面と右側面に沿った垂直面を有するプレートであり、前後方向にスライド移動可能に設けられている。ディスクセレクトプレート 24B の垂直面には、ディスクセクタ 41B に設けられたピン 41Bd との連結用の凹部 24Ba が形成されており、水平面には、ディスクセレクトプレート 24C に設けられたピン 24Cb との連結用の凹部 24Bb が形成されている。

【0040】

ディスクセレクトプレート 24C は、図 30 に示すように、略半円形状のプレートであり、カムギア 21 の軸の近傍に設けられた軸を中心として、ローシャーシユニット 20 の内底に回転可能に設けられている。そして、上述のように、ディスクセレクトプレート 24C は、ピン 24Ca, 24Cb を介して、ディスクセクタ 41A, 41B に動力を伝達可能に設けられている。また、ディスクセレクトプレート 24C には、ディスクセレクトプレート 24D からの付勢力が伝達されるピン 24Cc も設けられている。

【0041】

ディスクセレクトプレート 24D は、図 31 (A) (B) に示すように、クランク形状のプレートであり、ローシャーシユニット 20 の内底におけるディスクセレクトプレート 24C の軸の近傍に、左右にスライド移動可能に設けられている。ディスクセレクトプレート 24D には、ディスクセレクトプレート 24C のピン 24Cc との連結用の凹部 24Da が設けられている。また、ディスクセレクトプレート 24D の端部には、カムギア 21 のディスクセクタ駆動制御カム 21b に挿入されたピン 24Db が設けられている。

【0042】

[2-3. ディスクストップ機構]

次に、ディスクホルダ10に収納されたディスクDのうち、再生するディスクDをローディングローラ51との間で把持してホルダプレート11を退避させた後、再生時に解放するディスクストップ機構25を説明する。すなわち、図32に示すように、ディスクストップ機構25は、ディスクDの縁に当接するディスクストップ25A、25B、ディスクストップ25A、25Bを移動させるディスクストップリンク25C、25D、ディスクストップリンク25C、25Dを駆動するディスクストッププレート25E、カムギア21からの駆動力を、ディスクストッププレート25Eに伝達するディスクストッププレート25Fを備えている。

【0043】

ディスクストップ25A、25Bは、図1～図3、図19及び図20に示すように、ディスクストップリンク25C、25Dに設けられた垂直方向のシャフト25Ca、25Daに取り付けられている。ディスクストップ25Aは、図36(A)に示すように、シャフト25Caの移動に従って、ディスク保持機構15におけるディスクホルドアーム16の被押圧部16aを付勢する凸部25Aaと、ディスクDの縁に接離する把持部25Abとを有している。ディスクストップ25Bは、図35(B)に示すように、シャフト25Daの移動に従って、ディスクDに接離する把持部25Bbを有している。

【0044】

ディスクストップリンク25C、25Dは、図21及び図32に示すように、ローシャーシユニット20の内底の後部に、それぞれガイドシャフト20aを軸に回転可能に設けられている。そして、ディスクストップリンク25C、25Dには、図34及び図35に示すように、上記のディスクストップ25A、25Bが取り付けられたシャフト25Ca、25Daが設けられている。さらに、ディスクストップリンク25C、25Dには、ディスクストッププレート25Eの付勢力が伝達されるピン25Cb、25Dbが設けられている。

【0045】

ディスクストッププレート 25 E は、図 3 2 及び図 4 4 に示すように、ローシャーシユニット 20 の外底に、前後にスライド移動可能に設けられている。このディスクストッププレート 25 E には、図 3 7 に示すように、ディスクストップリンク 25 C、25 D のピン 25 C b、25 D b が挿通されたカム穴 25 E a、25 E b が略ハの字状に形成されている。また、ディスクストッププレート 25 E には、ディスクストッププレート 25 F のピン 25 F a が挿通された斜め方向のカム穴 25 E c が設けられている。ディスクストッププレート 25 F は、図 3 2 に示すように、ローシャーシユニット 20 の内底に左右にスライド移動可能に設けられている。このディスクストッププレート 25 F には、図 3 8 に示すように、上記のピン 25 F a が設けられている。また、ディスクストッププレート 25 F には、カムギア 21 のディスクストップ駆動制御カム 21 d に挿通されたピン 25 F b が設けられている。

【0046】

[2-4. 右ローディングブロックスライドプレート]

次に、ローディングブロック 50 を前後動させるための右ローディングブロックスライドプレート 26 を説明する。すなわち、右ローディングブロックスライドプレート 26 は、図 2 1 及び図 3 9 に示すように、ローシャーシユニット 20 の外底に沿った水平部と、右側面に沿った垂直部とを有するプレートであり、その水平部がローシャーシユニット 20 の内底に前後にスライド移動可能に設けられている。右ローディングブロックスライドプレート 26 の垂直部には、図 4 2 に示すように、後述するローディングブロック 50 右端の突出部 5 2 に係合する穴 26 a が設けられている。

【0047】

この穴 26 a は、右ローディングブロックスライドプレート 26 の前後動に従ってローディングブロック 50 を前後動させるが、ドライブシャーシユニット 40 の上下動に従うローディングブロック 50 の昇降を許容するように、縦長の長方形に形成されている。また、右ローディングブロックスライドプレート 26 には、カムギア 21 のローディングブロック駆動制御カム 21 e に挿通されたピン 26 b が設けられている。さらに、右ローディングブロックスライドプレート

26には、後述するシャッターリンクプレート27を駆動するための斜め方向のカム穴26cが形成されている。

【0048】

[2-5. シャッターリンクプレート]

また、ロワーシャーシユニット20には、後述するシャッター開閉機構に駆動力を伝達するためのシャッターリンクプレート27が設けられている。このシャッターリンクプレート27は、図21、図39及び図44に示すように、ロワーシャーシユニット20の外底に沿った水平部と、前面に沿った垂直部を有するプレートであり、その水平部がロワーシャーシユニット20の外底に左右にスライド移動可能に設けられている。シャッターリンクプレート27の垂直部には、シャッター開閉機構における回動プレート34に駆動力を伝達するための凹部27aが設けられている。また、シャッターリンクプレート27の水平部には、ローディングブロックスライドプレート26のカム穴26cに挿通されたピン27bが設けられている。

【0049】

[2-6. ドライブベース駆動プレート]

さらに、ロワーシャーシユニット20には、ドライブベースユニット60を回動させるためのドライブベース駆動プレート28が設けられている。すなわち、ドライブベース駆動プレート28は、図21、図43及び図44に示すように、ロワーシャーシユニット20の外底に沿った水平部と、後面に沿った垂直部とを有するプレートであり、その水平部がロワーシャーシユニット20の外底に左右にスライド移動可能に設けられている。ドライブベース駆動プレート28の垂直部には、図79に示すように、ドライブベースユニット60に駆動力を伝達するための穴28aが形成されている。この穴28aは、ドライブシャーシユニット40の上下動に従うドライブベースユニット60の昇降を許容するように、縦長の長形状に形成されている。また、ドライブベース駆動プレート28の水平部には、カムギア21のドライブユニット駆動制御カム21cに挿通されたピン28bが設けられている。

【0050】

[3. アッパーシャーシユニット]

[3-1. ディスク挿入口開閉機構]

アッパーシャーシユニット 30 のフロントプレート 30 a におけるディスク挿入口 31 は、図 45～図 47 に示すように、その高さ方向の位置がディスク装置の上寄りとなり、その幅方向の位置がディスク装置のほぼ中央となるように形成されている。このディスク挿入口 31 を開閉するシャッタ 32 は、フロントプレート 30 a に上下にスライド移動可能に設けられている。そして、フロントプレート 30 a には、シャッタ開閉プレート 33 が、左右にスライド移動可能に設けられ、このシャッタ開閉プレート 33 に設けられた傾斜カム穴 33 a に、シャッタ 32 に設けられたピン 32 a が挿通されている。これにより、図 46 及び図 47 に示すように、シャッタ開閉プレート 33 の左右方向の移動に従って、傾斜カム穴 33 a が上方若しくは下方にピン 32 a を付勢するので、シャッタ 32 が上下動して、ディスク挿入口 31 が開閉するように構成されている。

【0051】

なお、初期状態でシャッタ 32 が閉位置となるように、シャッタ開閉プレート 33 は、スプリング 33 b によって右方向に付勢されている。また、フロントプレート 30 a には、回動プレート 34 が回動可能に設けられており、この回動プレート 34 の下端には、図 4 に示すように、シャッタリンクプレート 27 の凹部 27 a に係合したピン 34 a が設けられている。そして、この回動プレート 34 の回動に従って、後述するように、シャッタ開閉プレート 33 及び左ローディングブロックスライド機構 35 が作動するように構成されている。

【0052】

[3-2. 左ローディングブロックスライド機構]

左ローディングブロックスライド機構 35 は、図 45～図 49 に示すように、スライドリンク 36、回動リンク 37、左ローディングブロックスライドプレート 38 によって構成されている。スライドリンク 36 は、フロントプレート 30 a に左右にスライド移動可能に設けられ、その右端が、回動プレート 34 の上端に連結されている。また、スライドリンク 36 には、左方向へのスライド移動に応じて、シャッタ開閉プレート 33 の右端を付勢する押圧部 36 a が設けられて

いる。回動リンク 37 は、アッパーシャーシユニット 30 の上面の左前隅に回動可能に設けられ、その一端がスライドリンク 36 の左端に連結されているので、スライドリンク 36 のスライド移動に従って回動するように構成されている。

【0053】

左ローディングブロックスライドプレート 38 は、アッパーシャーシユニット 30 の上面に沿った水平部と、左側面に沿った垂直部とを有するプレートであり、その水平部がアッパーシャーシユニット 30 の上面に、前後にスライド移動可能に設けられている。この左ローディングブロックスライドプレート 38 の水平部には、回動リンク 37 の他端が連結されているので、回動リンク 37 の回動に従ってスライド移動するように構成されている。左ローディングブロックスライドプレート 38 の垂直部には、図 49 に示すように、後述するローディングブロック 50 左端のピン 53 に係合する溝 38 a が設けられている。この溝 38 a は、左ローディングブロックスライドプレート 38 の前後動に従ってローディングブロック 50 を前後動させるが、ドライブシャーシユニット 40 の上下動に伴うローディングブロック 50 の昇降を許容するように、縦長に形成されている。

【0054】

[3-3. ドライブシャーシ昇降プレート]

ドライブシャーシ昇降プレート 34 A, 34 B は、図 4 及び図 44 に示すように、アッパーシャーシユニット 30 の前後の面に、左右にスライド移動可能に設けられている。この一对のドライブシャーシ昇降プレート 34 A, 34 B は、ローシャーシユニット 20 の外底面に回動可能に設けられたリンクプレート 20 b によって、互いに相反する方向にスライド移動するように連結されている。そして、ドライブシャーシ昇降プレート 34 A, 34 B には、それぞれ階段状カム 34 A a (34 B 側は図示を省略) が形成されており、これらの階段状カム 34 A a に、後述するドライブシャーシユニット 40 の前後に設けられたピン 40 a が挿通されることにより、ドライブシャーシ昇降プレート 34 A, 34 B のスライド移動に従って、ドライブシャーシユニット 40 が昇降するように構成されている。

【0055】

また、ドライブシャーシ昇降プレート 34A には、図 4 に示すように、水平方向のラック 34Ab が形成されており、このラック 34Ab に、ローシャーシユニット 20 に設けられたドライブシャーシ昇降モータ M2 に駆動されるドライブシャーシ昇降ギア機構 22b が係合している。従って、ドライブシャーシ昇降モータ M2 が作動すると、ドライブシャーシ昇降ギア機構 22b を介して、ドライブシャーシ昇降プレート 34A がスライド移動し、同時に、図 44 に示すように、リンクプレート 20b を介して、ドライブシャーシ昇降プレート 34B が逆方向にスライド移動するように構成されている。なお、ドライブシャーシ昇降プレート 34A には、図 4 に示すように、方形波形状の溝 34Ac が形成されており、この溝 34Ac をセンサが検知することによって、ドライブシャーシ昇降プレート 34A の位置を検出し、ドライブシャーシユニット 40 の高さを制御できるように構成されている。

【0056】

[3-4. ディスクホルダ分割ガイド]

さらに、アッパーシャーシユニット 30 には、図 48、図 50 及び図 51 に示すように、ディスクホルダ分割ガイド 39A、39B が設けられている。ディスクホルダ分割ガイド 39A は、アッパーシャーシユニット 30 の後上面に沿った水平部と、後側面に平行な垂直部とを有しており、その水平部がアッパーシャーシユニット 30 の上面に左右にスライド移動可能に設けられている。ディスクホルダ分割ガイド 39A の垂直部には、ガイド部 39Aa が設けられている。このガイド部 39Aa は、図 56 に示すように、ディスクホルダ 10 の分割がスムーズに行われるように、ディスクセクタ 41A によって付勢されるホルダプレート 11 の突起 13 に、その付勢方向と反対側から当接する。また、ディスクホルダ分割ガイド 39A の左端（背面側から見て右端）には、ディスクセクタ 41A の端部が当接する当接部 39Ab が設けられている。さらに、ディスクホルダ分割ガイド 39A は、スプリング 39Ac によって右方（ディスク分割時のディスクセクタ 41A の付勢方向と同方向）に付勢されている。

【0057】

ディスクホルダ分割ガイド 39B は、アッパーシャーシユニット 30 の右上面

に沿った水平部と、右側面に平行な垂直部とを有しており、その水平部がアッパースャーシユニット 30 の上面に前後にスライド移動可能に取り付けられている。ディスクホルダ分割ガイド 39B の垂直部には、ガイド部 39Ba が設けられている。このガイド部 39Ba は、ディスクセクタ 41B によって付勢されるホルダプレート 11 の突起 13 に、その付勢方向と反対側から当接する。また、ディスクホルダ分割ガイド 39B の後端（側面側から見て右端）には、ディスクセクタ 41B の端部が当接する当接部 39Bb が設けられている。さらに、ディスクホルダ分割ガイド 39B は、スプリング 39Bc によって前方（ディスク分割時のディスクセクタ 41B の付勢方向と同方向）に付勢されている。

【0058】

[4. ドライブシャーシユニット]

[4-1. ディスクセクタ]

ドライブシャーシユニット 40 は、上記のように、ドライブシャーシ昇降プレート 34A, 34B によって昇降するが、これはディスクセクタ 41A, 41B を、ディスクホルダ 10 の所望の分割位置に位置決めする役割を果たす。このディスクセクタ 41A, 41B は、図 52 に示すように、ドライブシャーシユニット 40 の後内側面及び右内側面にスライド移動可能に設けられている。ディスクセクタ 41A, 41B に形成されたカムは、図 56 (A) (B) に示すように、先端がくさび形状となっており、その移動に従ってホルダプレート 11 の突起 14a に当接する平滑な上段カム 41Aa, 41Ba、下段カム 41Ab, 41Bb 及び中段カム 41Ac, 41Bc を有している。

【0059】

上段カム 41Aa, 41Ba は、再生するディスク D を収納したホルダプレート 11 よりも上方のホルダプレート 11 の突起 14a を上方に付勢するように、上昇する傾斜面とこれに連続した水平面、さらに上昇する傾斜面とこれに連続した水平面を有するカムである。下段カム 41Ab, 41Bb は、再生するディスクを収納したホルダプレート 11 よりも下方のホルダプレート 11 の突起 14a を、下方に付勢するように、下降する傾斜面とこれに連続した水平面、さらに下降する傾斜面とこれに連続した水平面を有するカムである。中段カム 41Ac,

41Bcは、上段カム41Aa、41Baと下段カム41Ab、41Bbとの間に設けられ、再生するディスクを収納したホルダプレート11の突起14aが、その下方のホルダプレート11よりも遅れて下方に移動するように、水平面とこれに連続した下降する傾斜面を有し、さらに下段カム41Ab、41Bbに合流するカムである。

【0060】

[4-2. ディスクガイド]

ディスクガイド42は、図60に示すように、ドライブシャーシユニット40内の左部に設けられ、ディスクホルダ10内へのディスクの搬入の際に、ディスクDの左縁が当接するように構成されている。より具体的には、図61～図66(A)～(C)に示すように、ディスクガイド42は、正面方向から見て、一枚のディスクが通過可能な略コの字形を有する部材であり、その左内側面には、平面方向から見て右上がりとなる傾斜面42aが形成されている。これにより、図60、図62～図65に示すように、ディスク搬入時に、ディスク挿入口31からローディングローラ51に直交する方向に挿入されたディスクは、その左縁が傾斜面42aに当接することによって進路を変え、平面方向から見て斜め右上方向に案内される。また、ディスク搬出時には、平面方向から見て斜め左下方向に引き出されたディスクは、その左縁が傾斜面42aに当接することによって、ローディングローラ51に直交する方向に進路を変えて、ディスク挿入口31から排出される。従って、図60及び図62に示すように、平面方向から見て、ディスクホルダ10の中心C1が、ディスク挿入口31におけるディスクDのセンターホールから右側にずれていても、図60、図63～図65に示すように、ディスクDは、ディスクホルダ10に対して正確に搬入、搬出される。

【0061】

[5. ローディングブロック]

ローディングローラ51を備えたローディングブロック50は、図67～図71に示すように、上下のローディングプレート50a、50bを組み合わせた長方形のフレームであり、その右端に設けられた突出部52が、図52に示すように、ドライブシャーシユニット40の右側面に形成された前後方向のスリット

40bに、スライド移動可能に挿通されている。また、ローディングブロック50の左端に設けられたピン53は、図55に示すように、ドライブシャーシユニット40の左側面に形成された前後方向のスリット40cに、スライド移動可能に挿通されている。

【0062】

そして、上述の図39～図42に示すように、突出部52は右ローディングブロックスライドプレート26の穴26aに係合し、図49に示すように、ピン53は左ローディングブロックスライドプレート38の溝38aに係合している。このため、左右のローディングブロックスライドプレート26, 28の移動に従って、ローディングブロック50が前後にスライド移動するように構成されている。

【0063】

また、ローディングブロック50が後方に移動すると、図73及び図74に示すように、ローラギア51aがローディングギア機構44のギア44aに係合するが、このとき、ローラギア51aとギア44aとを、バックラッシュをキープしつつ噛み合わせるために、ローディングローラ51の右端には、ローラギア51aと同中心のローラスリーブ51bが設けられ、ローディングギア機構44には、ギア44aと同中心のストッパプレート44bが設けられている。

【0064】

そして、図61に示すように、ローディングブロック50における上方のローディングプレート50aの下面は、ローディングローラ51との間でディスクDを挟持するローラガイドとなっている。さらに、図68及び図69に示すように、ローディングブロック50には、ディスクホルダ10からディスクDが引き出される際に、ディスクの縁に当接してディスクDを左方に付勢する付勢ガイド55が設けられている。この付勢ガイド55は、水平方向に回転可能に設けられ、図示しないスプリングによって、図中反時計方向に付勢されている。

【0065】

[6. ドライブベースユニット]

[6-1. ドライブベース]

ドライブベース 61 は、図 52 に示すように、ドライブシャーシユニット 40 内の左側に配設されている。このように配設されたドライブベース 61 の前端は、平面方向から見て、ローディングローラ 51 の左端の下部に配設されている。そして、ドライブベース 61 は、図 77、図 83 (A) ~ (C)、図 87 ~ 図 90 に示すように、ドライブシャーシユニット 40 の後左隅近傍に取り付けられた軸 40 d を中心に、回動可能に設けられている。このドライブベース 61 の回動は、上述のドライブベース駆動プレート 28 によって駆動されるドライブシフトプレート 68 を介して行われる。

【0066】

ドライブシフトプレート 68 は、図 80 (A) (B) に示すように、ドライブシャーシユニット 40 の外底に沿った水平部と、後面に沿った垂直部とを有するプレートであり、図 77 ~ 図 79 に示すように、その水平部がドライブシャーシユニット 40 の外底に左右にスライド移動可能に設けられている。ドライブシフトプレート 68 の垂直部には、図 79 に示すように、ドライブベース駆動プレート 28 の穴 28 a に係合することによって、ドライブベース駆動プレート 28 とともにドライブシフトプレート 68 を移動させるピン 68 a が設けられている。

【0067】

また、ドライブシフトプレート 68 の水平部には、前後方向のカム穴 68 b が形成されている。そして、ドライブベース 61 には、図 83 (A) に示すように、その長手方向に直線状のカム穴 61 a が形成されており、ドライブシフトプレート 68 のカム穴 68 b と、ドライブベース 61 のカム穴 61 a に、後述するリンクシャフト 67 a が挿通されることによって、ドライブシフトプレート 68 の移動に従って、リンクシャフト 67 a が、ドライブベース 61 を回動させる方向に付勢する構成となっている。

【0068】

さらに、ドライブシャーシユニット 40 には、図 77 及び図 88 に示すように、ドライブベース 61 の振り込みをガイドするドライブサポートプレート 72 が、回動可能に設けられている。このドライブサポートプレート 72 には、図 86 (A) (B) に示すように、略円弧状のガイド穴 72 a が形成されており、この

ガイド穴 72 a に、ドライブベース 61 に設けられたガイドピン 61 b b が挿通されることによって、ドライブベース 61 の回動端がガイド穴 72 a の端部で決定されるように構成されている。

【0069】

[6-2. ドライブユニット]

ドライブユニット 62 は、図 1、図 81 (A) (B)、図 91 (A) ~ (C)、図 92 (A) ~ (C) に示すように、これに固定されたピン 62 a が、ドライブベース 61 上に 3 点配置されたダンパー 66 に弾性支持されている。このドライブユニット 62 には、図 75、図 76、図 91 及び図 92 に示すように、ディスクが載置されるターンテーブル 63、ターンテーブルを回転させるスピンドルモータ M5、ターンテーブル 63 上にディスクを押さえるクランパリング 64 a を備えたクランパアーム 64 b、ディスクの信号を読み取るピックアップユニット 65 a、ピックアップユニット 65 a を移動させるスレッドモータ M4、ギア機構 65 c 及び送りねじ 65 d 等、ディスクの再生に必要な部材が配設されている。

【0070】

クランパリング 64 a は、図 82 に示すように、一端がドライブユニット 62 に回動可能に設けられたクランパアーム 64 b の他端に、ターンテーブル 63 上のディスクと同軸に回転可能に取り付けられている。クランパアーム 64 b は、図示しないバネによって、クランパリング 64 a がターンテーブル 63 に圧着する方向に付勢されている。そして、クランパアーム 64 b には、図 92 (A) に示すように、初期状態において、後述する押上部 67 b に当接することによって、クランパアーム 64 b を回動させて、クランパリング 64 a をバネに抗して上方に退避させておく付勢ローラ 64 c が設けられている。

【0071】

なお、上記のように、ドライブベース 61 の前端は、平面方向から見て、ローディングブロック 50 の下部に位置しているが、ディスク D の搬入搬出時には、図 61 に示すように、上方に退避したクランパリング 64 a とターンテーブル 63 との間に、ローディングブロック 50 の一部が入り、ここをディスク D が通過

するように設定されている。さらに、ドライブユニット 62 には、図 81 に示すように、フローティングロック機構 67 にロックされるためのロックピン 62b、ロック溝 62c が設けられている。

【0072】

[6-3. フローティングロック機構]

フローティングロック機構 67 は、図 83 及び図 84 に示すように、ドライブベース 61 上にスライド移動可能に設けられたスライドロックプレート 69 と、ドライブベース 61 に回転可能に設けられたターンロックプレート 70 及びフックプレート 71 を備えている。スライドロックプレート 69 には、図 91 及び図 92 に示すように、そのスライド移動に従って、ドライブユニット 62 のロックピン 62b 及びロック溝 62c に係脱してフローティングロック及びロック解除を行うロック溝 69a 及びロックピン 69b が設けられている。また、スライドロックプレート 69 には、その移動に従って付勢ローラ 64c に接離して、クランプアーム 64 を回転させる押上部 69c が形成されている。

【0073】

そして、スライドロックプレート 69 には、上述のリンクシャフト 67a が固定されており、このリンクシャフト 67a が付勢されることによって、スライドロックプレート 69 がスライド移動するように構成されている。なお、リンクシャフト 67a は、ドライブシャーシユニット 40 に形成されたカム穴 40c にも挿通されている。このカム穴 40c は、図 93 及び図 94 に示すように、ドライブベース 61、ドライブユニット 62 及びスライドロックプレート 69 を一緒に回転させる円弧状部分と、スライドロックプレート 69 をドライブベース 61 上でスライド移動させる直線状部分とを有している。

【0074】

ターンロックプレート 70 には、図 83 及び図 85 に示すように、その回転に従って、ドライブユニット 62 のロック溝 62c に係脱してフローティングロック及びロック解除を行うロックピン 70a が設けられている。このターンロックプレート 70 は、これに固定されたピン 70b が、スライドロックプレート 69 に略くの字状に設けられたカム穴 69d に挿通されることによって、スライドロ



ックプレート 69 のスライド移動に従って回転するように構成されている。

【0075】

フックプレート 71 には、図 83 に示すように、その回転に従って、フローティングロック時にドライブユニット 62 のピン 62a に係合して、ピン 62a をロック溝 69a に対して押し付けるフック 71a を有している。このフックプレート 71 は、これに固定されたピン 71b が、スライドロックプレート 69 に略くの時状に設けられたカム穴 69e に挿通されることによって、スライドロックプレート 69 のスライド移動に従って回転するように構成されている。

【0076】

[7. 検出手段]

以上のようなディスク装置における各構成部材の動作は、図示しない制御回路によってカムギア駆動モータ M1、ドライブシャーシ昇降モータ M2、ローディングモータ M3、スレッドモータ M4、スピンドルモータ M5 の作動を制御することによって行われる。そして、これらの制御回路による制御は、装置内の各部に配置されたスイッチやセンサ等の検出手段による検出結果に基づいて行われるが、これらの検出手段については、以下の動作に必要な場合に限り説明し、図示は省略する。

【0077】

[D. 作用]


上述したような本実施形態の動作について、まず、動作の概要を説明し、次に、ディスクローディング（ディスク挿入及び収納）動作、ディスク再生動作、ディスクアンローディング（ディスクの排出）動作の詳細を順次説明する。

【0078】

[1. 動作の概要]

[1-1. ディスクローディング時の動作の流れ]

まず、ディスクローディング時の動作の流れの概要を、図 95 に従って説明する。なお、図 95 において、M1～M5 は、上述の各モータを示す符号であり、動作内容に対応して作動させるモータには、○印が付されている。すなわち、ドライブシャーシ昇降モータ M2 を作動させて、ディスク D を収納するホルダプレ



ート 11 を選択できる位置に、ドライブシャーシユニット 40 を移動させる。そして、カムギア駆動モータ M1 を作動させてディスクセクタ 41A, 41B をスライド移動させ、選択されたホルダプレート 11 上に、ローディングローラ 51 を入れてディスク D を挿入できるように、ディスクホルダ 10 を開く（ホルダ開き位置（1））。さらに、ドライブシャーシ昇降モータ M2 を作動させて、ドライブシャーシユニット 40 を、ディスクローディング可能な位置、つまりディスク挿入口 31 にローディングローラ 51 が合う位置まで上昇させる。

【0079】

この状態で、継続してカムギア駆動モータ M1 を作動させて、ローディングローラ 51 をディスクホルダ 10 側（後方）に移動させ、ディスク D の保持ができる状態とする。そして、シャッタ 32 を開いてディスク挿入口 31 を開放し、ディスク D が収納されるホルダプレート 11 において、ディスク保持機構 15 のディスクホールドリンク 17, 18 を回動させて係合爪 17a, 17b を閉じ、ホルダプレート 11 の中心がディスクの挿入経路の邪魔にならないように、さらにディスクホルダ 10 を開く（ホルダ開き位置（2））。

【0080】

次に、ディスク挿入口 31 からのディスク挿入がセンサによって検出されると、ローディングモータ M3 が作動して、ローディングローラ 51 がローディング方向（正方向）に回転する。これにより、ディスク D はディスクホルダ 10 内に搬入される。そして、ディスク D が完全にディスクホルダ 10 内に収まったことがセンサにより検出されると、ローディングモータ M3 が停止して、ローディングローラ 51 が回転を止める。さらに、カムギア駆動モータ M1 の作動により、シャッタ 32 がディスク挿入口 31 を閉じ、ローディングローラ 51 とディスクストッパ 25A, 25B によって、ホルダプレート 11 上にディスク D が保持される。

【0081】

このようにディスク D を収納したディスクホルダ 10 が、初期位置の高さになるように、ドライブシャーシ昇降モータ M2 を作動させて、ドライブシャーシユニット 40 を移動させる。そして、カムギア駆動モータ M1 を上記と逆方向に作

動させることにより、ディスクストッパ25A, 25BをディスクDから外し、ローディングローラ51をディスク挿入口31側（前方）に移動させてディスクDから外す。すると、ディスクDが収納されたホルダプレート11のディスク保持機構15において、ディスクホールドリンク17, 18の係合爪17a, 17bが開いて、ディスク内縁を保持する。

【0082】

続いて、ディスクセクタ41A, 41Bをスライド移動させてディスクホルダ10から外し、スプリング14eの付勢力によって、ディスクホルダ10を互いのホルダプレート11が密着した状態とする。さらに、ドライブシャーシ昇降モータM2を作動させて、ドライブシャーシユニット40を初期位置の高さまで移動させる。なお、ディスクDのアンローディング時には、上記と逆の動作過程を辿る。

【0083】

[1-2. ディスク再生時の動作の流れ]

次に、ディスク再生時の動作の流れの概要を、図96を参照して説明する。すなわち、ドライブシャーシ昇降モータM2を作動させて、再生するディスクDが収納されたホルダプレート11を選択できる位置まで、ドライブシャーシユニット40を移動させる。

【0084】

そして、カムギア駆動モータM1を作動させて、ディスクセクタ41A, 41Bをスライド移動させ、選択されたホルダプレート11上にローディングローラ51を挿入できるように、ディスクホルダ10を開く（ホルダ開き位置（1））。この状態で、カムギア駆動モータM1を継続して作動させて、ローディングローラ51をディスクホルダ10側（後方）に移動させるとともに、ディスクストッパ25A, 25BをディスクDに接する方向に移動させることによって、ディスクDを保持する。

【0085】

このディスクDが収納されたホルダプレート11のディスク保持機構15においては、ディスクホールドリンク17, 18の係合爪17a, 17bが閉じてデ



ディスク内縁を解放する。そして、該ホルダプレート 11 が下方に移動してディスク D から離れるように、ディスクホルダ 10 を開く（ホルダ開き位置（2））。ディスク保持機構 15 から解放され、ローディングローラ 51 及びディスクストッパ 25 A, 25 B によって保持されたディスク D の下部にドライブベース 61 が入るように、さらにディスクホルダ 10 を開く（ホルダ開き位置（3））。

【0086】

このようにディスクホルダ 10 を開くことによって生じた空間に、ドライブベース 61 を回動させて、ドライブユニット 62 を振り込ませる。このとき、クランパリング 64 a はディスク D のセンターホールの上部に、ターンテーブル 63 はディスク D のセンターホールの下部に対応する位置に来る。そして、ドライブシャーシユニット 40 を上昇させながら、クランパリング 64 a を閉じることによって、ディスク D をターンテーブル 63 上にチャッキングする。

【0087】

次に、ディスクストッパ 25 A, 25 B をディスク D から外し、ローディングローラ 51 もディスク挿入口 31 側（前方）に移動させて、ディスク D から外す。そして、フローティングロック機構 67 がフローティングロックを解除することによって、ドライブユニット 62 を、ダンパー 66 のみによって支持されたフローティング状態とする。以上の状態で、スレッドモータ M4 を作動させて、ピックアップユニット 65 a を内周まで送り、スピンドルモータ M5 を作動させてディスク D を回転させ、ディスク径方向に移動するピックアップユニット 65 a によって、ディスク D の信号を読み取る。なお、ディスク再生終了後、上記と逆の動作を行うことによって、ディスク D をディスクホルダ 10 内に収納する。

【0088】

[2. 各部の動作の詳細]

以上のような動作の流れにおける各部の動作の詳細を説明する。なお、以下の説明では、各部の動作の前提となる各モータ M1 ~ M5 及びこれに対応するギア機構の作動については、説明を省略する。また、図 97 は、カムギア 21 の動作位置と、ディスク D に対する各部の保持（ホールド）及び解放（リリース）との関係、ディスクホルダ 10 の開き位置との関係を示す図である。

【0089】

[2-1. ディスクローディング時]

まず、ディスクをディスクホルダ10内に収納する際の動作を説明する。なお、以下の説明では、下から3段目の空きホルダプレート11にディスクを収納する例で説明する。すなわち、3段目のホルダプレート11が空きの場合に、図56(A)(B)に示すように、ディスクセクタ41A、41Bにおける中段カム41Ac、41Bcの先端が、3段目の空きホルダプレート11の突起14aに合う高さとなるように、ドライブシャシ昇降プレート34A、34Bを移動させることによって、ドライブシャシユニット40を昇降させる。このとき、カムギア21は、図23に示すように、初期位置にある。

【0090】

そして、図24に示すように、カムギア21をローディング方向（図中反時計方向）に回転させることによって、ディスクセクタ駆動制御カム21b、ディスクセレクトプレート24D、24C、24B、24Aを介して、ディスクセクタ41A、41Bをホルダ開き位置（1）にスライド移動させると、図57(A)(B)に示すように、3段目のホルダプレート11の突起14aが中段カム41Ac、41Bに入り、4段目以上のホルダプレート11の突起14aは上段カム41Aa、41Baによって押し上げられ、2段目以下のホルダプレート11の突起14aは、下段カム41Ab、41Bbによって押し下げられる。従って、3段目のホルダプレート11の上下に、ディスクD及びローディングブロック50を挿入可能な隙間が形成される。

【0091】

さらに、3段目のホルダプレート11上の隙間及びローディングローラ51の位置が、ディスク挿入口31に合うように、ドライブシャシ昇降プレート34A、34Bを移動して、ドライブシャシユニット40を移動させる。そして、図25に示すように、カムギア21をさらにローディング方向に回転させると、図41に示すように、ローディングブロック駆動制御カム21eにおけるピン26bが、リリース位置（0）から、ホールド位置（2）に入るので、右ローディングブロックスライドプレート26が後方に移動する。一方、右ローディングブ

ロックスライドプレート 26 の移動に従って、カム穴 26 c に挿通されたピン 27 b が右側に付勢されるので、シャッタリンクプレート 27 が右にスライド移動する。すると、シャッタリンクプレート 27 の凹部 27 a にピン 34 a が係合した回動プレート 34 が回動するので、スライドリンク 36 が左方に付勢されてスライド移動する。

【0092】

スライドリンク 36 は、図 47 に示すように、シャッタ開閉プレート 33 を左方に付勢するので、シャッタ開閉プレート 33 が左方へスライド移動することにより、傾斜カム穴 33 a に挿通されたピン 32 a が上方に付勢される。従って、ピン 32 a が設けられたシャッタ 32 が上昇してディスク挿入口 31 が開く。同時に、スライドリンク 36 は、左方へ移動することにより回動リンク 37 を回動させ、これに連結された左ローディングブロックスライドプレート 38 を後方にスライド移動させる。以上のように、右ローディングブロックスライドプレート 26 及び左ローディングブロックスライドプレート 38 が後方に移動すると、ローディングブロック 50 は、その右端の突出部 52 が右ローディングブロックスライドプレート 26 の穴 26 a に係合し、左端のピン 53 が左ローディングブロックスライドプレート 38 の溝 38 a に係合しているので、図 2 及び図 72 に示すように、後方にスライド移動する。これにより、図 74 に示すように、ローディングローラ 51 は、そのローラギア 51 a がローディングギア機構 44 のギア 44 a に係合し、ローディングモータ M3 によって回動可能な状態となる。

【0093】

一方、図 32 に示す初期位置から、カムギア 21 が上記のようにローディング方向へ回動することにより、ディスクストッパプレート 25 F におけるピン 25 F b は、ディスクストッパ駆動制御カム 21 d におけるリリース位置 (1) からホールド位置 (2) に入るので、ディスクストッパプレート 25 F が右にスライド移動する。すると、ディスクストッパプレート 25 F のピン 25 F a によって、ディスクストッパプレート 25 E のカム穴 25 E c が付勢され、ディスクストッパプレート 25 E が前方にスライド移動する。これにより、ディスクストッパプレート 25 E のカム穴 25 E a, 25 E b が、ディスクストッパリンク 25 C

、25Dのピン25Cb、25Dbを付勢するので、ディスクストップリンク25Cが反時計方向、ディスクストップリンク25Dが時計方向に回転し、そのシャフト25Ca、25Daが、ディスクDの縁に接近する方向（前方）に移動する。

【0094】

このようなシャフト25Ca、25Daの移動により、ディスクストップ25A、25Bも前方に移動する。これにより、ディスクストップ25Aの凸部25Aaが、ディスクホルドアーム16の被押圧部16aを付勢するので、図2及び図20に示すように、ディスクホルドルink17、18が回転して、係合爪17a、17bが閉じる。また、図25に示すように、カムギア21のさらなる回転に従って、図58（A）（B）に示すように、ディスクセクタ41A、41Bがホルダ開き位置（2）にスライド移動するので、3段目のホルダプレート11の突起14aが、中段カム41Ac、41Bcによって下方に付勢されて下降し、ディスクDの下方の空間がさらに拡大する。

【0095】

以上の状態から、センサによって、ディスク挿入口31からディスクDが挿入されたことが検出されると、ローディングローラ51が正方向に回転し、ディスクDが装置内部に引き込まれる。このように引き込まれる過程で、ディスクDは、図61に示すように、上方に退避したクランプリング64aと、その下方のターンテーブル63との間を通過する。そして、ディスクDは、その右縁が付勢ガイド55によって付勢されながら、図60、図62～図65に示すように、その左縁がディスクガイド42の傾斜面42aに当接することによって進路を変え、平面方向から見て斜め右上方向に案内される。その後、図2に示すように、ディスクDの後縁がディスクストップ25A、25Bの把持部25Ab、25Baによって把持され、ディスクがディスクホルダ10内に収納されたことがセンサによって検出されると、ローディングローラ51が停止する。

【0096】

次に、カムギア21を、上記と逆方向に回転させて、図57に示すように、ディスクセクタ41A、41Bをホルダ開き位置（1）にスライド移動させると

、3段目のホルダプレート11の突起14aが、中段カム41Ac、41Bによって上方に付勢されるので、3段目のホルダプレート11が上昇し、その中心が、ディスクストッパ25A、25B及びローディングローラ51によって保持されたディスクDのセンターホールに合う。

【0097】

また、カムギア21の回転により、図39に示すように、ローディングブロック駆動制御カム21eにおけるピン26bが、ホールド位置(2)から、リリース位置(0)に入るので、右ローディングブロックスライドプレート26が前方に移動するとともに、スライドリンク36が上記と逆に動作することによって、シャッタ32が下降してディスク挿入口31が閉じる。

【0098】

このとき、ディスクホルダ10が初期位置の高さになるように、ドライブシャーシ昇降プレート34A、34Bをスライド移動させることによって、ドライブシャーシユニット40を移動させる。同時に、スライドリンク36の移動に従って、上記のローディング時とは逆に、左ローディングブロックスライドプレート38が前方にスライド移動する。以上のように、右ローディングブロックスライドプレート26及び左ローディングブロックスライドプレート38が前方に移動することによって、ローディングブロック50が、前方にスライド移動して、ディスクDから離れる。

【0099】

一方、図32に示すように、ディスクストッパプレート25Fにおけるピン25Fbは、ディスクストッパ駆動制御カム21dにおけるリリース位置(1)に戻る所以、ディスクストッパプレート25F、ディスクストッパプレート25Eを介して、ディスクストッパリンク25Cが時計方向、ディスクストッパリンク25Dが反時計方向に回動し、そのシャフト25Ca、25DaがディスクDの縁から離れる方向(後方)に移動する。このようなシャフト25Ca、25Daの移動により、ディスクストッパ25A、25Bも後方に移動して、把持部25Ab、25BaがディスクDを解放する。また、ディスクストッパ25Aの凸部25Aaが、ディスクホルダアーム16の被押圧部16aを解放するので、図

3 及び図 19 に示すように、ディスクホルドリック 17, 18 が回転して、係合爪 17a, 17b が開き、ディスク内縁に係合する。

【0100】

このようにディスク D がホルダプレート 11 にセットされた状態で、図 23 に示す位置にカムギア 21 が回転することにより、図 56 (A) (B) に示すように、ディスクセクタ 41A, 41B が初期位置 (0) にスライド移動すると、ホルダプレート 11 の突起 14a が、ディスクセクタ 41A, 41B から解放されるので、ホルダプレート 11 が、スプリング 14e の付勢力によって、互いに接近する方向に移動して、ディスクホルダ 10 が閉じる。そして、ドライブシャーシ昇降プレート 34A, 34B をスライド移動させることによって、ドライブシャーシユニット 40 を初期位置の高さに移動させる。

【0101】

[2-2. ディスク再生時]

次に、ディスク再生時における各部の動作を説明する。なお、以下の説明では、下から 3 段目のホルダプレート 11 に保持されたディスク D を再生する例で説明する。すなわち、図 56 (A) (B) に示すように、ディスクセクタ 41A, 41B における中段カム 41Ac, 41Bc の先端が、3 段目の空きホルダプレート 11 の突起 14a に合う高さとなるように、ドライブシャーシ昇降プレート 34A, 34B を移動させることによって、ドライブシャーシユニット 40 を移動させる。

【0102】

そして、図 26 に示すように、カムギア 21 を再生方向 (図中時計方向) に回転させることによって、ディスクセクタ 41A, 41B をホルダ開き位置 (1) にスライド移動させると、図 57 に示すように、3 段目のホルダプレート 11 の突起 14a が中段カム 41Ac, 41Bc に入り、4 段目以上のホルダプレート 11 の突起 14a は上段カム 41Aa, 41Ba によって押し上げられ、2 段目以下のホルダプレート 11 の突起 14a は、下段カム 41Ab, 41Bb によって押し下げられる。従って、3 段目のホルダプレート 11 にセットされたディスク D の上下に、ローディングブロック 50 を挿入可能な隙間が形成される。

【0103】

この状態で、カムギア 21 をさらに再生方向に回転させると、図 40 に示すように、ローディングブロック駆動制御カム 21 e におけるピン 26 b が、リリース位置 (0) から、ホールド位置 (1) に入るので、右ローディングブロックスライドプレート 26 が後方に移動する。一方、右ローディングブロックスライドプレート 26 の移動に従って、カム穴 26 c に挿通されたピン 27 b が右側に付勢されるので、シャッターリンクプレート 27 が右にスライド移動する。すると、上記と同様に、回転プレート 34 が回転し、スライドリンク 36 が左方にスライド移動するので、回転リンク 37 を介して、左ローディングブロックスライドプレート 38 が後方にスライド移動する。以上のように、右ローディングブロックスライドプレート 26 及び左ローディングブロックスライドプレート 38 が後方に移動すると、上記と同様に、ローディングブロック 50 が後方にスライド移動して、ローディングローラ 51 がディスク D を挟持する。

【0104】

このとき、図 33 に示すように、ディスクストッププレート 25 F におけるピン 25 F b は、ディスクストップ駆動制御カム 21 d におけるリリース位置 (1) からホールド位置 (2) に入るので、ディスクストップリンク 25 C, 25 D は、ディスクストッププレート 25 F, 25 E を介して、シャフト 25 C a, 25 D a がディスク D の縁に接近する方向 (前方) に移動する。このようなシャフト 25 C a, 25 D a の移動により、図 2 及び図 20 に示すように、ディスクストップ 25 A, 25 B も前方に移動して、ディスク D の縁が、ディスクストップ 25 A, 25 B の把持部 25 A b, 25 B a によって把持される。また、ディスクストップ 25 A の凸部 25 A a が、ディスクホルドアーム 16 の被押圧部 16 a を付勢するので、ディスクホルドルink 17, 18 が回転して係合爪 17 a, 17 b が閉じて、ディスク内縁を解放する。

【0105】

このように、ディスク D がディスクストップ 25 A, 25 B 及びローディングローラ 51 によって把持され、ディスク内縁が解放された状態で、カムギア 21 がさらに再生方向に回転すると、その過程で、図 58 に示すように、ディスクセ

レクタ 41A, 41B が、ホルダ開き位置 (3) にスライド移動して、3 段目のホルダプレート 11 の突起 14a が中段カム 41Ac, 41Bc によって下方に付勢されるので、3 段目のホルダプレート 11 が下降してディスク D から離れ、ディスク D の下方の空間が拡大する。

【0106】

さらに、図 27 に示すように、カムギア 21 の回転が進むと、ディスクセクタ 41A, 41B が、ホルダ開き位置 (3) にスライド移動して、図 59 に示すように、3 段目のホルダプレート 11 の突起 14a が下段カム 41Ab, 41Bb に合流し、上方のホルダプレート 11 の突起 14a が上段カム 41Aa, 41Bb の最上段に移動し、3 段目以降のホルダプレート 11 の突起 14a が下段カム 41Ab, 41Bb の最下段に移動する。このため、ディスクホルダ 10 の分割がより一層進み、ディスク D の上下にドライブベースユニット 60 を振込み可能な空間が形成される。

【0107】

また、上記のようなカムギア 21 の回動に従って、図 43 に示すドライブユニット駆動制御カム 21c が移動するので、これに挿通されたピン 28b が回動位置に入ることによって、ドライブベース駆動プレート 28 が右方にスライド移動する。すると、図 79 に示すように、ドライブベース駆動プレート 28 の穴 28a に係合したピン 68a を介して、ドライブシフトプレート 68 が右方にスライド移動する。これにより、図 88 に示すように、ドライブシフトプレート 68 のカム穴 68b 及びドライブベース 61 のカム穴 61a に挿通されたリンクシャフト 67a を介して、ドライブベース 61 が付勢されて、図中反時計方向に回動を開始する。このとき、リンクシャフト 67a は、図 93 に示すように、ドライブシャシユニット 40 のカム穴 40c における円弧状部分を移動する。

【0108】

このようにドライブベース 61 が回動すると、ドライブベース 61 のガイドピン 61b によってガイド穴 72a が付勢されるので、ドライブサポートプレート 72 が時計方向に回動する。そして、ドライブベース 61 は、ガイドピン 61b がガイド穴 72a の端部に達して回動を停止する。このとき、図 87 に示すよう

に、ディスクストッパ 25 A, 25 B 及びローディングローラ 51 によって把持されたディスク D の中心の下部に、ドライブユニット 62 のターンテーブル 63 が位置決めされ、上部にクランパリング 64 a が位置決めされる。

【0109】

さらに、ドライブシャーシ昇降プレート 34 A, 34 B によってドライブシャーシユニット 40 を上昇させながら、引き続きドライブシフトプレート 68 が右方にスライド移動すると、図 94 に示すように、スライドロックプレート 69 のリンクシャフト 67 a が、ドライブシャーシユニット 40 のカム穴 40 c における直線状部分に入って移動する。すると、図 89、図 92 (A) ~ (B) に示すように、スライドロックプレート 69 が移動して、押上部 67 b が付勢ローラ 64 c から外れるので、バネの付勢力によって、クランパーム 64 が下方に回転し、クランパリング 64 a がディスクをターンテーブル 63 に押し付ける。

【0110】

このようにカムギア 21 が回転すると、ディスク D がターンテーブル 63 上にチャッキングされた状態で、ローディングブロック駆動制御カム 21 e におけるピン 26 b が、図 39 に示すホールド位置 (1) から、リリース位置 (0) に入るのので、右ローディングブロックスライドプレート 26 が前方に移動する。同時に、上記のように、左ローディングブロックスライドプレート 38 も前方にスライド移動するので、ローディングブロック 50 が前方にスライド移動して、ディスク D を解放する。

【0111】

一方、カムギア 21 の回転により、ディスクストッパプレート 25 F におけるピン 25 F b が、図 33 に示したディスクストッパ駆動制御カム 21 d のホールド位置 (2) からリリース位置 (1) に入るのので、ディスクストッパプレート 25 F、ディスクストッパプレート 25 E を介して、ディスクストッパリンク 25 C が時計方向、ディスクストッパリンク 25 D が反時計方向に回転し、そのシャフト 25 C a, 25 D a がディスクの縁から離れる方向 (後方) に移動する。このようなシャフト 25 C a, 25 D a の移動により、ディスクストッパ 25 A, 25 B も後方に移動して、把持部 25 A b, 25 B b がディスク D を解放する。

【0112】

さらに、上記のスライドロックプレート69の移動に従って、図90、図91(A)～(C)、図92(A)～(C)に示すように、ドライブユニット62のロックピン62b及びロック溝62cから、ロック溝69a及びロックピン69bが外れる。そして、ターンロックプレート70及びフックプレート71も回転して、ドライブユニット62のロック溝62c及びピン62aから、ロックピン70a及びフック71aが外れる。これにより、ドライブユニット62は、ダンパー66のみによって弾性支持されるフローティング状態となる。

【0113】

このように、ディスクがターンテーブル63上にセットされ、その周囲が解放されるとともに、フローティング状態となった後、ピックアップユニット65aをディスク内周まで移動させ、ターンテーブル63を回転させる。そして、ディスク径方向にピックアップユニット65aを移動させながら、ディスクDの信号を読み取る。

【0114】

[2-3. ディスク再生終了時]

次に、ディスク再生終了時において、ディスクDをディスクホルダ10内に戻す際の各部の動作を説明する。なお、以下の説明では、下から3段目のホルダプレート11にディスクDを戻す例で説明する。

【0115】

すなわち、ディスク再生後、カムギア21が、図43に示す初期位置の方向に回転すると、ドライブユニット駆動制御カム21cが移動するので、これに挿通されたピン28bが付勢されることによって、ドライブベース駆動プレート28が左方にスライド移動する。これにより、ドライブベース駆動プレート28の穴28aに係合したピン68aを介して、ドライブシフトプレート68が左方にスライド移動する。

【0116】

すると、図94に示すように、ドライブシフトプレート68のカム穴68bに挿通されたリンクシャフト67aが左方に付勢されるので、ドライブシャシーユ

ニット 40 のカム穴 40 c における直線状部分を左方に移動する。リンクシャフト 67 a の移動により、図 89、図 91 (C) ~ (A)、図 92 (C) ~ (A) に示すように、これが固定されたスライドロックプレート 69 も、ドライブベース 61 上をスライド移動するので、ドライブユニット 62 のロックピン 62 b 及びロック溝 62 c に、ロック溝 69 a 及びロックピン 69 b が係合する。そして、スライドロックプレート 69 の移動に従って、ターンロックプレート 70 及びフックプレート 71 も回転して、ドライブユニット 62 のロック溝 62 c 及びピン 62 a に、ロックピン 70 a 及びフック 71 a が係合する。これにより、ドライブユニット 62 は、ダンパー 66 に対して押し付け固定されるロック状態となる。

【0117】

同時に、カムギア 21 の初期位置への回転により、図 40 に示すように、ローディングブロック駆動制御カム 21 e におけるピン 26 b が、リリース位置 (0) からホールド位置 (1) に入るので、右ローディングブロックスライドプレート 26 が後方に移動する。一方、右ローディングブロックスライドプレート 26 の移動に従って、カム穴 26 c に挿通されたピン 27 b が右側に付勢されるので、シャッタリンクプレート 27 が右にスライド移動する。すると、上記と同様に、回転プレート 34 が回転し、スライドリンク 36 が左方にスライド移動するので、回転リンク 37 を介して、左ローディングブロックスライドプレート 38 が後方にスライド移動する。以上のように、右ローディングブロックスライドプレート 26 及び左ローディングブロックスライドプレート 38 が後方に移動すると、上記と同様に、ローディングブロック 50 が後方にスライド移動して、ローディングローラ 51 がディスク D を挟持する。

【0118】

また、ディスクストッパプレート 25 F におけるピン 25 F b は、図 33 に示すように、ディスクストッパ駆動制御カム 21 d におけるリリース位置 (1) からホールド位置 (2) に入るので、ディスクストッパプレート 25 F、25 E を介して、ディスクストッパリンク 25 C、25 D は、そのシャフト 25 C a、25 D a がディスクの縁に接近する方向 (前方) に移動する。このようなシャフト

25Ca, 25Daの移動により、ディスクストッパ25A, 25Bも前方に移動して、ディスクDの縁が、把持部25Ab, 25Baによって把持される。

【0119】

そして、上記のようなスライドロックプレート69の移動に従って、図92 (C) ~ (A) に示すように、押上部67bが付勢ローラ64cに当接するので、バネの付勢力に抗して、クランパーム64が上方に回動し、クランパリング64aがディスクDから離れる。このように、ディスクDがローディングローラ51及びディスクストッパ25A, 25Bによって把持され、クランパリング64a及びターンテーブル63から解放された状態で、カムギア21の回転が進行すると、ドライブベース駆動プレート28がさらに左方にスライド移動する。すると、ドライブベース駆動プレート28の穴28aに係合したピン68aを介して、ドライブシフトプレート68が左方にスライド移動する。

【0120】

これにより、図88に示すように、ドライブシフトプレート68のカム穴68b及びドライブベース61のカム穴61aに挿通されたリンクシャフト67aを介して、ドライブベース61が左方に付勢されて、図中時計方向に回動する。このとき、リンクシャフト67aは、図93に示すように、ドライブシャーシユニット40のカム穴40cにおける円弧状部分を移動する。このようにドライブベース61が回動すると、ドライブベース61のガイドピン61bによってガイド穴72aが付勢されるので、ドライブサポートプレート72が反時計方向に回動する。そして、図77に示すように、ドライブベース61は、リンクシャフト67aがカム穴40cの端部に達して、初期位置に戻った状態で回動を停止する。

【0121】

上記のようなカムギア21の回動に従って、図26及び図57に示すように、ディスクセクタ41A, 41Bは、ホルダ開き位置(1)にスライド移動して、3段目のホルダプレート11の突起14aが中段カム41Ac, 41Bcによって上方に付勢されるので、3段目のホルダプレート11が上昇し、その中心が、ディスクストッパ25A, 25B及びローディングローラ51によって保持されたディスクDのセンターホールに合う。

【0122】

さらにカムギア 21 が回転することにより、図 32 に示すように、ディスクストッププレート 25 F におけるピン 25 F b が、ディスクストップ駆動制御カム 21 d におけるリリース位置 (1) に戻るので、ディスクストッププレート 25 F、ディスクストッププレート 25 E を介して、ディスクストップリンク 25 C、25 D は、そのシャフト 25 C a、25 D a がディスク D の縁から離れる方向 (後方) に移動する。このようなシャフト 25 C a、25 D a の移動により、ディスクストップ 25 A、25 B も後方に移動して、把持部 25 A b、25 B a がディスク D を解放する。また、ディスクストップ 25 A の凸部 25 A a が、ディスクホルダアーム 16 の被押圧部 16 a を解放するので、図 3 及び図 19 に示すように、ディスクホルドリック 17、18 が回転して、係合爪 17 a、17 b が開き、ディスク内縁に係合する。

【0123】

これとともに、図 39 に示すように、ローディングブロック駆動制御カム 21 e におけるピン 26 b が、ホルダ位置 (1) から、リリース位置 (0) に入る所以、右ローディングブロックスライドプレート 26 が前方に移動する。同時に、上記と同様に、スライドリンク 36 の移動に従って、左ローディングブロックスライドプレート 38 が前方に移動する。これにより、ローディングブロック 50 が前方にスライド移動して、ディスク D を解放する。

【0124】

このようにディスクがホルダプレート 11 にセットされた状態で、図 23 及び図 56 に示すように、ディスクセクタ 41 A、41 B が初期位置 (0) にスライド移動すると、ホルダプレート 11 の突起 14 a が、ディスクセクタ 41 A、41 B から解放されるので、上記のように、ディスクホルダ 10 が閉じる。そして、ドライブシャーシ昇降プレート 34 A、34 B をスライド移動させることによって、ドライブシャーシユニット 40 を初期位置の高さに移動させる。

【0125】

[2-4. ディスクアンローディング時]

さらに、ディスク D を装置から排出する際の各部の動作を説明する。なお、以

下の説明では、下から３段目の空きホルダプレート１１からディスクＤを排出する例で説明する。すなわち、３段目のホルダプレート１１にディスクＤが収納されている場合に、ディスクＤの排出指示が入力されると、図２３に示すように、ディスクセクタ４１Ａ、４１Ｂにおける中段カム４１Ａｃ、４１Ｂｃの先端が、３段目の空きホルダプレート１１の突起１４ａに合う高さとなるように、ドライブシャーシ昇降プレート３４Ａ、３４Ｂを移動させることによって、ドライブシャーシユニット４０を昇降させる。このとき、カムギア２１は、図５６に示すように、初期位置にある。

【０１２６】

そして、図５７に示すように、カムギア２１をローディング方向に回転させることによって、ディスクセクタ駆動制御カム２１ｂ、ディスクセレクトプレート２４Ｄ、２４Ｃ、２４Ｂ、２４Ａを介して、ディスクセクタ４１Ａ、４１Ｂをホルダ開き位置（１）にスライド移動させると、図５８に示すように、３段目のホルダプレート１１の突起１４ａが中段カム４１Ａｃ、４１Ｂに入り、４段目以上のホルダプレート１１の突起１４ａは上段カム４１Ａａ、４１Ｂａによって押し上げられ、２段目以下のホルダプレート１１の突起１４ａは、下段カム４１Ａｂ、４１Ｂｂによって押し下げられる。従って、３段目のホルダプレート１１の上下に、ディスクＤ及びローディングブロック５０を挿入可能な隙間が形成される。

【０１２７】

さらに、３段目のホルダプレート１１上の隙間及びローディングローラ５１の位置が、ディスク挿入口３１に合うように、ドライブシャーシ昇降プレート３４Ａ、３４Ｂを移動して、ドライブシャーシユニット４０を移動させる。このようにカムギア２１を回転させると、図４１に示すように、ローディングブロック駆動制御カム２１ｅにおけるピン２６ｂが、リリース位置（０）から、ホールド位置（２）に入るので、右ローディングブロックスライドプレート２６が後方に移動する。一方、右ローディングブロックスライドプレート２６の移動に従ってシャッタリンクプレート２７が右にスライド移動するので、上記のように、回転プレート３４、スライドリンク３６を介して、シャッタ開閉プレート３３が左方に

移動する。

【0128】

このようなシャッタ開閉プレート 33 の移動により、図 47 に示すように、シャッタ 32 が上昇してディスク挿入口 31 を開く。同時に、スライドリンク 36 は、回動リンク 37 を介して、左ローディングブロックスライドプレート 38 を後方にスライド移動させる。以上のように、右ローディングブロックスライドプレート 26 及び左ローディングブロックスライドプレート 38 が後方に移動することにより、ローディングブロック 50 が後方にスライド移動して、ローディングローラ 51 がディスクを挟持する。同時に、ローディングローラ 51 は、ローディングモータ M3 によって回動可能な状態となる。なお、付勢ガイド 55 の端部は、図 2 及び図 60 に示すように、ディスク D の右縁に当接する。

【0129】

一方、ディスクストッパプレート 25 F におけるピン 25 F b が、図 32 に示すディスクストッパ駆動制御カム 21 d のリリース位置 (1) から、ホールド位置 (2) に入るので、ディスクストッパリンク 25 C, 25 D は、ディスクストッパプレート 25 F、ディスクストッパプレート 25 E を介して、シャフト 25 C a, 25 D a がディスク D の縁に接近する方向 (前方) に移動する。このようなシャフト 25 C a, 25 D a の移動により、図 2 及び図 20 に示すように、ディスクストッパ 25 A, 25 B も前方に移動して、ディスク D の縁が、ディスクストッパ 25 A, 25 B の把持部 25 A b, 25 B a によって把持される。また、ディスクストッパ 25 A の凸部 25 A a が、ディスクホールドアーム 16 の被押圧部 16 a を付勢するので、ディスクホールドリンク 17, 18 が回動して係合爪 17 a, 17 b が閉じて、ディスク D の内縁を解放する。

【0130】

さらに、図 25 に示すように、カムギア 21 がローディング方向に回動するに従って、ディスクセレクト 41 A, 41 B が、ホルダ開き位置 (2) にスライド移動するので、図 58 に示すように、3 段目のホルダプレート 11 は、その突起 14 a が中段カム 41 A c, 41 B c によって下方に付勢されて下降して、ディスクの下方の空間がさらに拡大する。

【0131】

以上のように、ホルダプレート11からディスクが解放された状態で、ローディングローラ51が逆方向に回転すると、ディスクがディスクホルダ10から排出される方向に移動を開始する。この過程で、ディスクDは、その右縁が付勢ガイド55によって付勢されながら、図60に示すように、平面方向から見て斜め左下方向に案内されるが、その左縁がディスクガイド42の傾斜面42aに当接することによって、ローディングローラ51に直交する方向に進路を変え、図61に示すように、上方に退避したクランパリング64aと、その下方のターンテーブル63との間を通過する。さらに、ディスクDは、シャッタ32の上昇により開かれたディスク挿入口31から排出され、装置から突出したディスクDを手で引き出すことによって、ディスクDを完全に取り出すことができる。

【0132】

[E. 効果]

以上のような本実施形態によれば、ディスクホルダ10のホルダプレート11からドライブユニット62のターンテーブル63へ所望のディスクDを受け渡し際には、ローディングブロック50におけるローディングローラ51とディスクストッパ機構25におけるディスクストッパ25A、25Bの把持部25Ab、25Bbとによって、ディスクDを一時的に把持することができる。このため、ホルダプレート11は、所望のディスクDから退避する動作を行うのみでよく、カムや駆動機構を簡素化でき、受け渡し動作をスムーズに行うことができる。そして、所望のディスクDの上下のホルダプレート11を退避させて、ドライブユニット62を振り込ませることができるので、ターンテーブル63とクランパリング64aによってディスクDを上下から挟む確実なチャッキングが可能となり、振動に強くなる。

【0133】

また、ディスクDを搬送するためのローディングローラ51を備えたローディングブロック50を、ディスクDの把持にも用いているので、別途ディスク把持のための部材を設ける場合に比べて、部材数の削減と装置の小型化が実現できる。特に、ローディングローラ51自体がディスクDに接離する方向に移動するの

で、ディスクDの搬送及び把持を確実に行うとともに、ディスクDの再生時には、ローディングローラ51をディスクDから退避させることができるので、振動の際の変位を許容する防振ストロークを確保して、ディスクDとの衝突を防止できる。

【0134】

また、ディスクストップ機構25におけるディスクストップ25A、25Bの把持部25Ab、25Bbが、ディスクDの外縁を把持することにより、ホルダプレート11やドライブユニット62の邪魔にならず、確実な位置決めが可能となる。特に、ディスクストップ機構25によるディスクDの把持と、ローディングローラ51によるディスクDの把持とを組み合わせることによって、より確実且つ正確な位置決めが可能となり、振動に強くなる。

【0135】

また、ローディングローラ51及びディスクストップ機構25によるディスクDの把持と同期して、ホルダプレート11のディスク保持機構15がディスクDのセンターホールを解放し、ローディングローラ51及びディスクストップ機構25によるディスクDの解放と同期して、ディスク保持機構15がディスクDのセンターホールを保持するので、ディスクホルダ10のディスク解放から、ディスク位置決め状態、ディスクホルダ10へのディスク収納への移行動作及びその逆の動作を、スムーズに且つ確実に行うことができる。

【0136】

また、ローディングローラ51及びディスクストップ機構25によるディスクDの把持と同期して、ドライブユニット62のクランパリング64aがディスクDのセンターホールを解放し、ローディングローラ51及びディスクストップ機構25によるディスクDの解放と同期して、クランパリング64aがディスクDのセンターホールをターンテーブル63に圧着保持するので、ディスクDの位置決め状態から、ドライブユニット62へのディスクDのセット、ドライブユニット62のディスク解放、ディスク位置Dの決め状態への移行動作及びその逆の動作を、スムーズに且つ確実に行うことができる。

【0137】

さらに、本実施形態によれば、ディスクホルダ10へのディスク収納、ドライブユニット62の振込みとディスク装着、ドライブユニット62の振り出しとディスクホルダ10へのディスク再収納、ディスクホルダ10からのディスク排出という一連の動作において、ディスクホルダ10を分割させる毎に、ローディングローラ51及びディスクストッパ25A、25Bによるディスクの位置決めを行うので、比較的簡素な構成で、ホルダプレート11及びドライブユニット62の衝突を防止しつつ、スムーズに移動させることができる。

【0138】

[F. 他の実施形態]

本発明は、上記のような実施形態に限定されるものではない。例えば、ディスク搬送機構と、これを駆動する機構及びディスクに接離する方向に移動させる機構の具体的構成は、上記の実施形態で例示したものには限定されない。また、ディスクストッパ機構及びこれを駆動する機構の具体的構成も、上記の実施形態で例示したものには限定されない。

【0139】

また、上記の実施形態においては、ローディングローラとローディングプレートとの間でディスクを挟持しているが、上下に配置した一对のローディングローラによって挟持する構成としてもよい。また、ディスクを搬送可能な手段であれば、ローディングローラ以外のものを用いてもよい。また、ディスクホルダやドライブユニットの具体的構成も、上記の実施形態で例示したものには限定されない。

【0140】

また、各部材及びその配置間隔、動作距離等の具体的な数値についても、自由である。また、本発明は、CDやDVD等を扱うディスク装置に適しているが、これに限定されるものではなく、平板状の記録媒体に広く適用可能である。さらに、本発明は、車載用のディスク装置に適しているが、これに限定されるものではなく、据置型、ポータブル型等、種々のディスク装置に適用可能である。

【0141】

【発明の効果】

以上説明したように、本発明によれば、ディスクホルダからドライブユニットへのディスクの受け渡しをスムーズに且つ確実に行うことができるディスク位置決め機構を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明のディスク装置の一実施形態を示す分解斜視図である。

【図 2】

図 1 の実施形態におけるディスクローディング時を示す透視平面図である。

【図 3】

図 1 の実施形態におけるディスクホルダへのディスク収納状態を示す透視平面図である。

【図 4】

図 1 の実施形態の正面図である。

【図 5】

図 1 の実施形態におけるディスクホルダを示す分解斜視図である。

【図 6】

図 5 のディスクホルダにおけるホルダプレート及びディスク保持機構を示す平面図である。

【図 7】

図 5 のディスクホルダの最下層のホルダプレート及びディスク保持機構を示す平面図である。

【図 8】

図 6 のホルダプレートを示す平面図である。

【図 9】

図 5 のディスクホルダを示す背面図である。

【図 10】

図 5 のディスクホルダを示す右側面図である。

【図 11】

図 1 の実施形態において、ディスクホルダを分割し、最下段のホルダプレート

に収納されたディスクをターンテーブルにセットした状態を示す側面図である。

【図 12】

図 1 の実施形態において、ディスクホルダを分割し、下から三段目のホルダプレートに収納されたディスクをターンテーブルにセットした状態を示す側面図である。

【図 13】

図 1 の実施形態において、ディスクホルダを分割し、最上段のホルダプレートに収納されたディスクをターンテーブルにセットした状態を示す側面図である。

【図 14】

最下段のホルダプレートをディスクローディング時の基準高さとした場合のディスクホルダの開き量を示す説明図である。

【図 15】

最上段のホルダプレートをディスクローディング時の基準高さとした場合のディスクホルダの開き量を示す説明図である。

【図 16】

最下段から最上段の途中をディスク挿入時の基準高さとした場合のディスクホルダの開き量を示す説明図である。

【図 17】

図 5 のディスクホルダにおけるディスク保持機構のディスクホールリンクを示す平面図である。

【図 18】

図 5 のディスクホルダにおけるディスク保持機構のディスクホールドアームを示す平面図である。

【図 19】

図 5 のディスクホルダにおけるディスク保持機構によるディスク保持状態を示す平面図である。

【図 20】

図 5 のディスクホルダにおけるディスク保持機構によるディスク解放状態を示す平面図である。

【図 2 1】

図 1 の実施形態におけるロワーシャーシユニットを示す斜視図である。

【図 2 2】

図 2 1 のロワーシャーシユニットに設けられたカムギアを示す平面図である。

【図 2 3】

ディスクセレクトが初期位置にある場合のカムギアを示す平面図である。

【図 2 4】

ディスクローディング時において、ディスクセレクトがホルダ開き位置 (1) にある場合のカムギアを示す平面図である。

【図 2 5】

ディスクローディング時において、ディスクセレクトがホルダ開き位置 (2) にある場合のカムギアを示す平面図である。

【図 2 6】

ディスク再生時において、ディスクセレクトがホルダ開き位置 (1) にある場合のカムギアを示す平面図である。

【図 2 7】

ディスク再生時において、ディスクセレクトがホルダ開き位置 (2) にある場合のカムギアを示す平面図である。

【図 2 8】

ディスクセレクト 4 1 A を駆動するディスクセレクトプレート 2 4 A を示す正面図 (A) 及び平面図 (B) である。

【図 2 9】

ディスクセレクト 4 1 B を駆動するディスクセレクトプレート 2 4 B を示す平面図 (A)、正面図 (B) 及び右側面図 (C) である。

【図 3 0】

ディスクセレクトプレート 2 4 A、2 4 B を駆動するディスクセレクトプレート 2 4 C を示す平面図である。

【図 3 1】

ディスクセレクトプレート 2 4 C を駆動するディスクセレクトプレート 2 4 D

を示す平面図 (A) 及び正面図 (B) である。

【図 3 2】

ディスクストッパ機構がディスクリリース位置にある場合のカムギアを示す平面図である。

【図 3 3】

ディスクストッパ機構がディスクホールド位置にある場合のカムギアを示す平面図である。

【図 3 4】

右のディスクストッパリンクを示す平面図 (A) 及び正面図 (B) である。

【図 3 5】

左のディスクストッパリンクを示す平面図 (A) 及び正面図 (B) である。

【図 3 6】

右のディスクストッパを示す平面図 (A)、左のディスクストッパを示す平面図 (B) である。

【図 3 7】

ディスクストッパを駆動するディスクストッパプレート 25 E を示す平面図である。

【図 3 8】

ディスクストッパプレート 25 E を駆動するディスクストッパプレート 25 F を示す平面図 (A) 及び正面図 (B) である。

【図 3 9】

ローディングブロックがディスクリリース位置にある場合のカムギアを示す平面図である。

【図 4 0】

ローディングブロックがディスクホールド位置 (1) にある場合のカムギアを示す平面図である。

【図 4 1】

ローディングブロックがディスクホールド位置 (2) にある場合のカムギアを示す平面図である。

【図 4 2】

右ローディングブロックスライドプレートを示す平面図（A）及び右側面図（B）である。

【図 4 3】

ドライブベース駆動プレートが初期位置にある場合のカムギアを示す平面図である。

【図 4 4】

図 2 1 のロワーシャーシユニットの外底面図である。

【図 4 5】

図 1 の実施形態におけるアッパーシャーシユニットを示す斜視図である。

【図 4 6】

図 4 5 のアッパーシャーシユニットのシャッタ閉鎖時を示す正面図である。

【図 4 7】

図 4 5 のアッパーシャーシユニットのシャッタ開放時を示す正面図である。

【図 4 8】

図 4 5 のアッパーシャーシユニットを示す平面図である。

【図 4 9】

図 4 5 のアッパーシャーシユニットを示す左側面図である。

【図 5 0】

図 4 5 のアッパーシャーシユニットを示す背面図である。

【図 5 1】

図 4 5 のアッパーシャーシユニットを示す右側面図である。

【図 5 2】

図 1 の実施形態におけるドライブシャーシユニットを示す斜視図である。

【図 5 3】

図 5 3 のドライブシャーシユニットのフレームを示す平面図である。

【図 5 4】

図 5 3 の背面図である。

【図 5 5】

図 53 の左側面図である。

【図 56】

初期位置のディスクセクタ及び突起を示す説明図 (A)、同状態のディスク装置の透視背面図 (B) である。

【図 57】

ホルダ開き位置 (1) のディスクセクタ及び突起を示す説明図 (A)、同状態のディスク装置の透視背面図 (B) である。

【図 58】

ホルダ開き位置 (2) のディスクセクタ及び突起を示す説明図 (A)、同状態のディスク装置の透視背面図 (B) である。

【図 59】

ホルダ開き位置 (3) のディスクセクタ及び突起を示す説明図 (A)、同状態のディスク装置の透視背面図 (B) である。

【図 60】

図 1 の実施形態におけるディスクの挿排経路を示す平面図である。

【図 61】

図 1 の実施形態におけるディスクの挿排時のドライブユニットとローディングブロックとの位置関係を示す側面図である。

【図 62】

ディスク挿入開始時におけるターンテーブル、ディスクガイド及びディスクホルダ中心と、ディスクとの位置関係を示す説明図である。

【図 63】

ディスク挿入途中におけるターンテーブル、ディスクガイド及びディスクホルダ中心と、ディスクとの位置関係を示す説明図である。

【図 64】

ディスク挿入途中におけるターンテーブル、ディスクガイド及びディスクホルダ中心と、ディスクとの位置関係を示す説明図である。

【図 65】

ディスクホルダへのディスク収納時におけるターンテーブル、ディスクガイド

及びディスクホルダ中心と、ディスクの位置関係を示す説明図である。

【図 6 6】

図 1 のドライブシャーシユニットにおけるディスクガイドを示す平面図 (A)、正面図 (B) 及び右側面図 (C) である。

【図 6 7】

図 1 のドライブシャーシユニットにおけるローディングブロックを示す正面図である。

【図 6 8】

図 6 7 のローディングブロックの平面図である。

【図 6 9】

図 6 7 のローディングブロックにおける上側のローディングプレートを示す平面図である。

【図 7 0】

図 6 7 のローディングブロックにおける下側のローディングプレートを示す平面図である。

【図 7 1】

図 7 0 のローディングプレートの正面図である。

【図 7 2】

図 6 7 のローディングブロックにおけるローディングローラの移動を示す平面図である。

【図 7 3】

図 6 7 のローディングブロックにおけるローラギアとローディングギア機構とが離れた状態を示す透視側面図である。

【図 7 4】

図 6 7 のローディングブロックにおけるローラギアとローディングギア機構とが係合した状態を示す透視側面図である。

【図 7 5】

図 5 3 のドライブシャーシユニットにおけるドライブユニットを示す斜視図である。

【図 7 6】

図 7 5 のドライブユニットの透視平面図である。

【図 7 7】

図 7 6 のドライブシャーシユニットにおけるドライブベースの初期状態を示す透視平面図である。

【図 7 8】

図 7 6 のドライブシャーシユニットの透視左側面図である。

【図 7 9】

図 7 6 のドライブシャーシユニットの背面図である。

【図 8 0】

図 7 6 のドライブシャーシユニットにおけるドライブシフトプレートを示す平面図 (A) 及び左側面図 (B) である。

【図 8 1】

図 7 5 のドライブユニットのフレームを示す平面図 (A) 及び右側面図 (B) である。

【図 8 2】

図 7 5 のドライブユニットにおけるクランパーム及びクランパリングを示す平面図 (A) 及び右側面図 (B) である。

【図 8 3】

図 7 7 のドライブベースを示す左側面図 (A)、平面図 (B) 及び背面図 (C) である。

【図 8 4】

図 8 3 のドライブベース上に配設されるスライドロックプレートを示す左側面図 (A) 及び平面図 (B) である。

【図 8 5】

図 8 3 のターンロックプレートを示す平面図である。

【図 8 6】

図 5 3 のドライブシャーシユニットにおけるドライブサポートプレートを示す平面図である。

【図 8 7】

図 1 の実施形態におけるドライブユニットの振込み状態を示す平面図である。

【図 8 8】

図 1 の実施形態におけるドライブベースの回転開始状態を示す平面図である。

【図 8 9】

図 1 の実施形態におけるドライブベースのフローティングロック解除開始状態を示す平面図である。

【図 9 0】

図 1 の実施形態におけるドライブベースのフローティング状態を示す平面図である。

【図 9 1】

図 1 の実施形態におけるドライブユニットの初期状態 (A)、フローティングロック解除開始状態 (B)、フローティング状態 (C) を示す左側面図である。

【図 9 2】

図 1 の実施形態におけるドライブユニットの初期状態 (A)、フローティングロック解除開始状態 (B)、フローティング状態 (C) を示す右側面図である。

【図 9 3】

ドライブベースユニットにおけるドライブベース回転時のドライブシフトプレート及びリンクシャフトを示す部分平面図である。

【図 9 4】

ドライブベースユニットにおけるフローティングロック解除時のドライブシフトプレート及びリンクシャフトを示す部分平面図である。

【図 9 5】

図 1 の実施形態におけるディスクローディング時の動作の流れを示す説明図である。

【図 9 6】

図 1 の実施形態におけるディスク再生時の動作の流れを示す説明図である。

【図 9 7】

図 1 の実施形態におけるカムギアの回転位置と各部の状態、ディスクホルダの開

き位置との関係を示す説明図である。

【符号の説明】

10…ディスクホルダ

11…ホルダプレート

11a, 26a, 28a…穴

11b…当接爪

12…上面板

12a, 13, 14a…突起

12b, 14b, 72a…ガイド穴

12c, 14c, 24Aa, 24b, 24Ba, 24Bb, 24Da, 27a…

凹部

12d, 14d…係留突起

14e, 33b, 39Ac, 39Bc…スプリング

15…ディスク保持機構

16…ディスクホールドアーム

16a…被押圧部

16b, 24Ca, 24Cb, 24Cc, 24Db, 25Cb, 25Fa, 25Fb, 26b, 27b, 28b, 32a, 34a, 40a, 41d, 41e, 53, 62a, 68a, 70b, 71b…ピン

16c…トーションスプリング

17, 18…ディスクホールドリンク

17a, 18a…係合爪

17b, 18b, 25Ea, 25Ec, 26c, 40c, 61a, 68b, 69d, 69e…カム穴

19, 40d…軸

20…ローシャーシユニット

20a…ガイドシャフト

20b…リンクプレート

21…カムギア

2 1 a …ギア溝
2 1 b …ディスクセレクト駆動制御カム
2 1 c …ドライブユニット駆動制御カム
2 1 d …ディスクストッパ駆動制御カム
2 1 e …ローディングブロック駆動制御カム
2 2 a …カムギア駆動ギア機構
2 2 b …ドライブシャーシ昇降ギア機構
2 4 …ディスクセレクト駆動機構
2 4 A, 2 4 B, 2 4 C, 2 4 D …ディスクセレクトプレート
2 5 …ディスクストッパ機構
2 5 A, 2 5 B …ディスクストッパ
2 5 A a, 2 5 B a …凸部
2 5 A b, 2 5 B b …把持部
2 5 C, 2 5 D …ディスクストッパリンク
2 5 C a, 2 5 D a …シャフト
2 5 E, 2 5 F …ディスクストッパプレート
2 6 …右ローディングブロックスライドプレート
2 7 …シャッタリンクプレート
2 8 …ドライブベース駆動プレート
3 0 …アッパーシャーシユニット
3 0 a …フロントプレート
3 1 …ディスク挿入口
3 2 …シャッタ
3 3 …シャッタ開閉プレート
3 3 a …傾斜カム穴
3 4 …回動プレート
3 4 A b, 3 4 B a …階段状カム
3 4 A, 3 4 B …ドライブシャーシ昇降プレート
3 4 A b …ラック

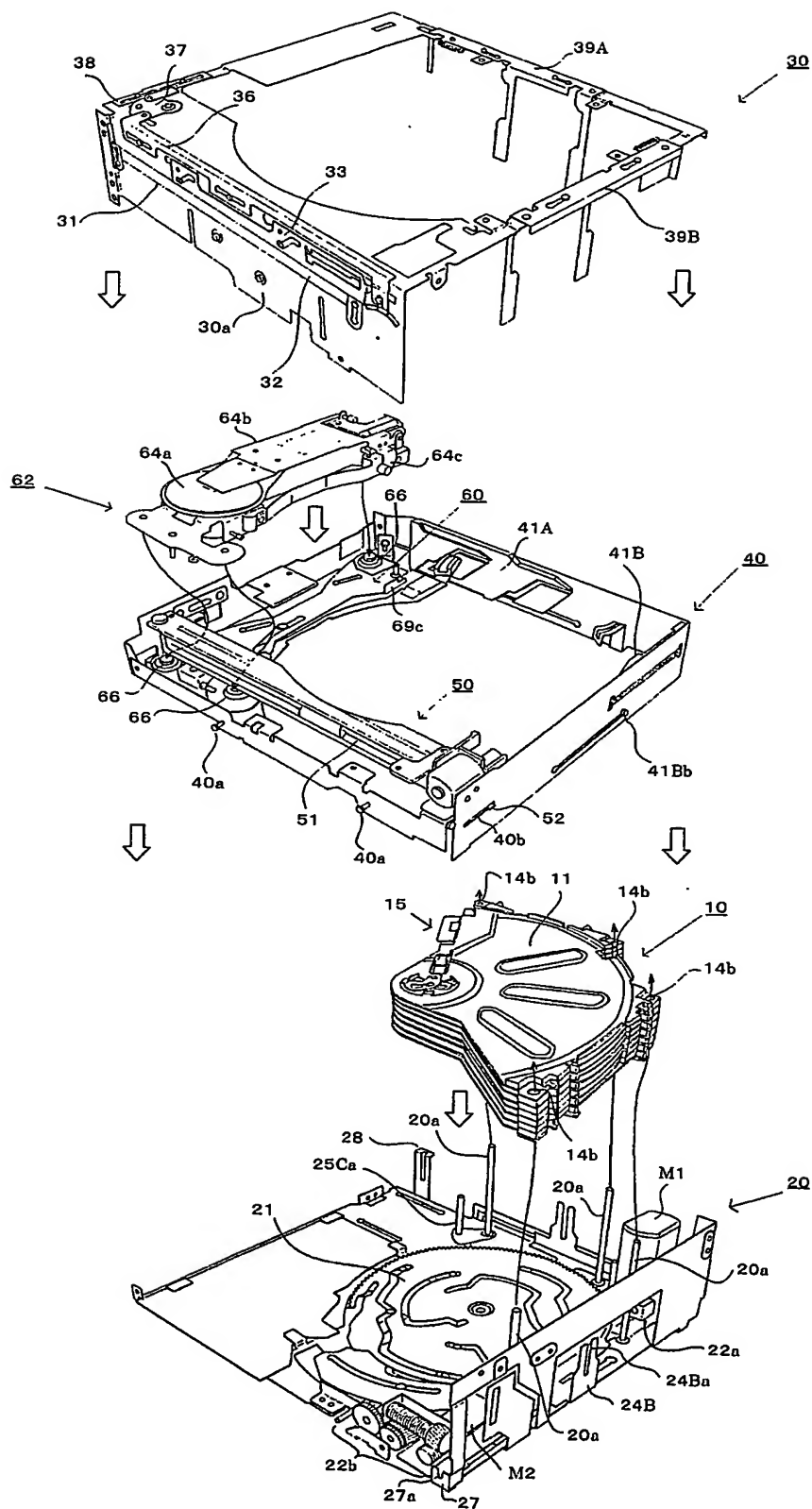
3 4 A c, 3 8 a…溝
3 5…左ローディングブロックスライド機構
3 6…スライドリンク
3 6 a…押圧部
3 7…回動リンク
3 8…左ローディングブロックスライドプレート
3 9 A…ディスクホルダ分割ガイド
3 9 A a, 3 9 B a…ガイド部
3 9 A b, 3 9 B b…当接部
3 9 B…ディスクホルダ分割ガイド
4 0…ドライブシャーフユニット
4 0 b, 4 0 c…スリット
4 1 c…中段カム
4 1 A, 4 1 B…ディスクセレクタ
4 1 A a, 4 1 B a…上段カム
4 1 A b, 4 1 B b…下段カム
4 1 A c, 4 1 B c…中段カム
4 2…ディスクガイド
4 2 a…傾斜面
4 4…ローディングギア機構
4 4 a…ギア
4 4 b…ストッパプレート
5 0…ローディングブロック
5 0 a, 5 0 b…ローディングプレート
5 1…ローディングローラ
5 1 a…ローラギア
5 1 b…ローラスリーブ
5 2…突出部
5 4…ローラガイド

55…付勢ガイド
60…ドライブベースユニット
61…ドライブベース
61b…ガイドピン
62…ドライブユニット
62b, 69b, 70a…ロックピン
62c, 69a…ロック溝
63…ターンテーブル
64…クランパアーム
64a…クランパリング
64b…クランパアーム
64c…付勢ローラ
65a…ピックアップユニット
65c…ギア機構
66…ダンパー
67…フローティングロック機構
67a…リンクシャフト
67b…押上部
68…ドライブシフトプレート
69…スライドロックプレート
69c…押上部
70…ターンロックプレート
71…フックプレート
71a…フック
72…ドライブサポートプレート
M1…カムギア駆動モータ
M2…ドライブシャーシ昇降モータ
M3…ローディングモータ
M4…スレッドモータ

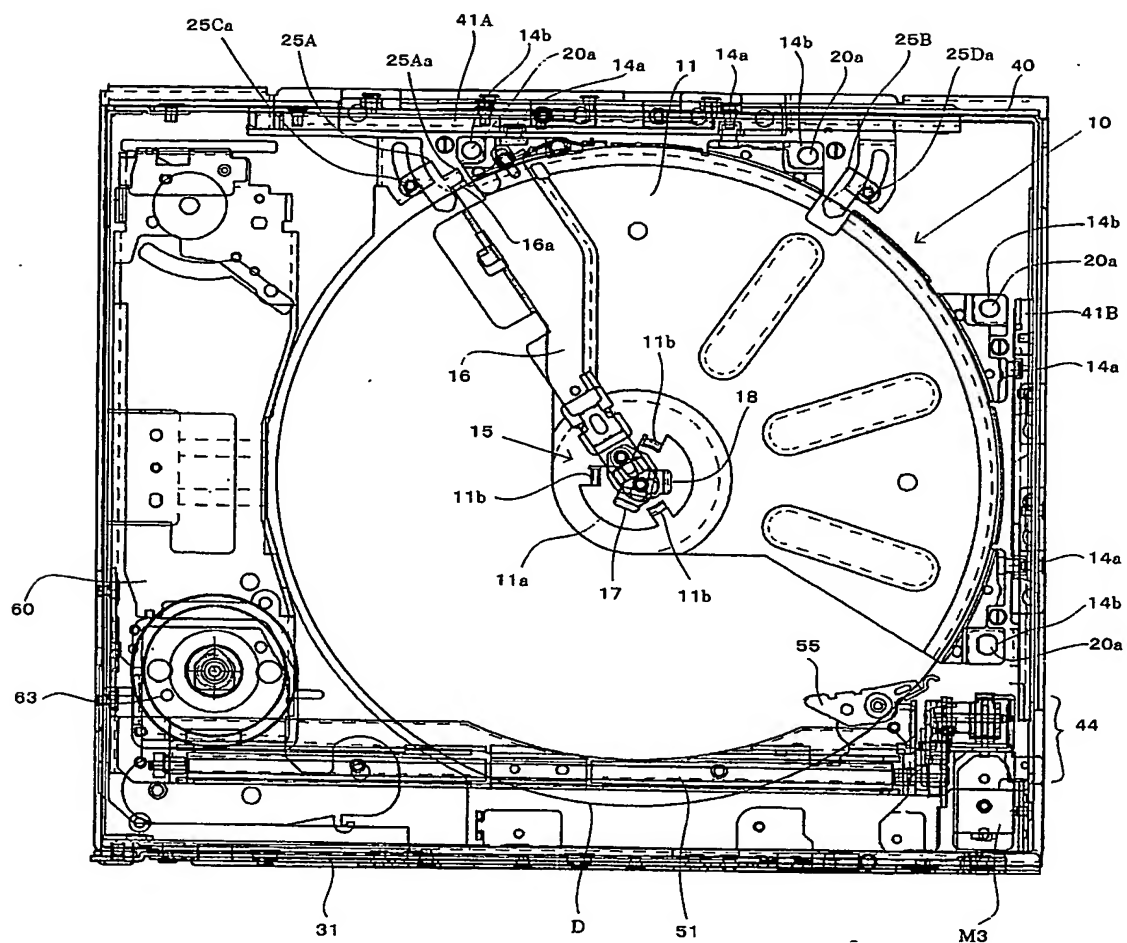
M 5 …スピンドルモータ

【書類名】 図面

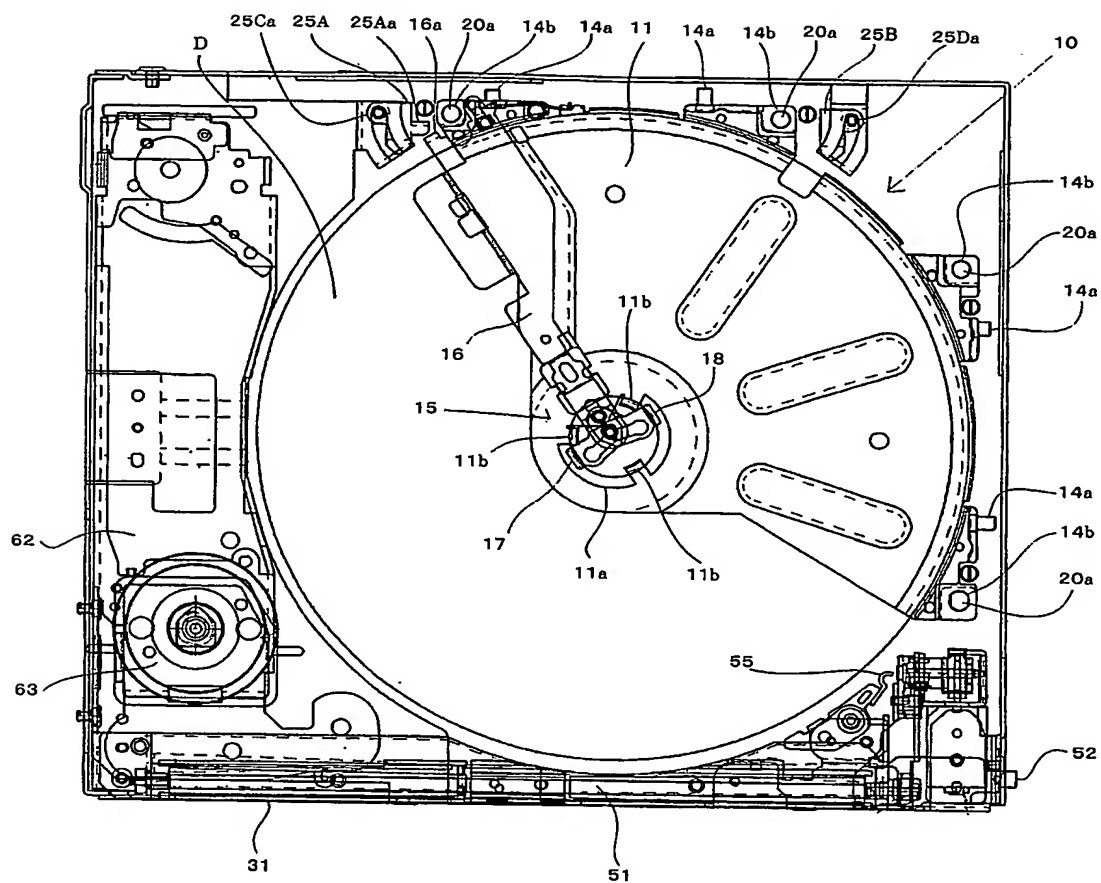
【図 1】



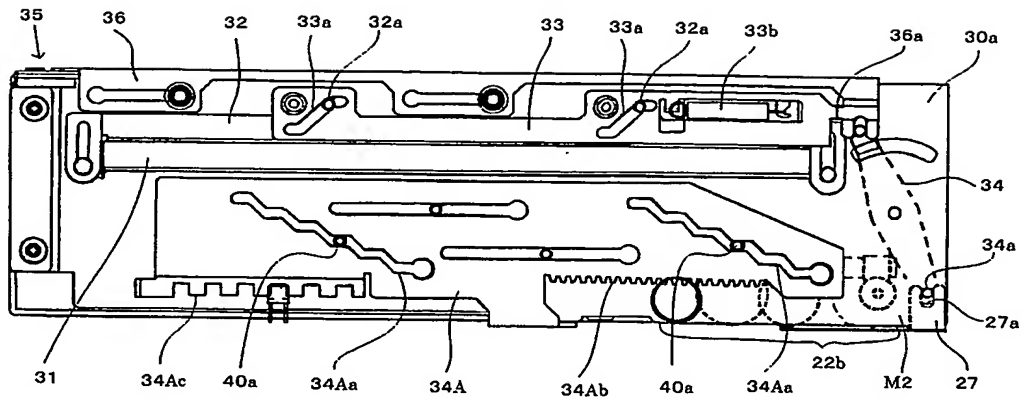
【図 2】



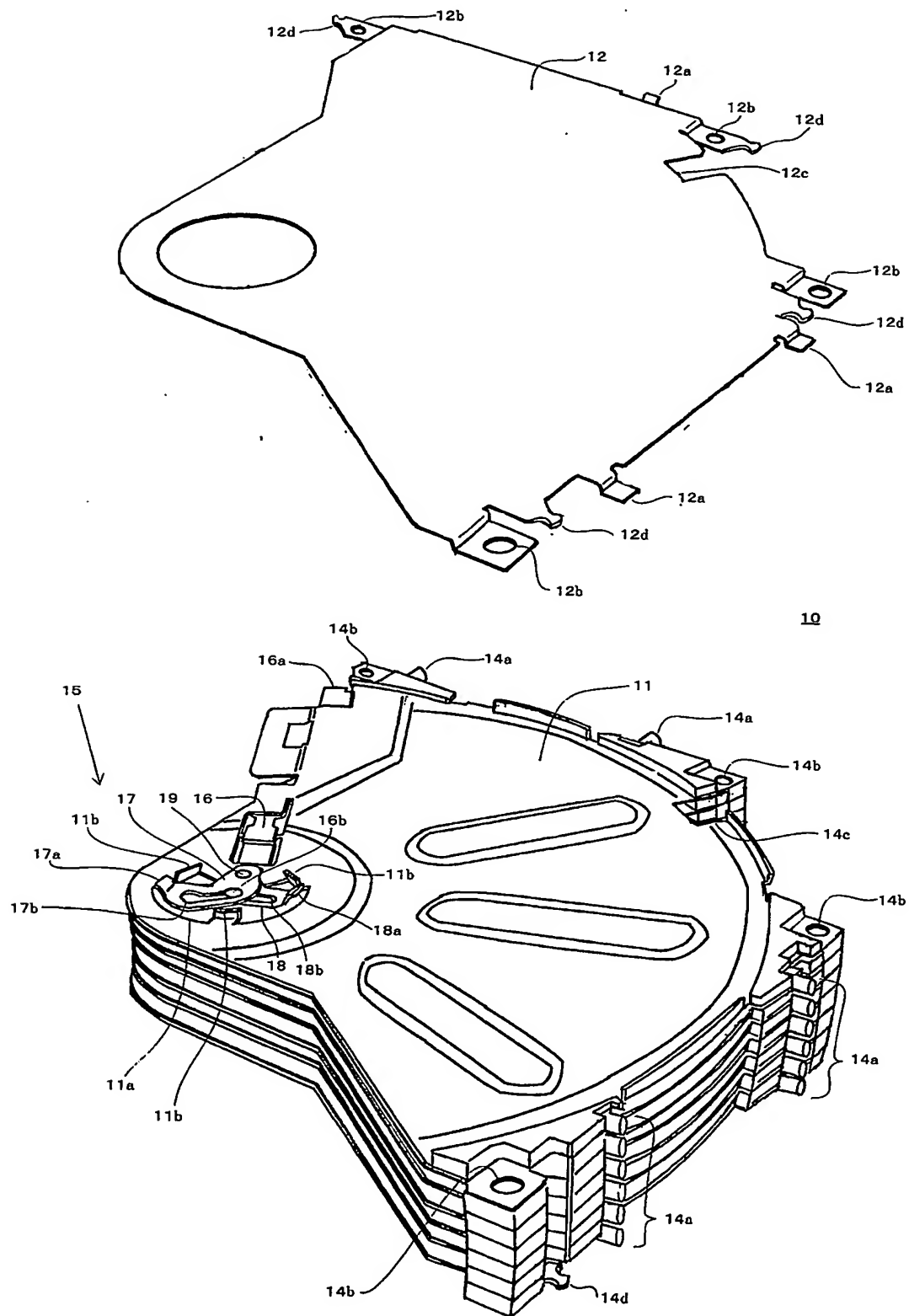
【図 3】



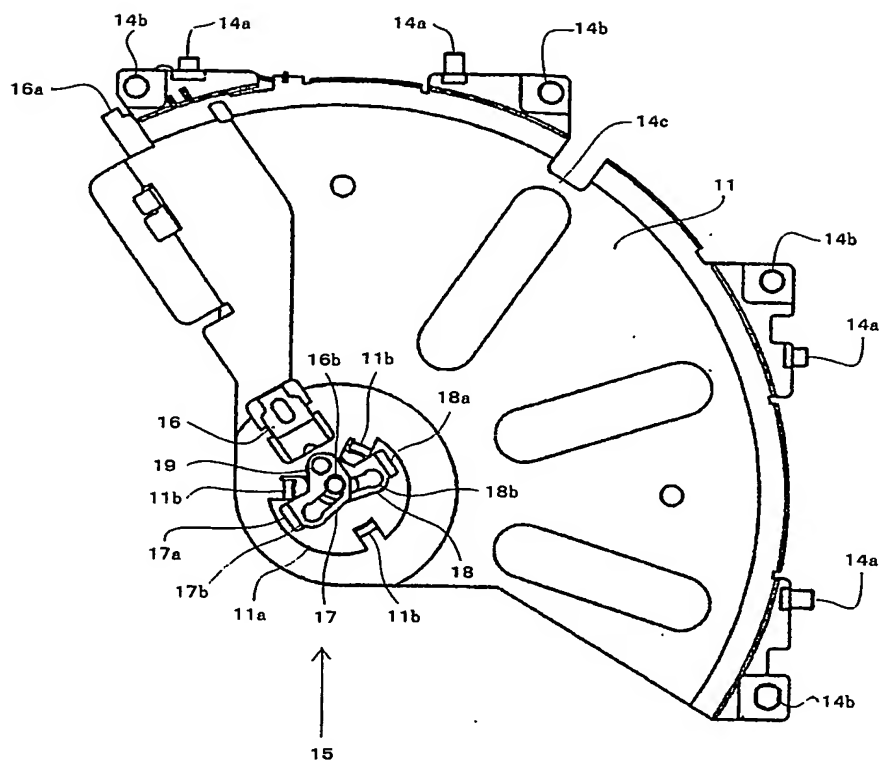
【図 4】



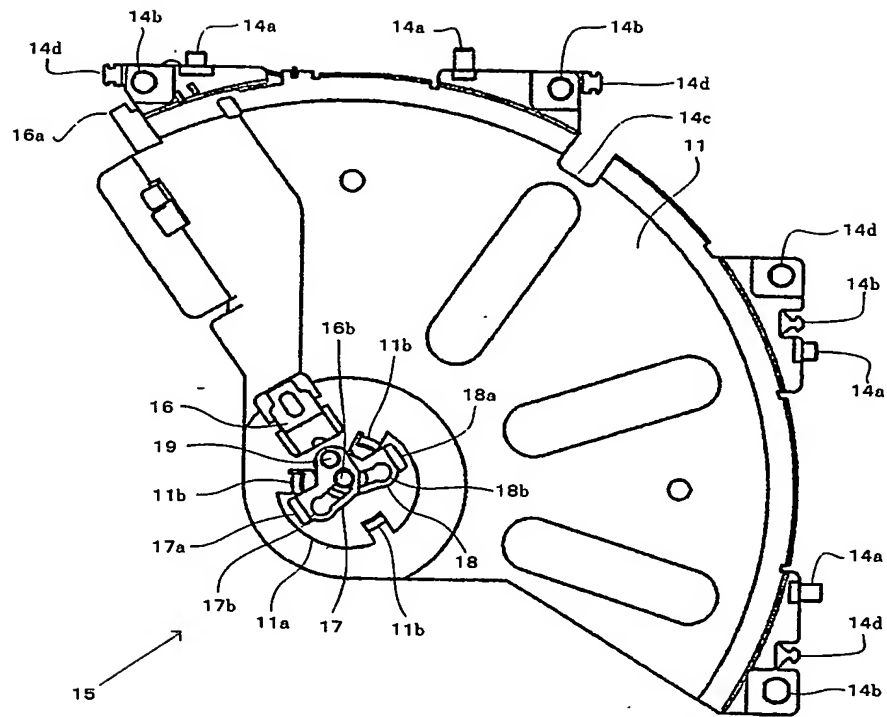
【図 5】



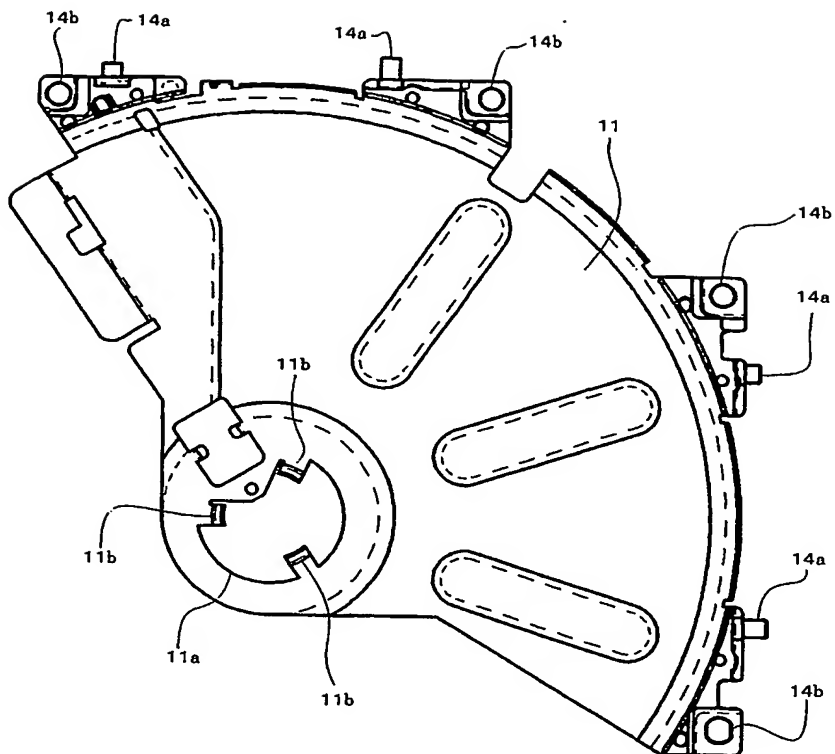
【図 6】



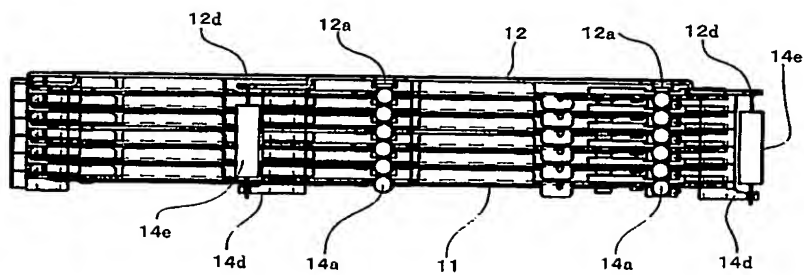
【図 7】



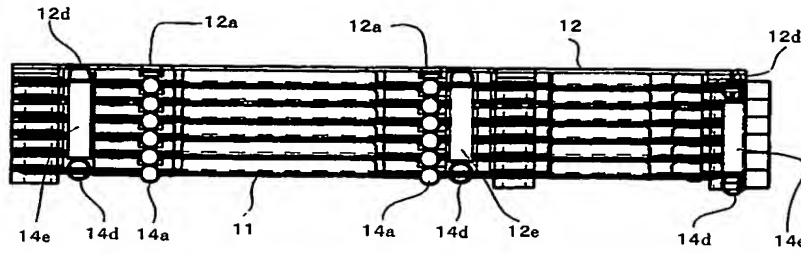
【図 8】



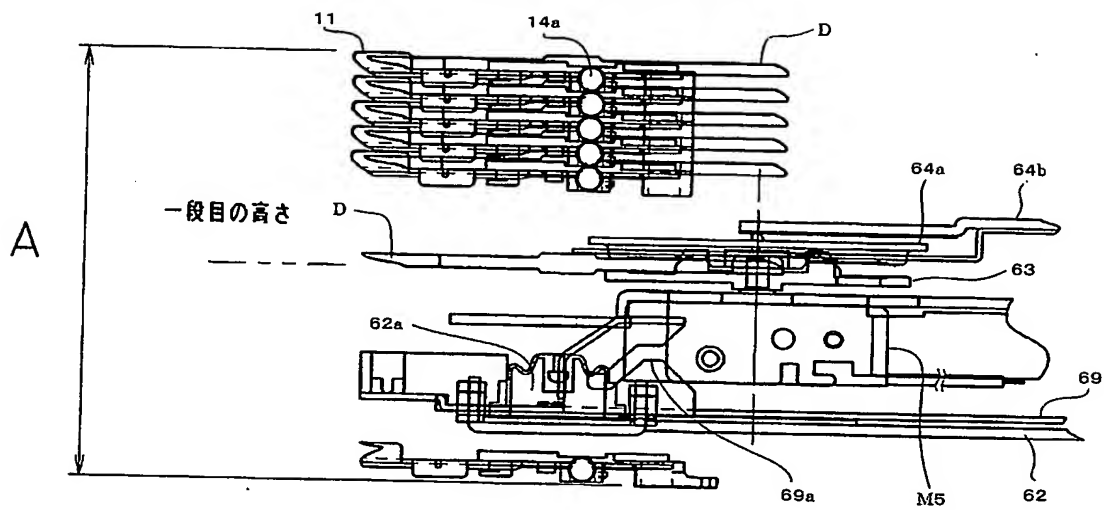
【図 9】



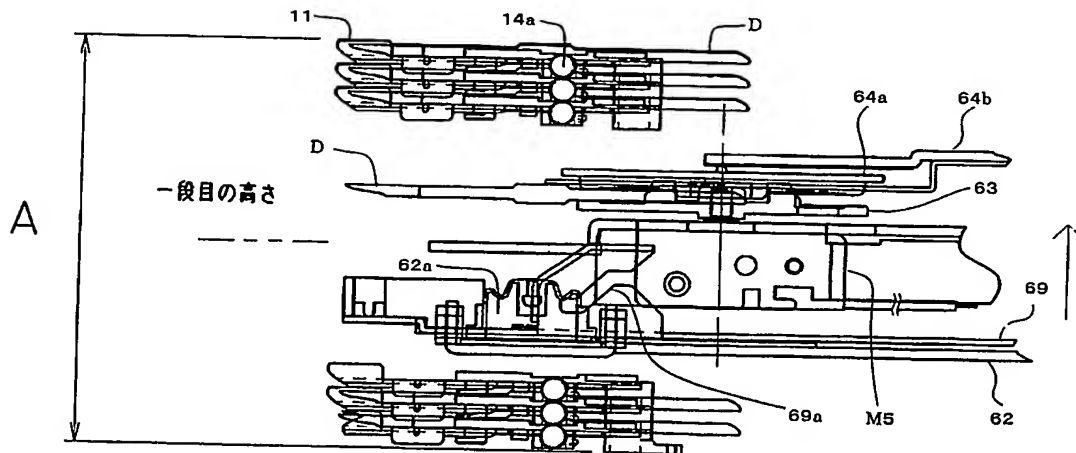
【図 10】



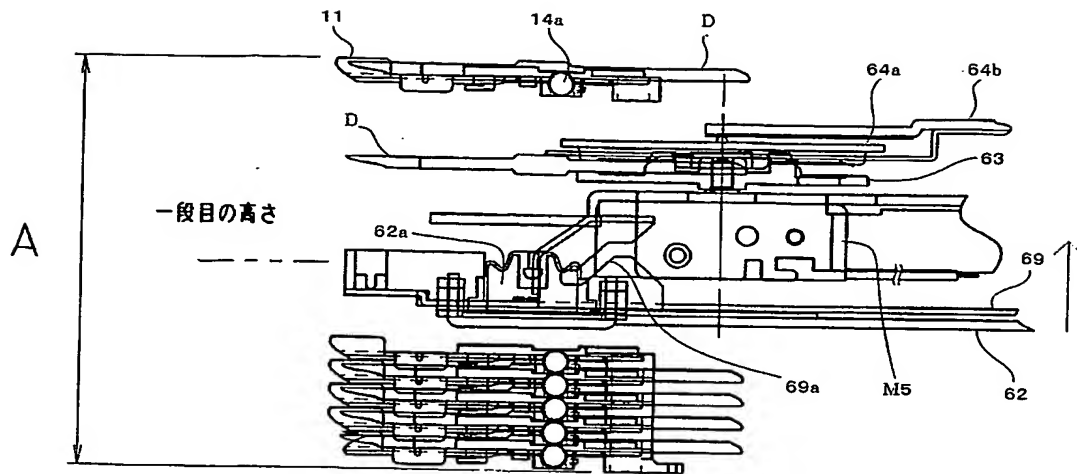
【図 11】



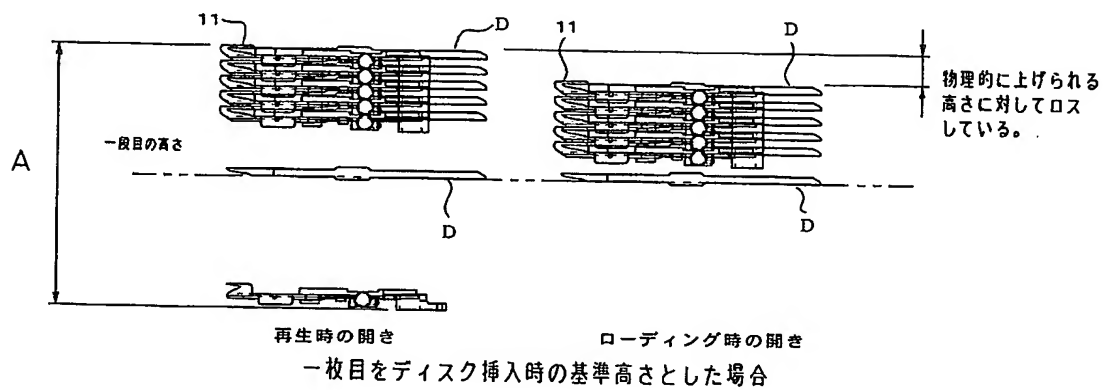
【図 12】



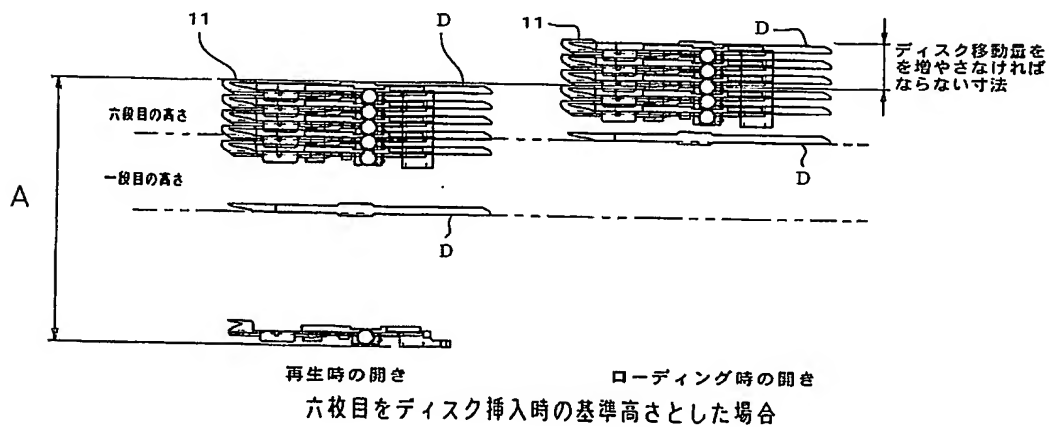
【図 13】



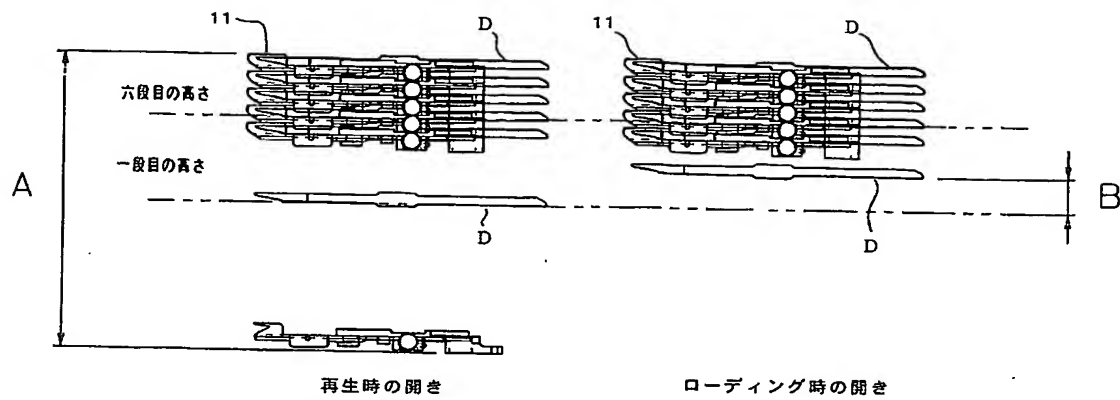
【図 14】



【図 15】

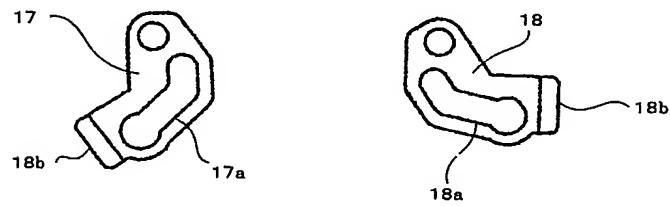


【図 16】

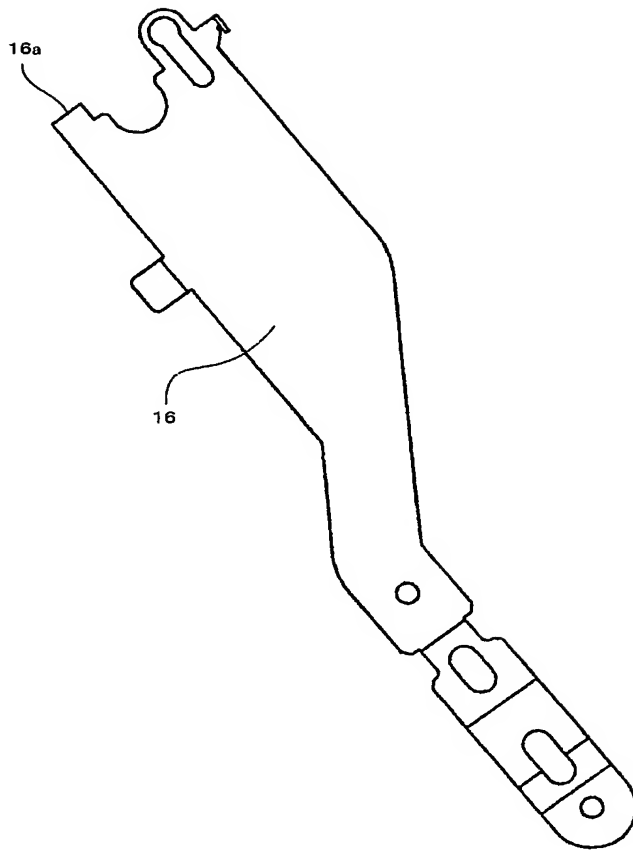


一から六枚目の途中をディスク挿入時の基準高さとした場合

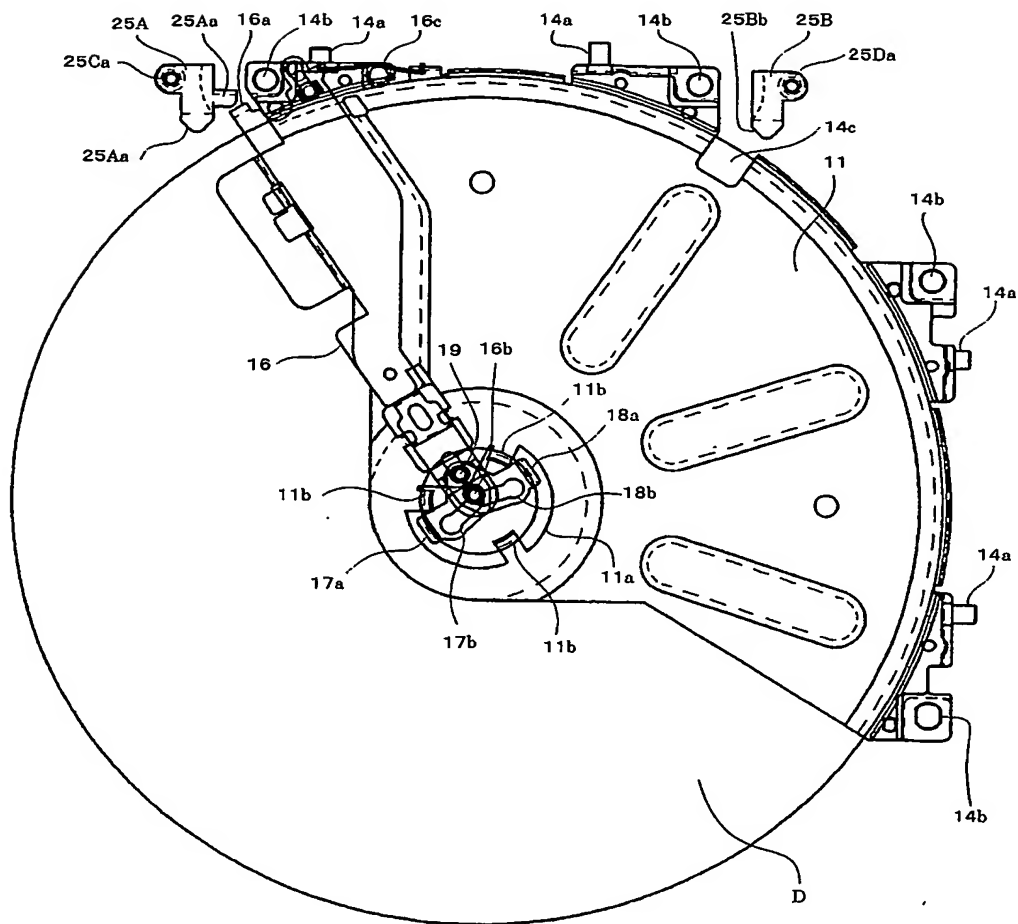
【図 17】



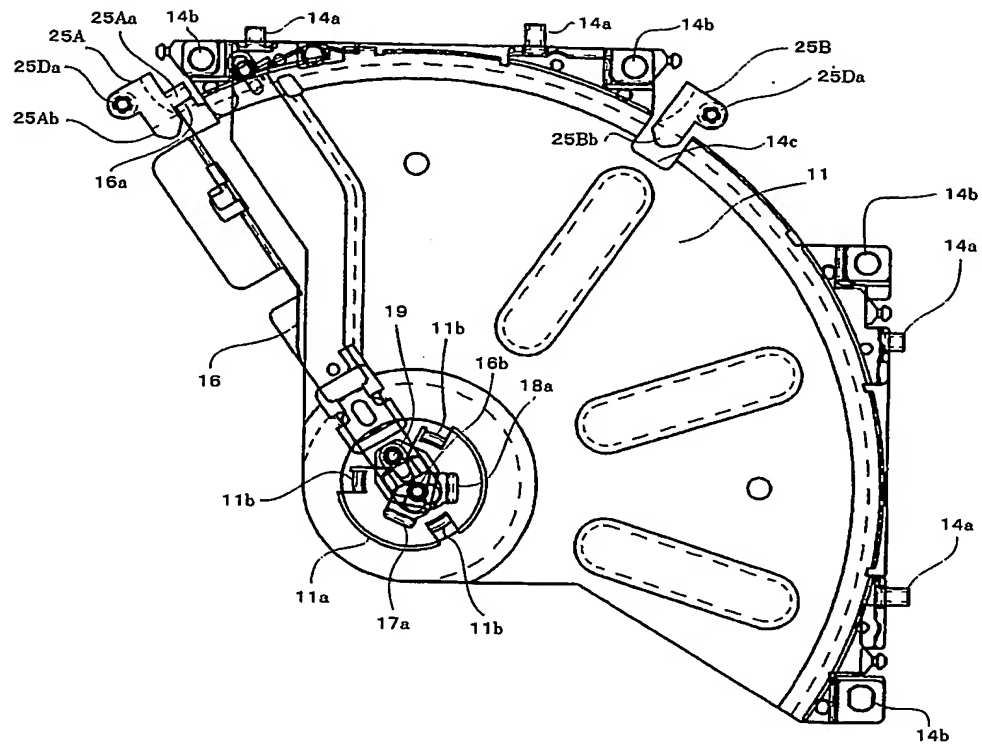
【図 18】



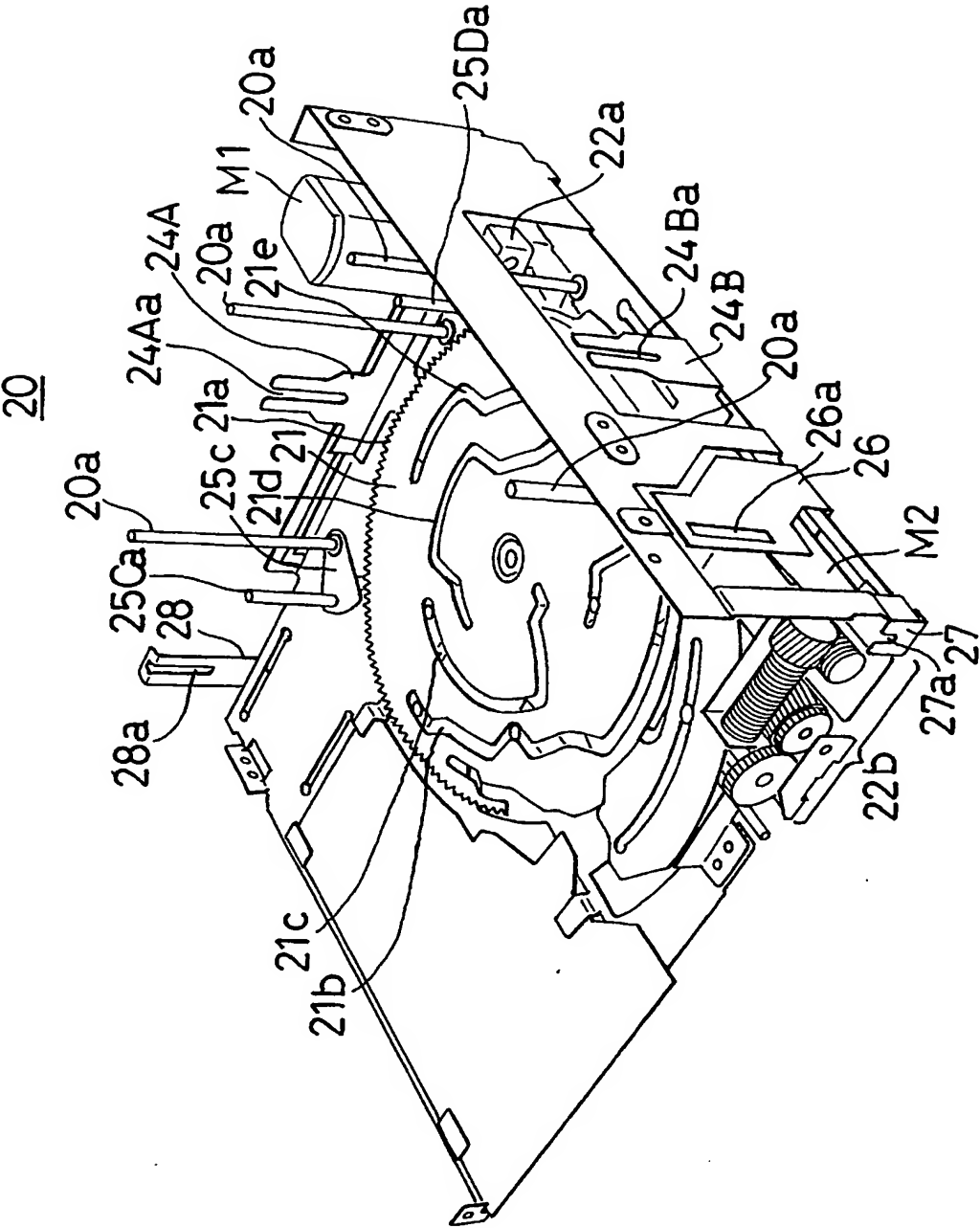
【図 19】



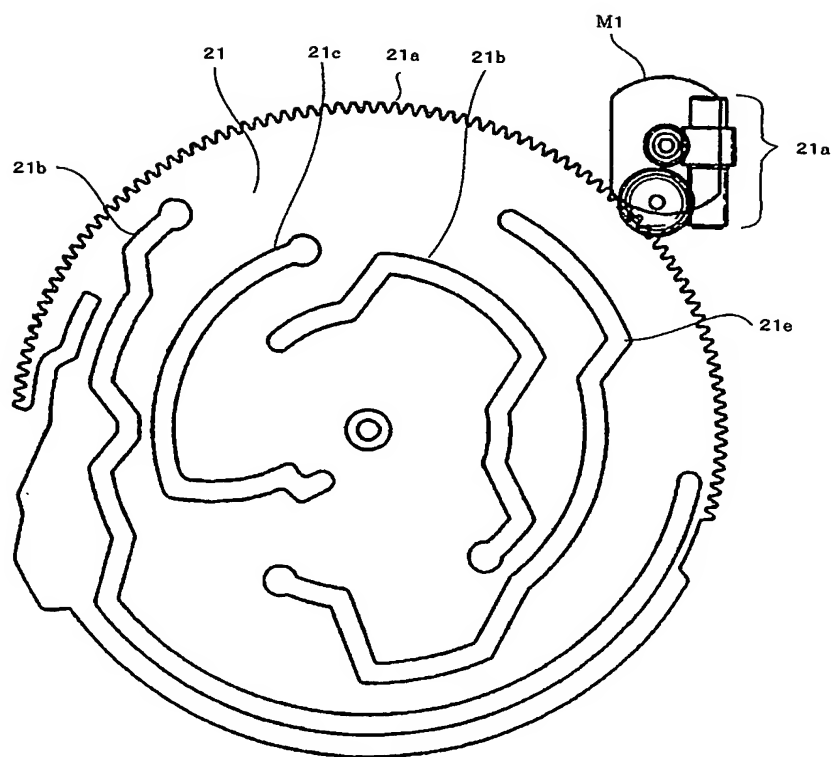
【図 20】



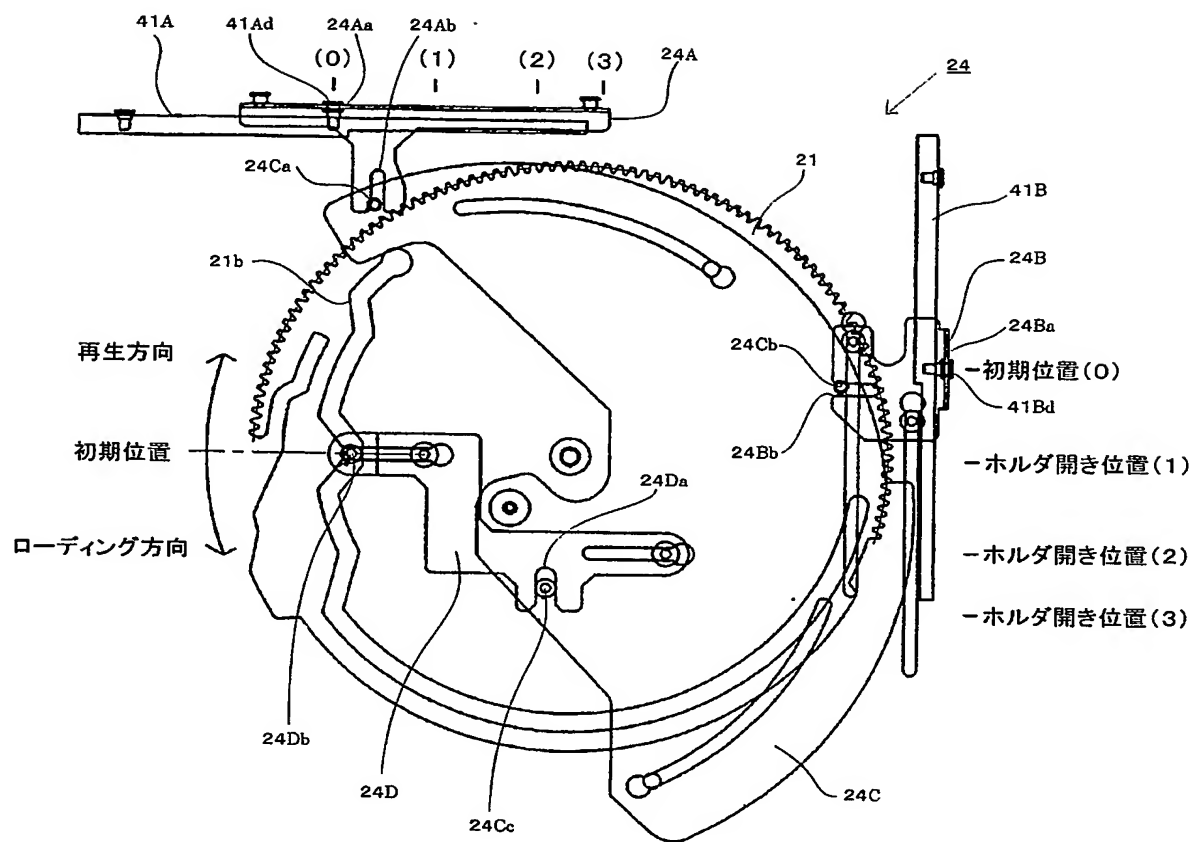
【図 21】



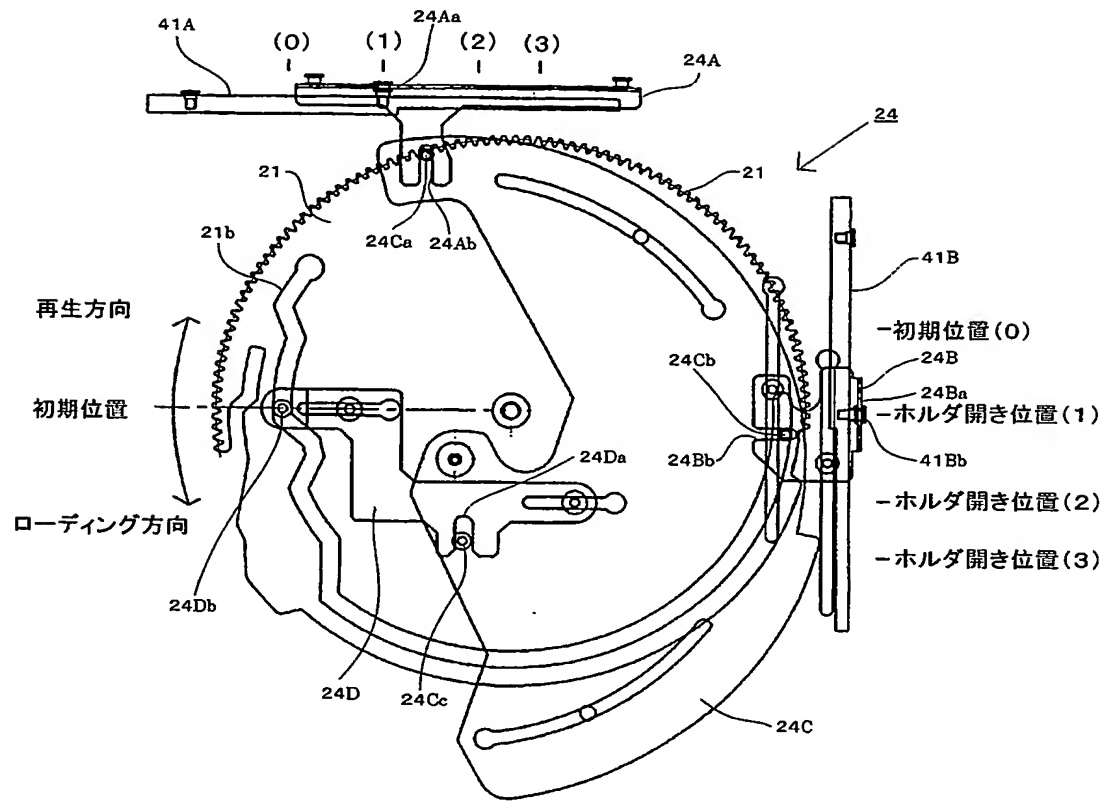
【図 22】



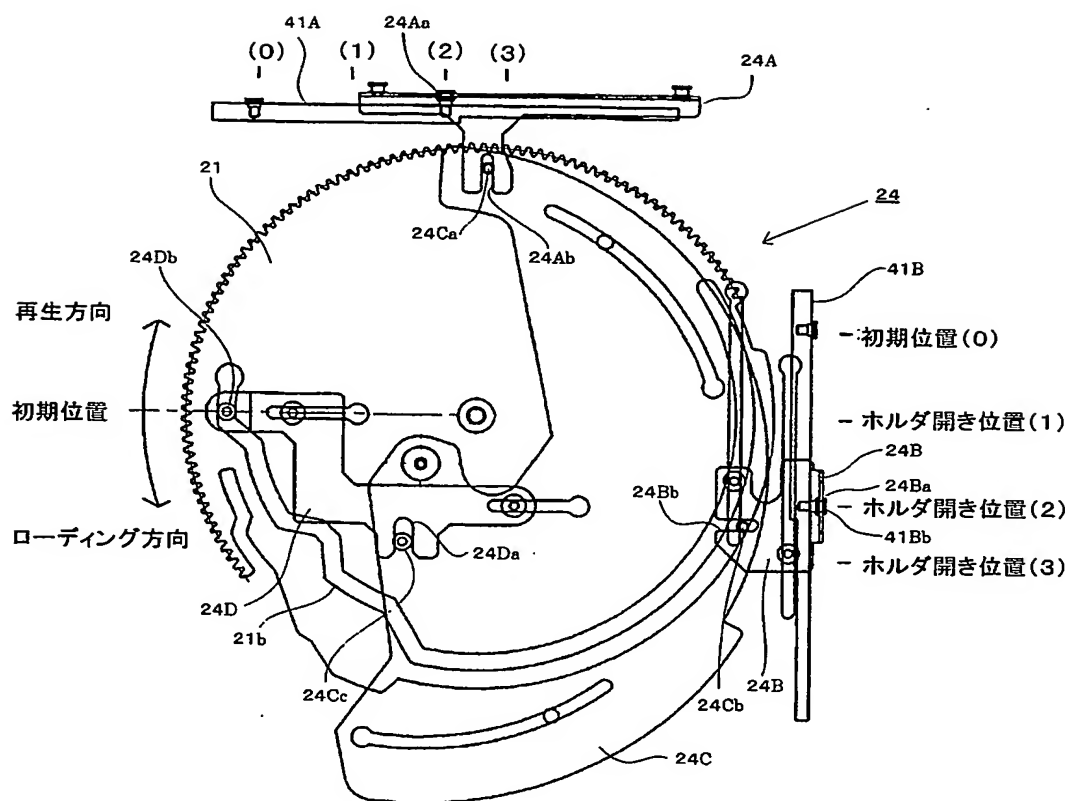
【図 23】



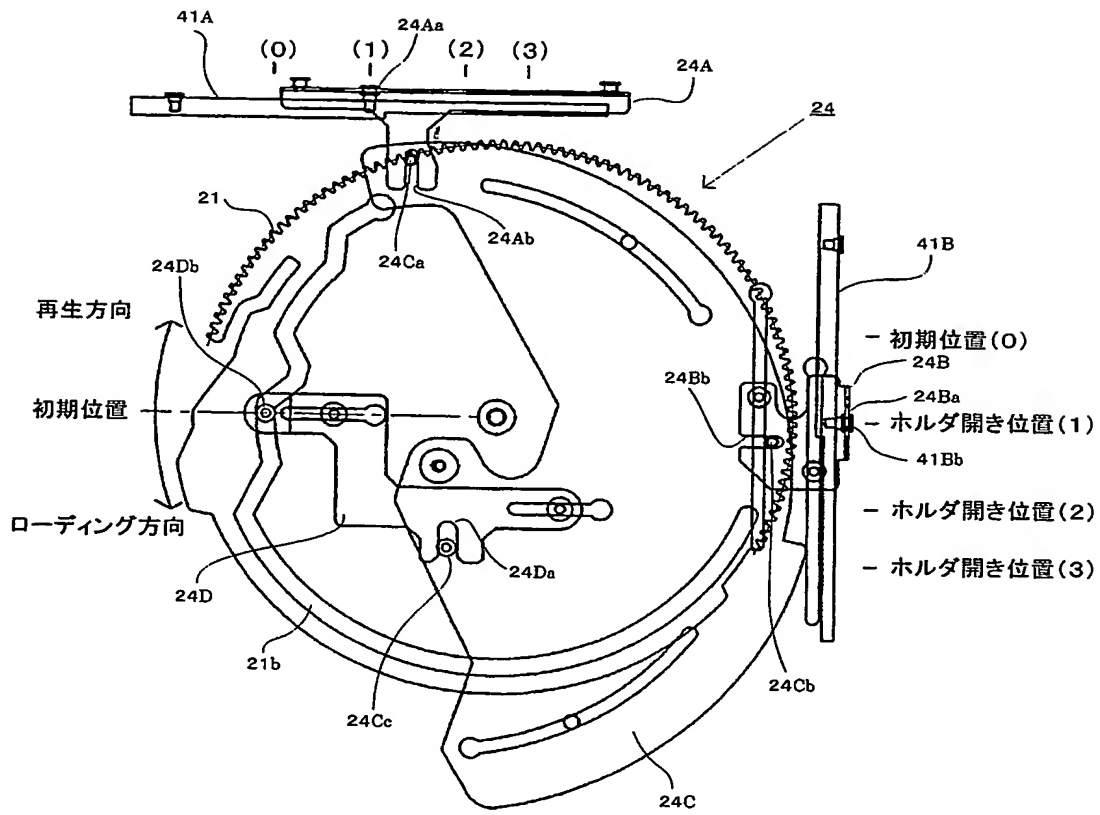
【図 24】



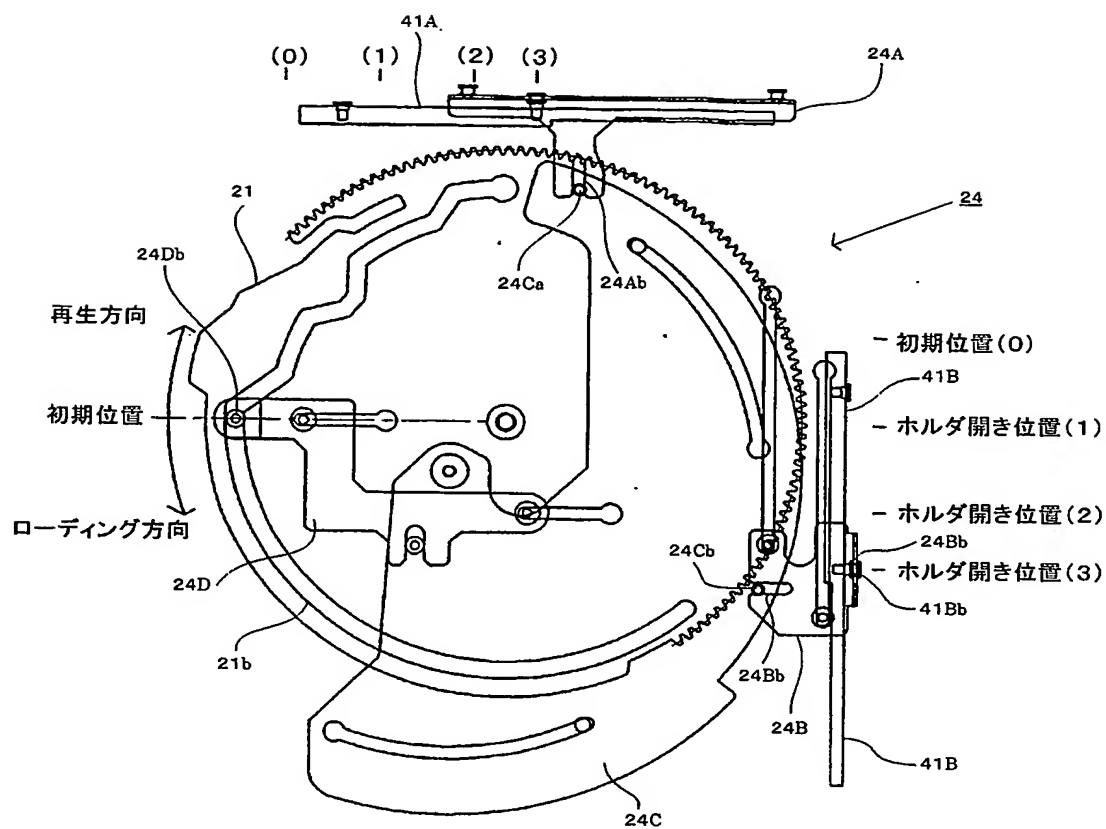
【図 25】



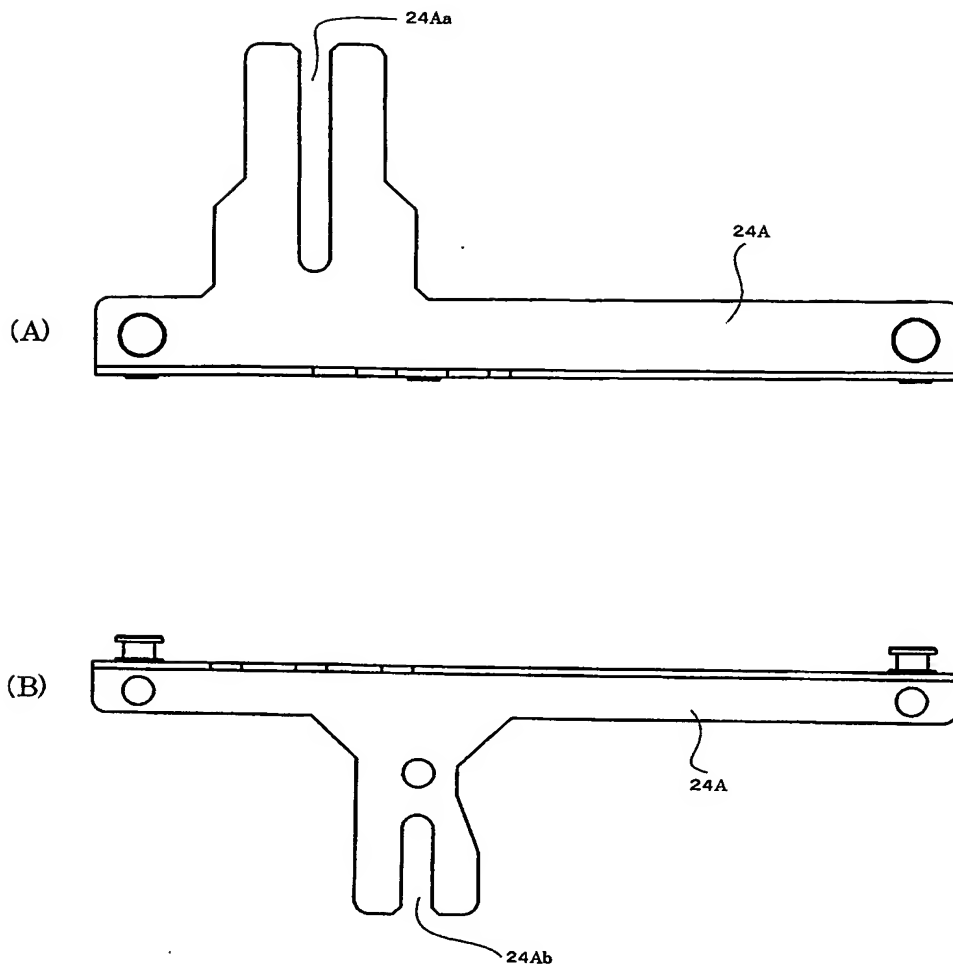
【図 26】



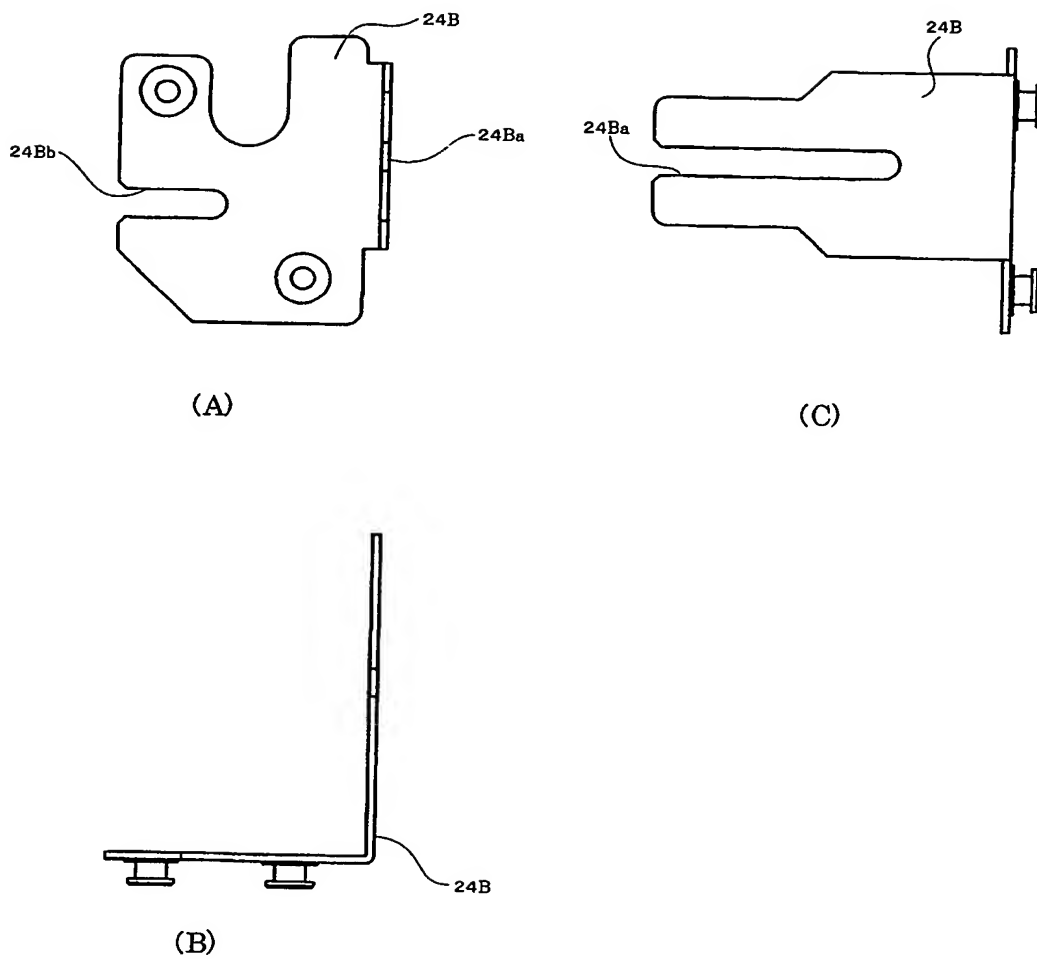
【図 27】



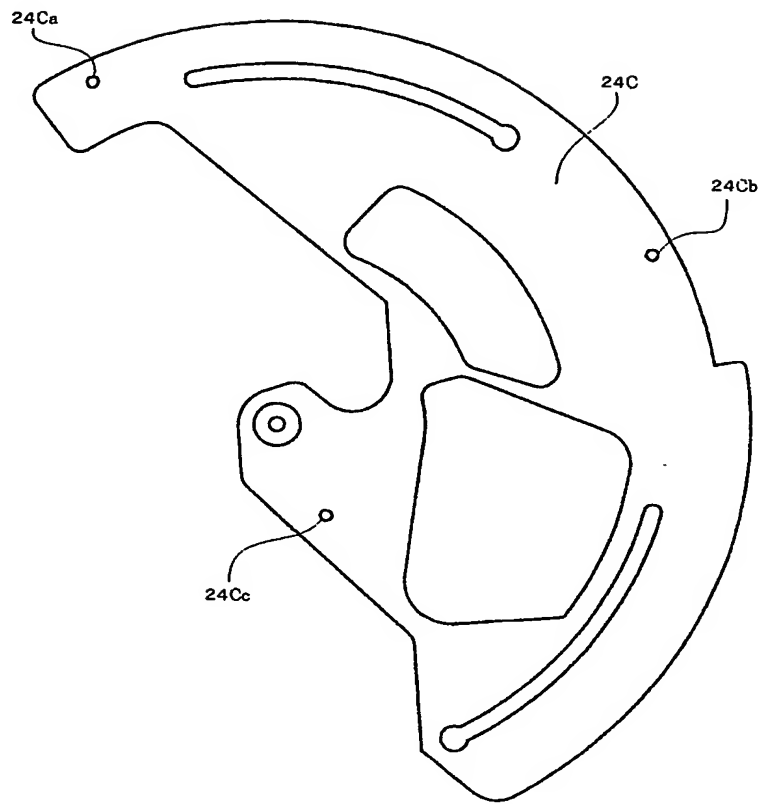
【図 28】



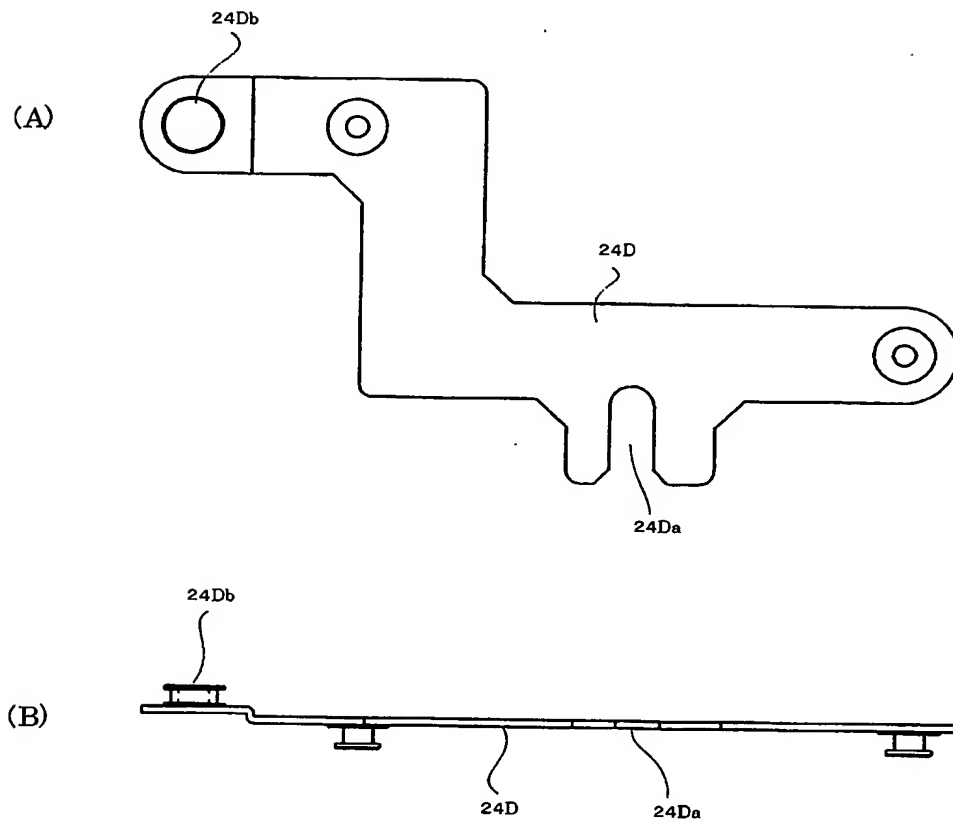
【図 29】



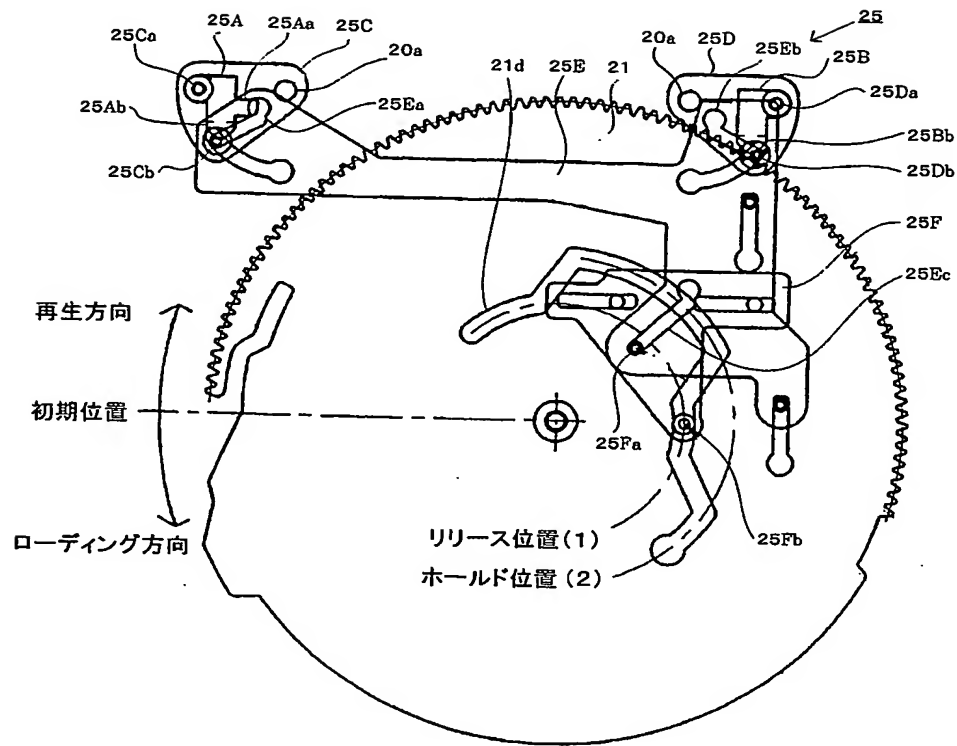
【図 30】



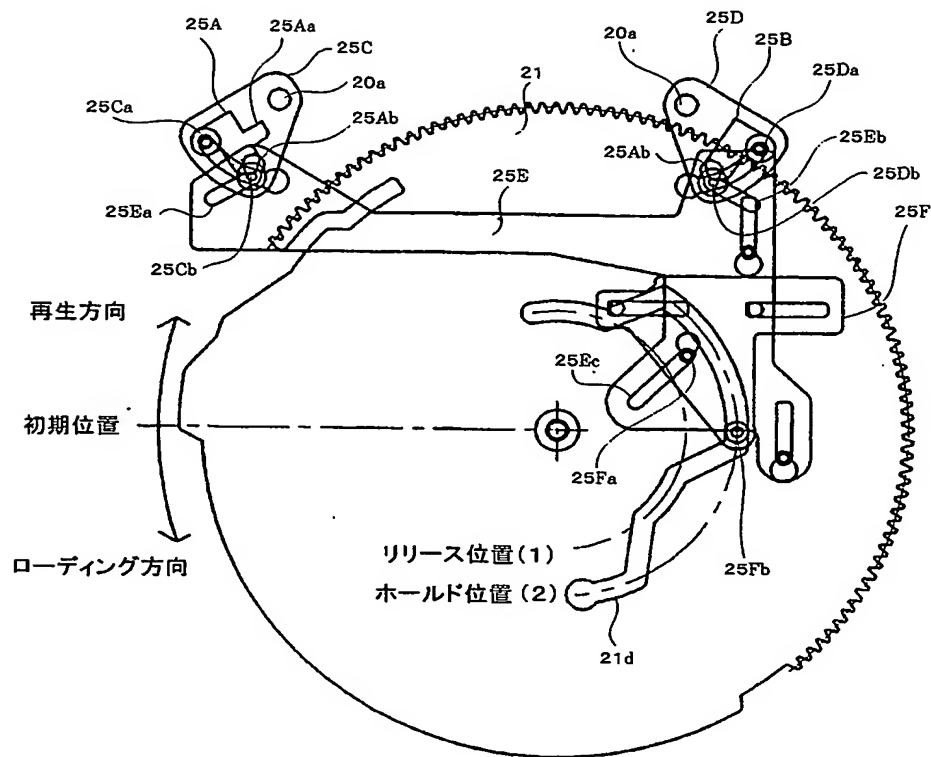
【図 31】



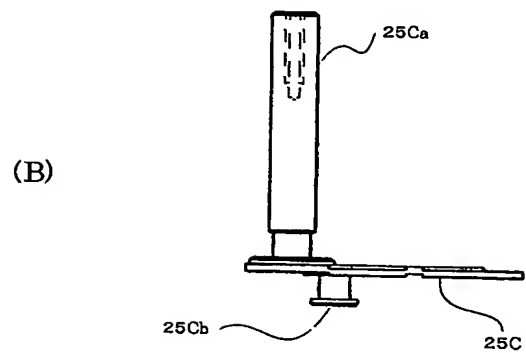
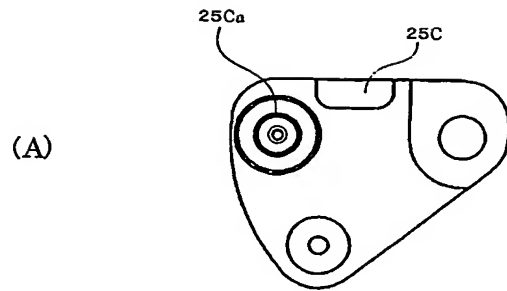
【図 32】



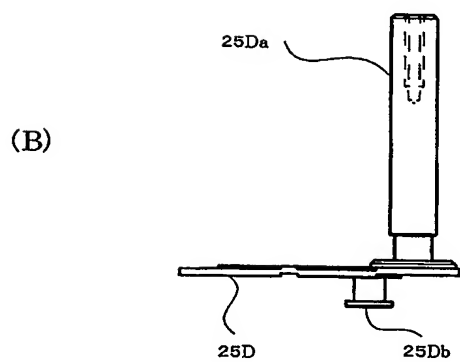
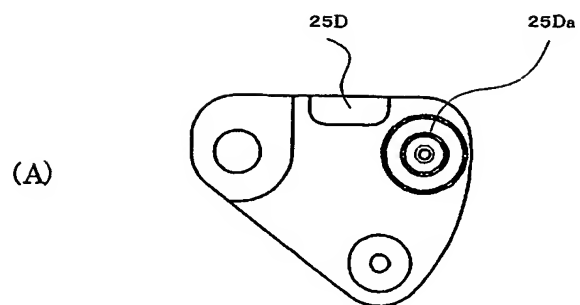
【図 33】



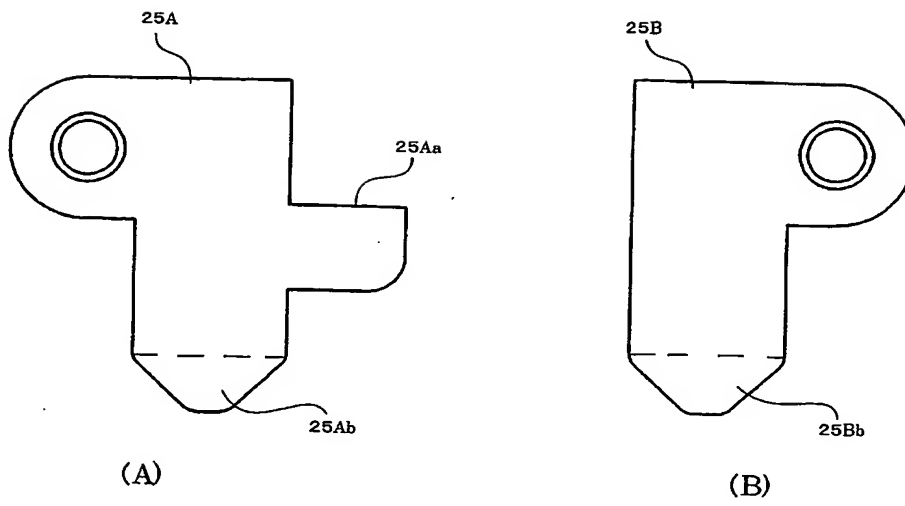
【図 34】



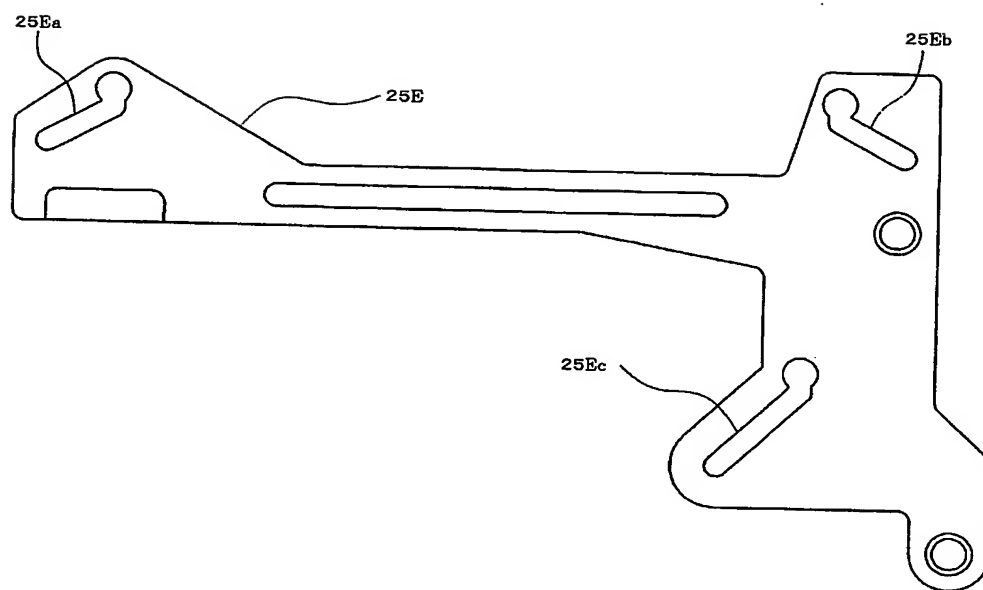
【図 35】



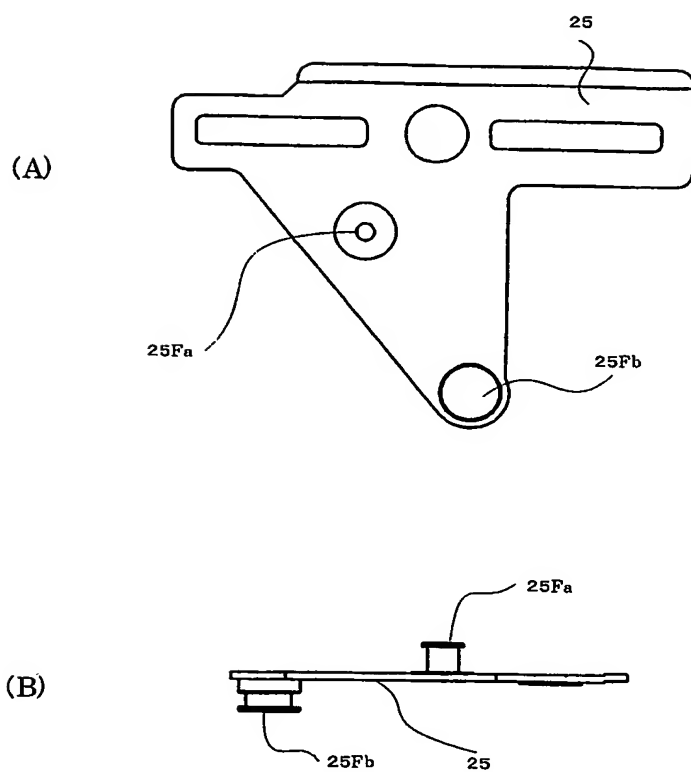
【図 36】



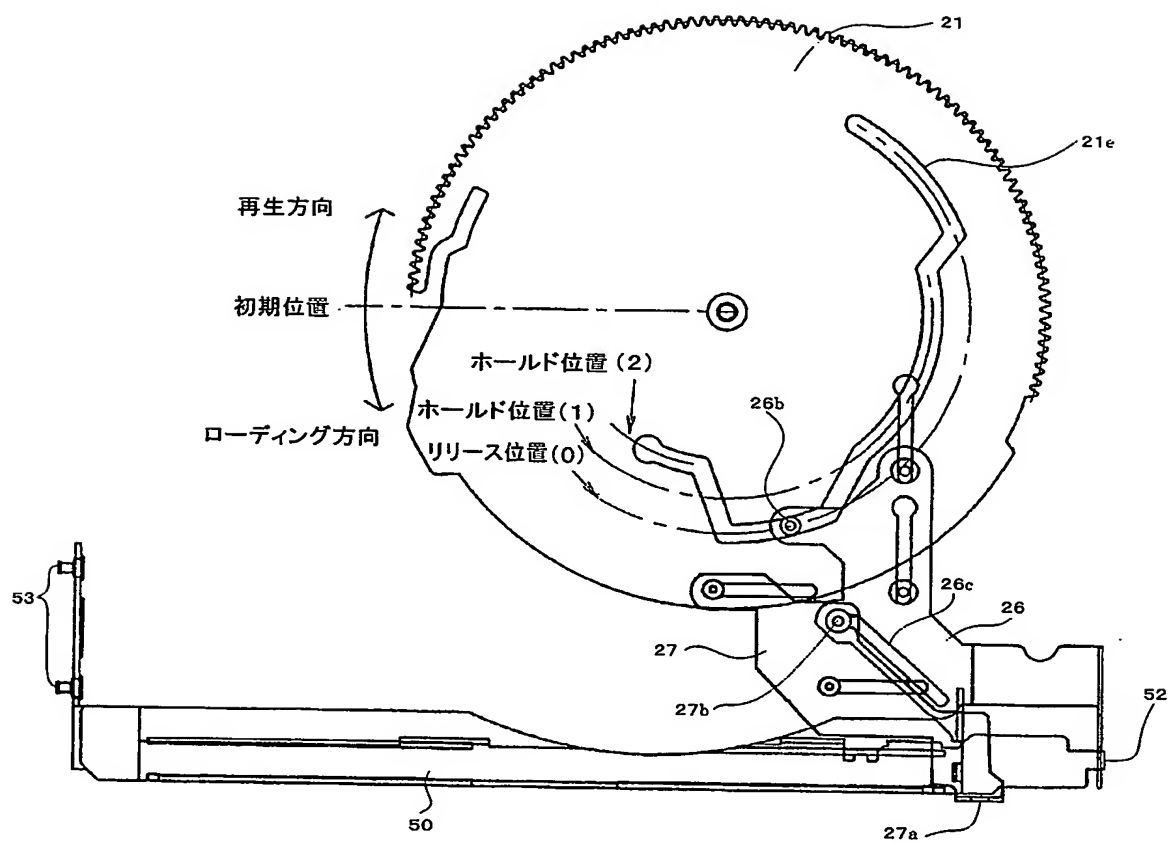
【図 37】



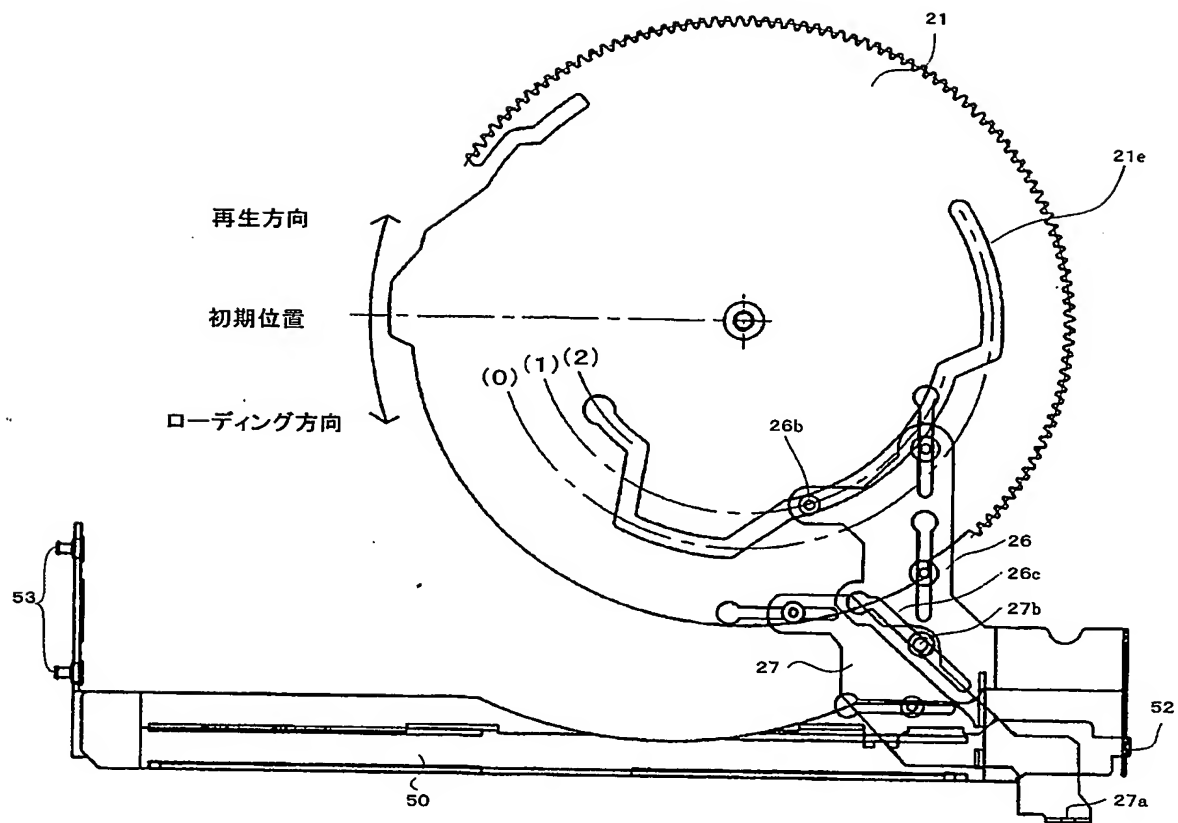
【図 38】



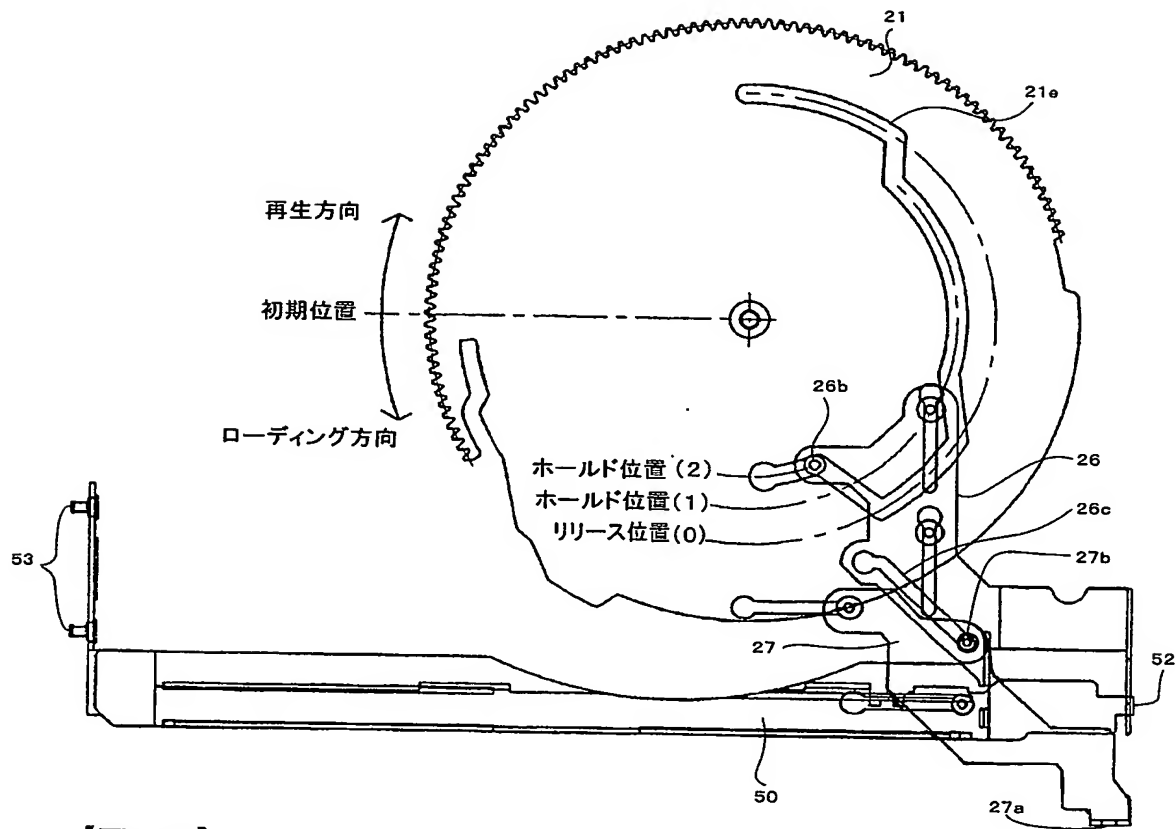
【図 39】



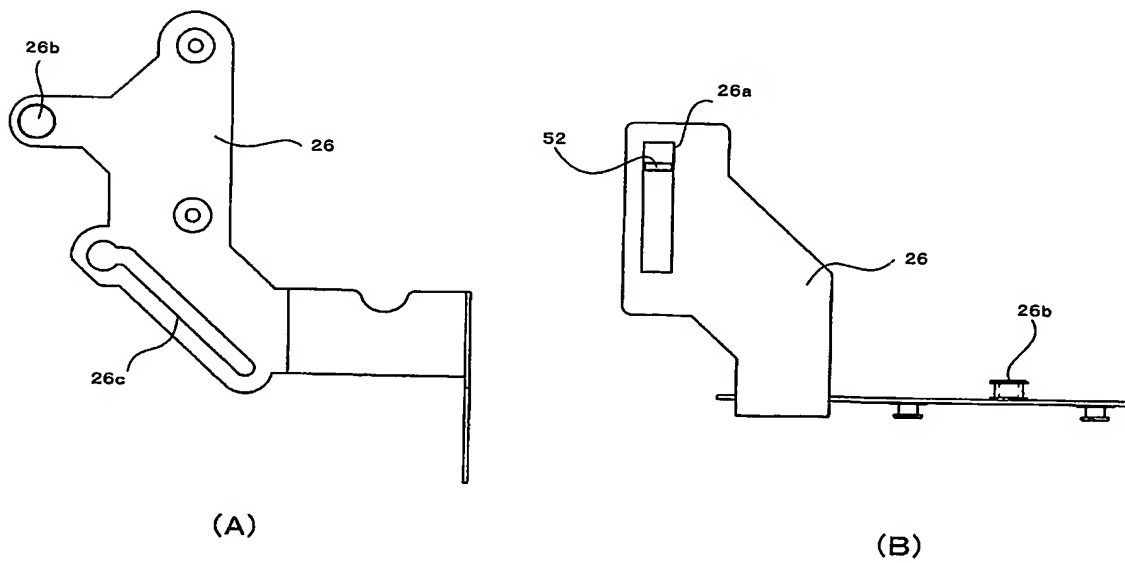
【図 40】



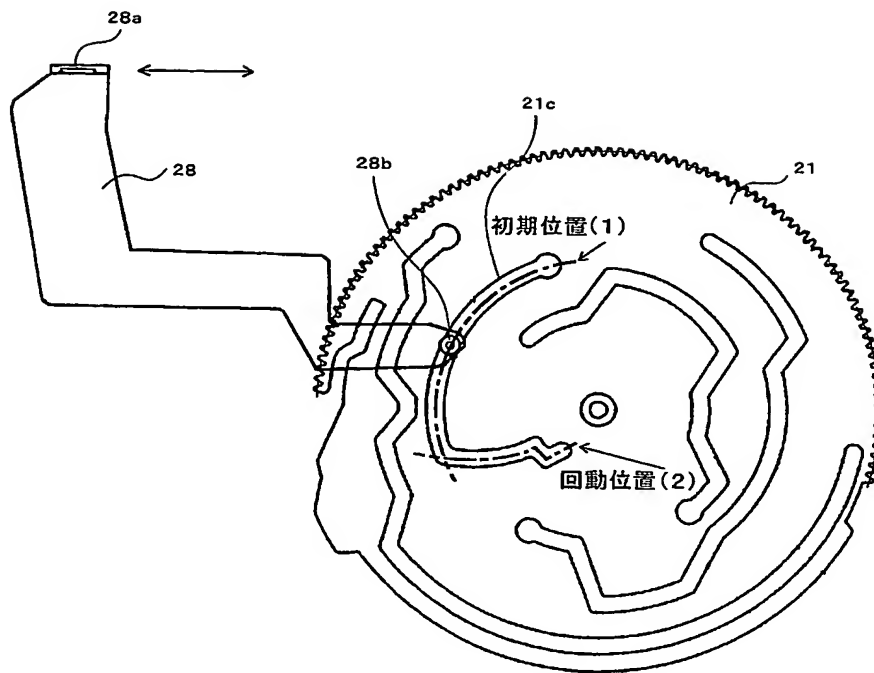
【図 4 1】



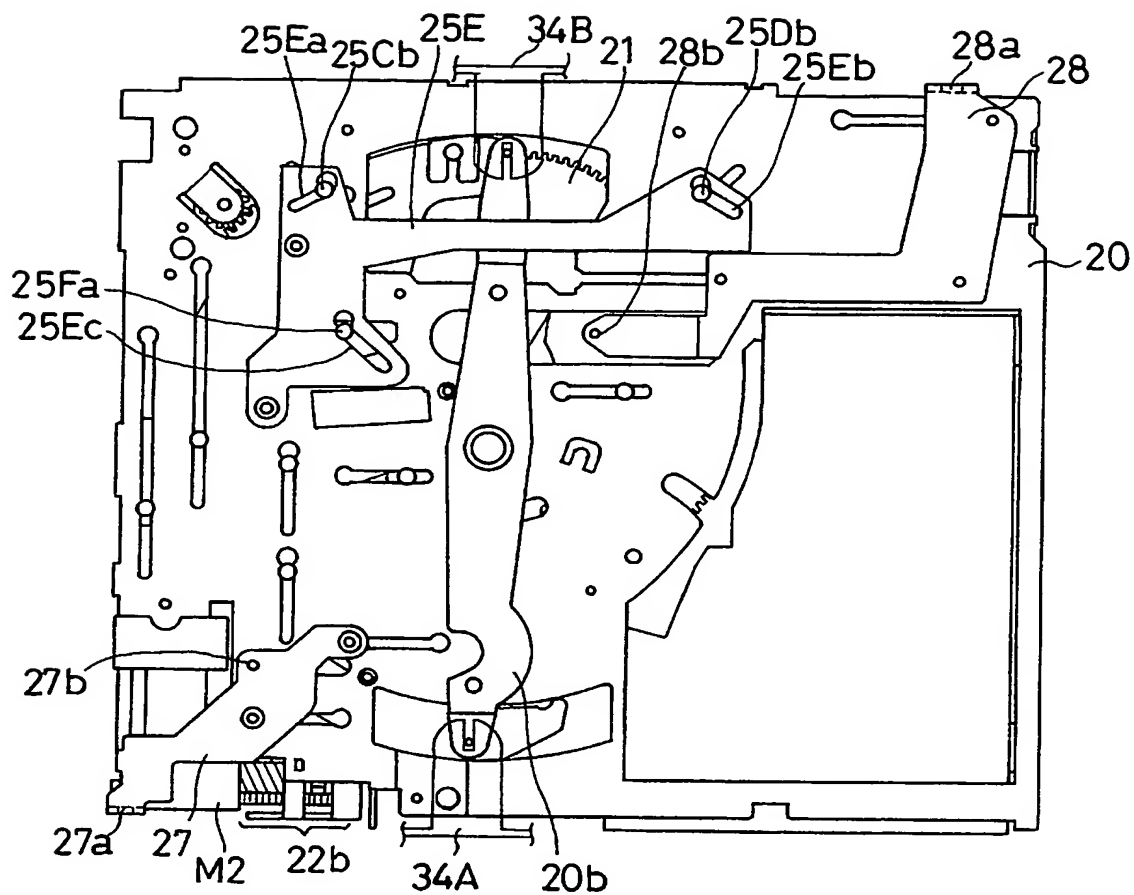
【図 4 2】



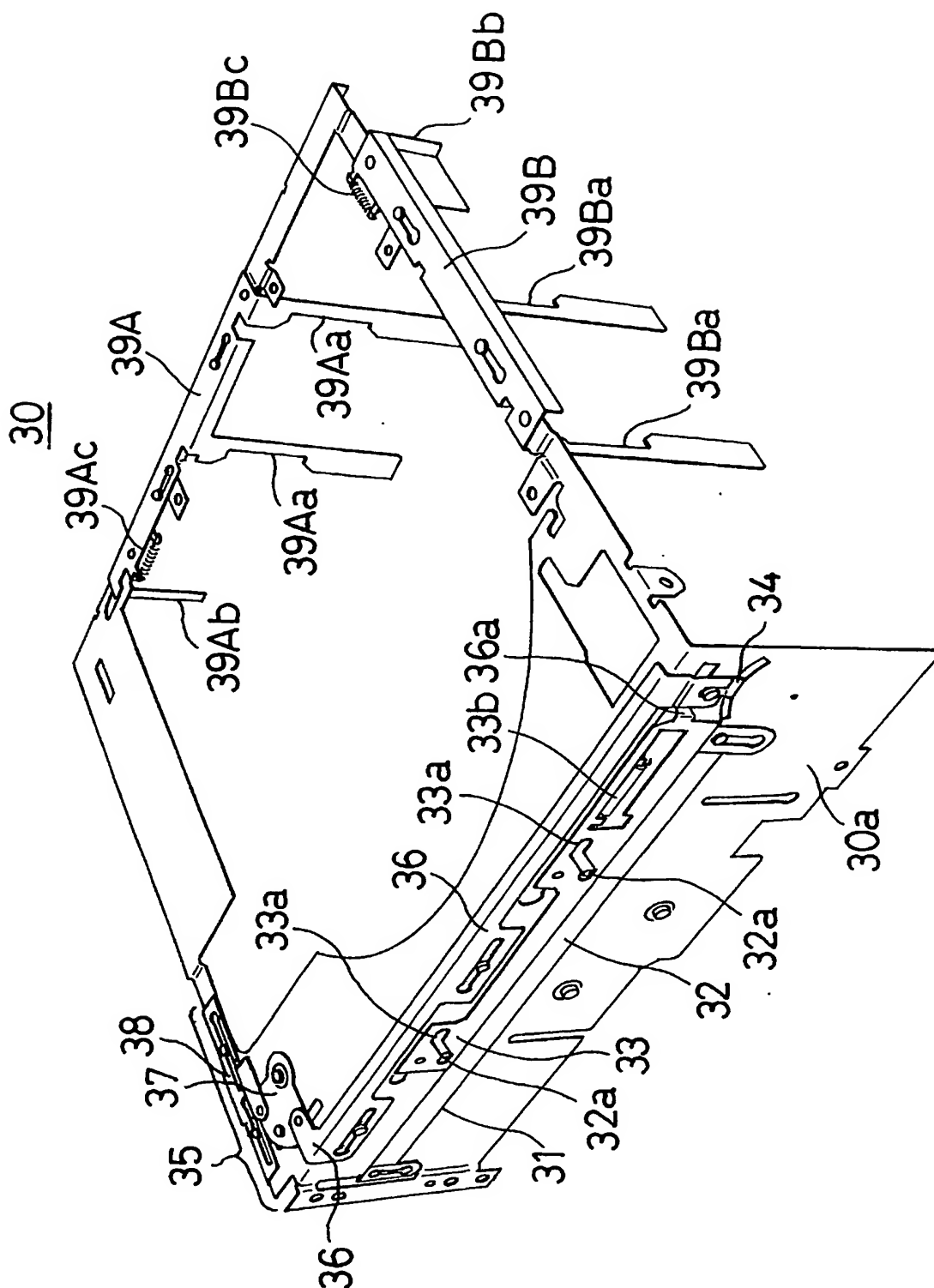
【図 4 3】



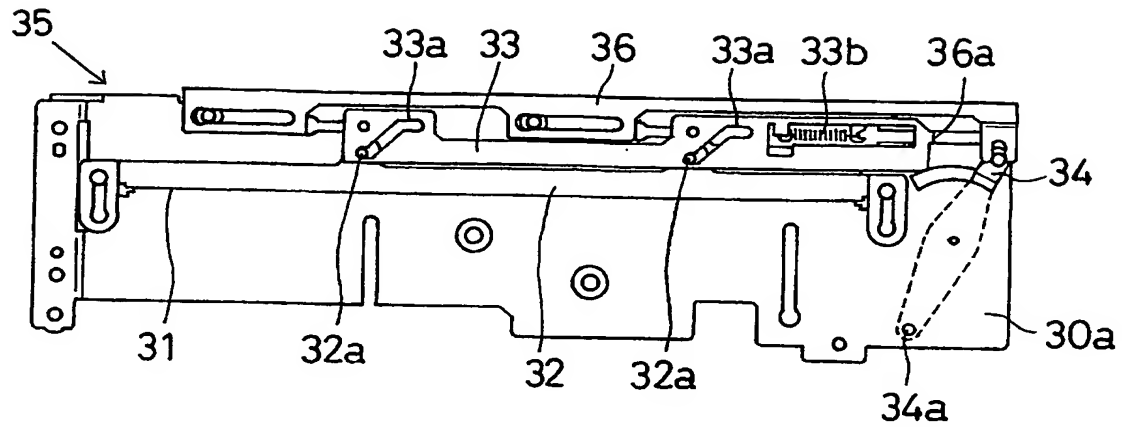
【図 44】



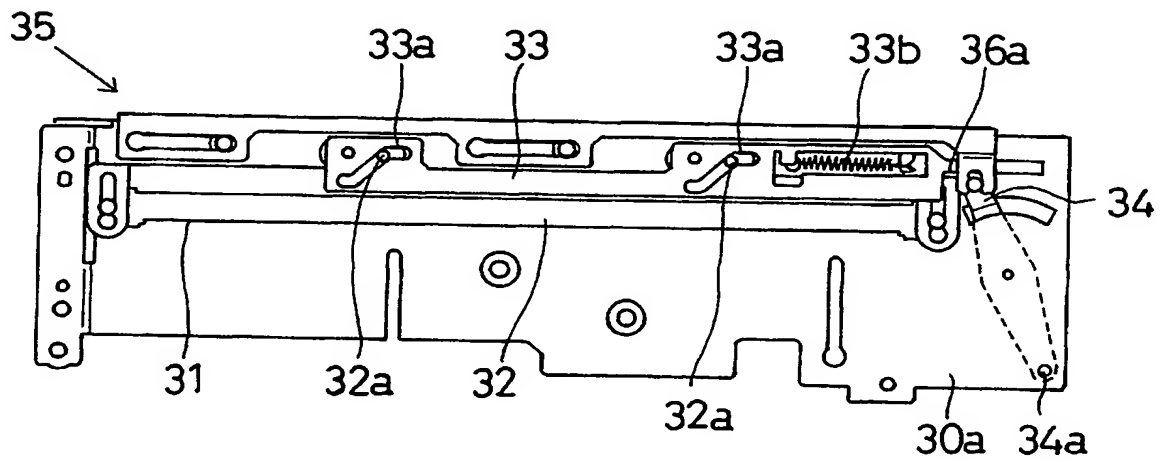
【図 45】



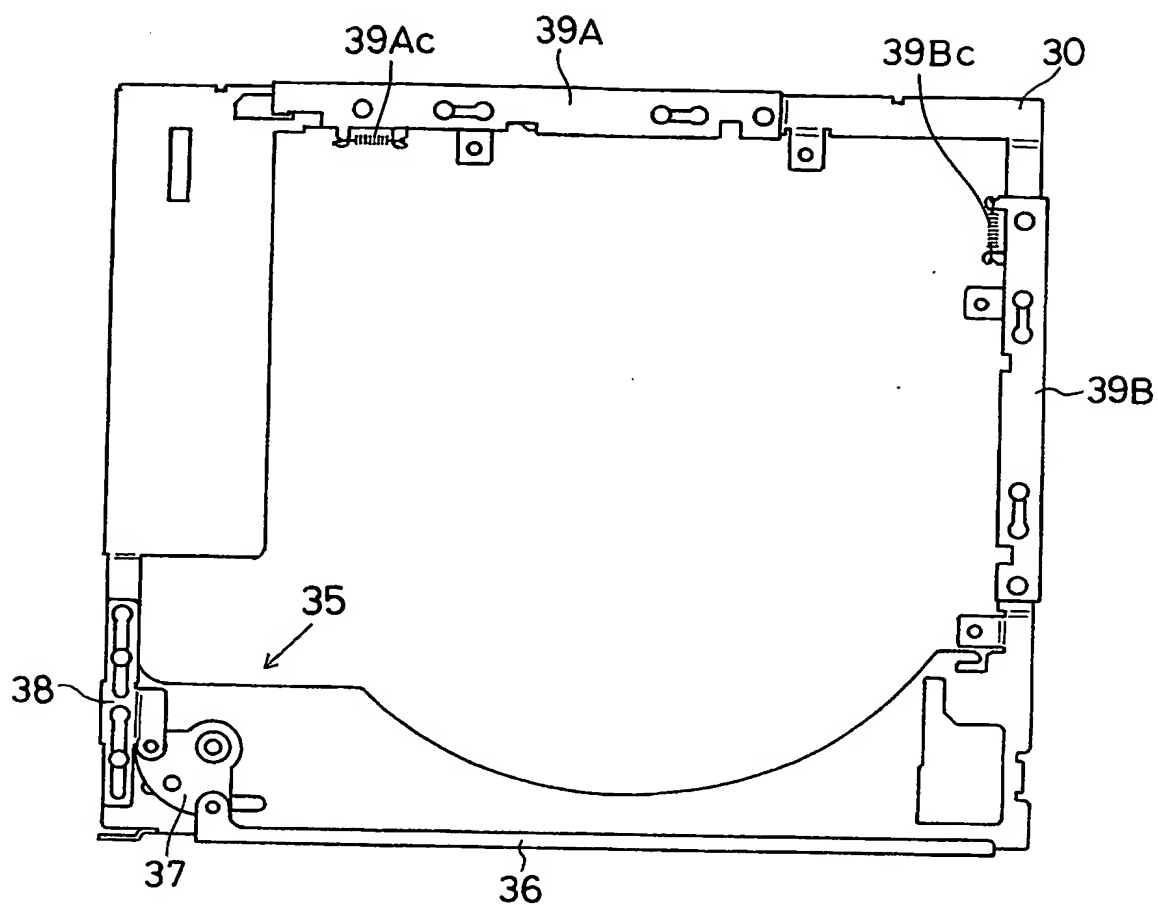
【図 4 6】



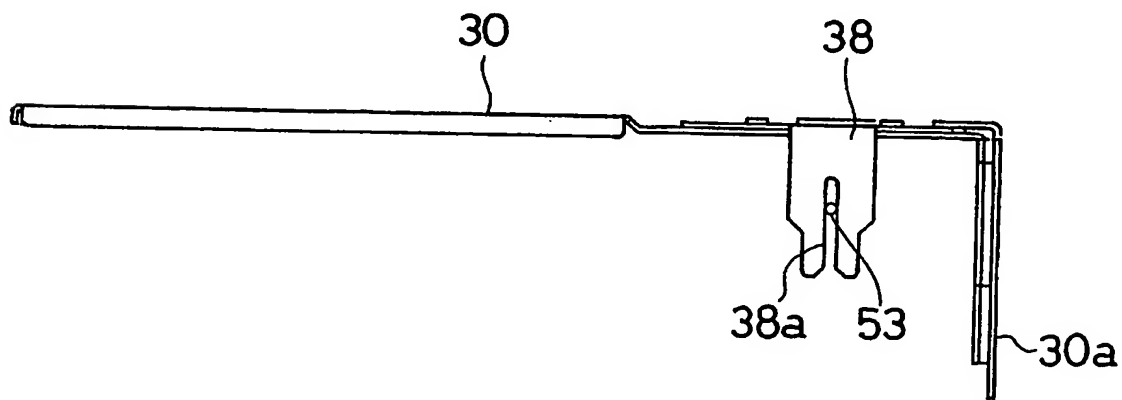
【図 4 7】



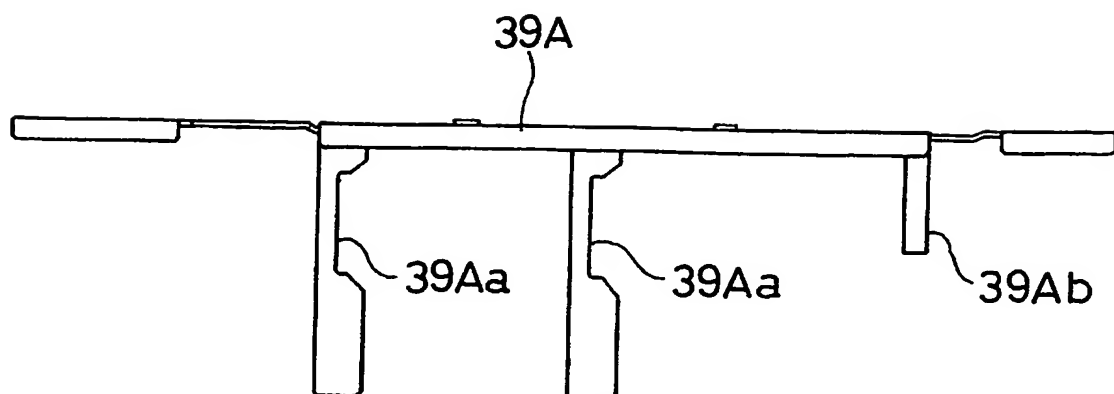
【図 48】



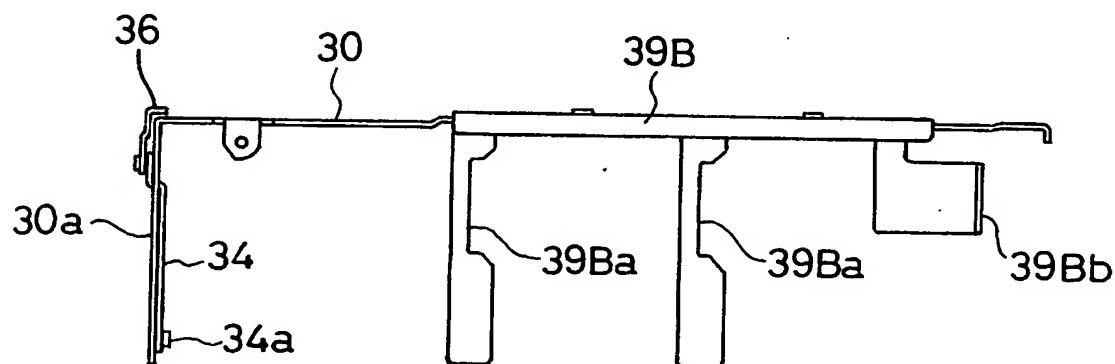
【図 49】



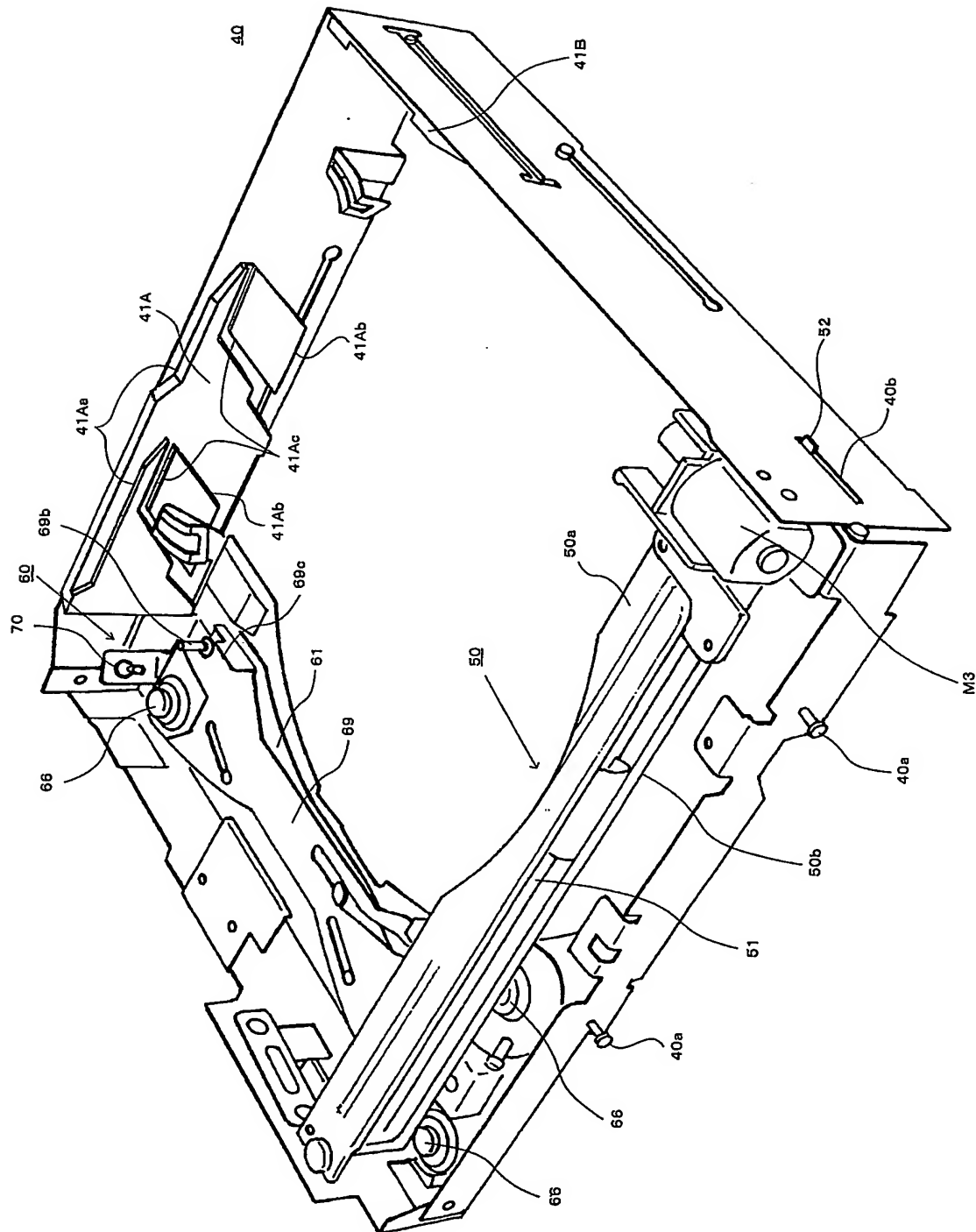
【図 50】



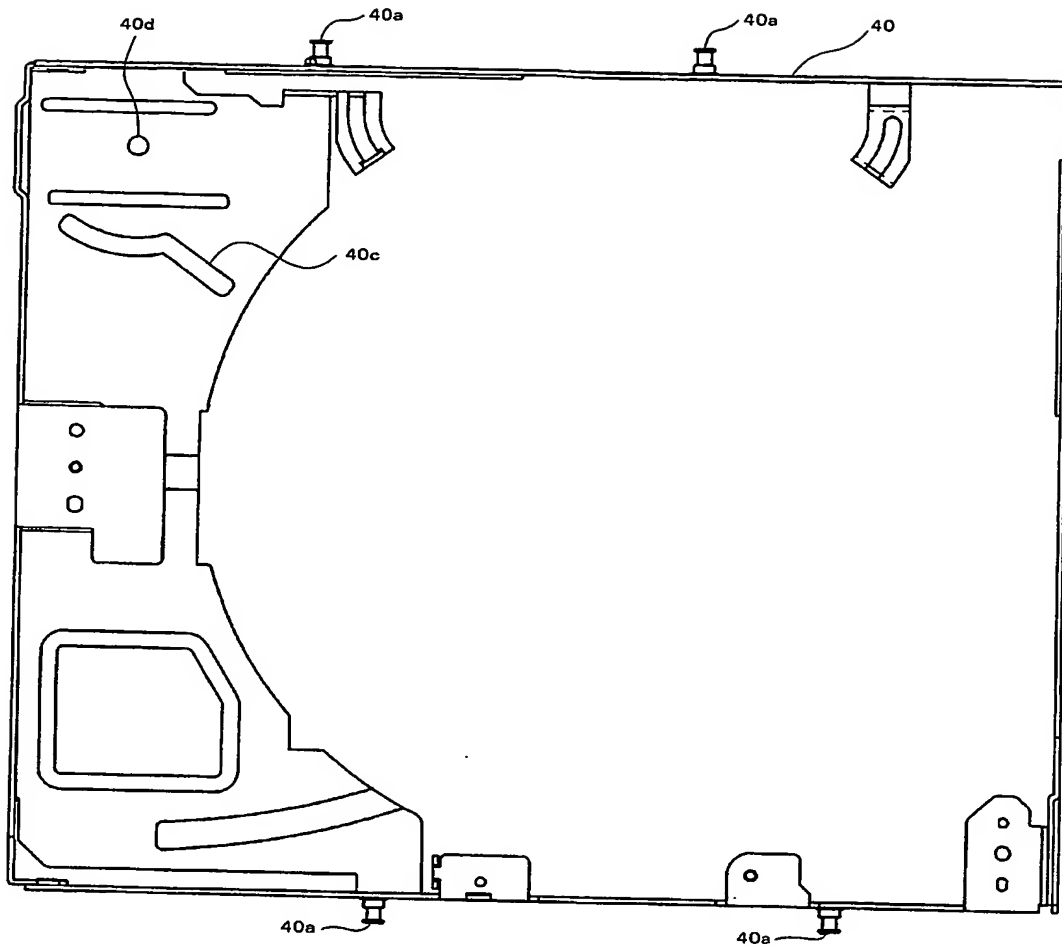
【図 51】



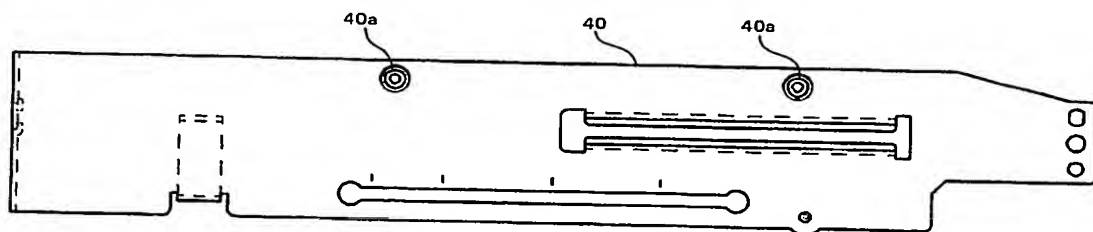
【図 52】



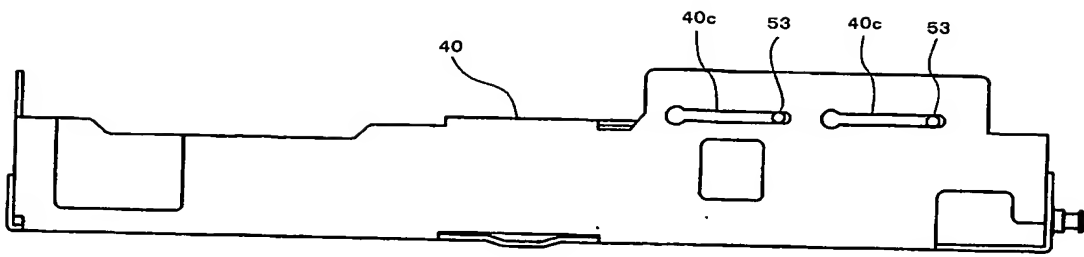
【図 5 3】



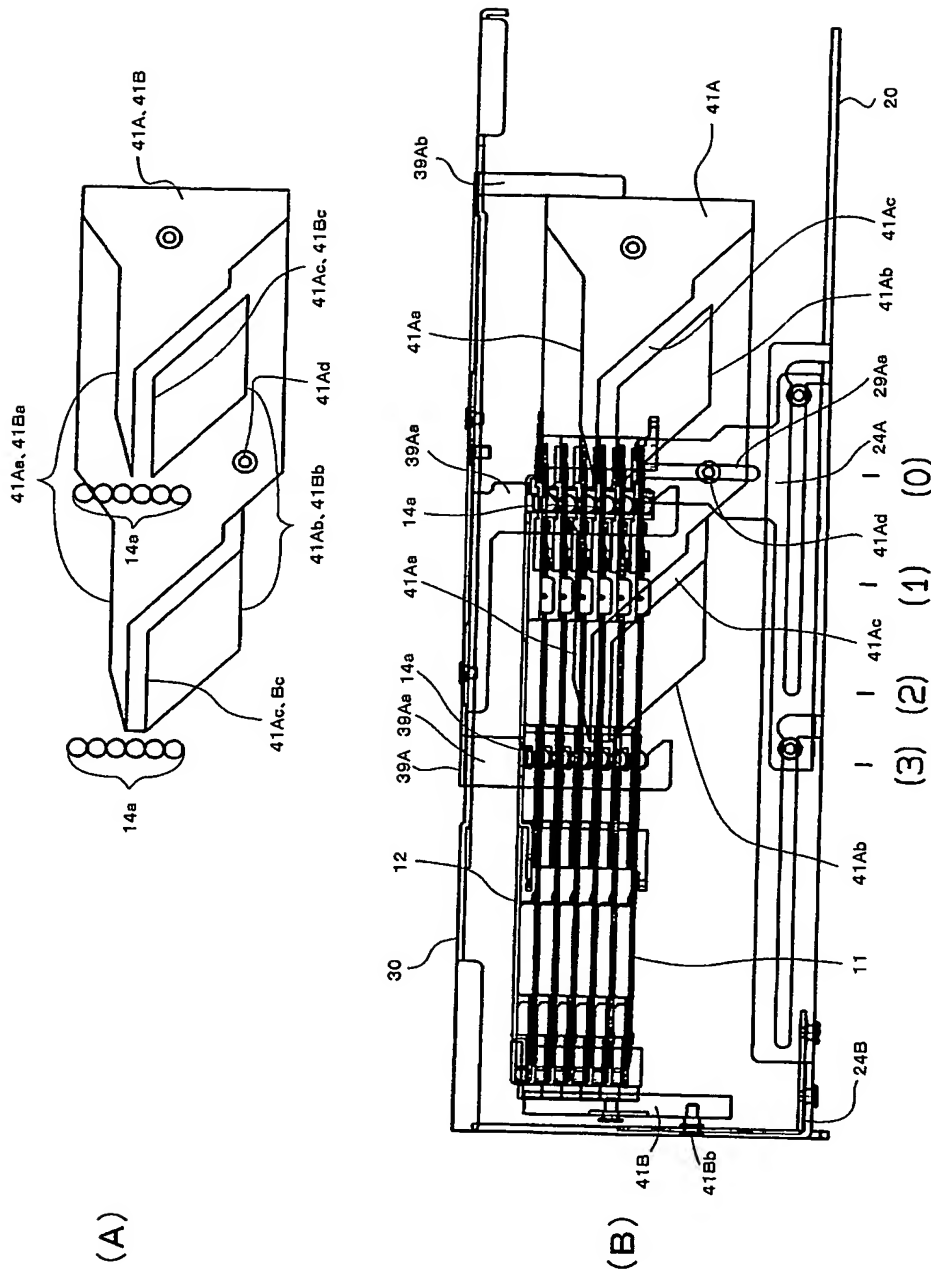
【図 5 4】



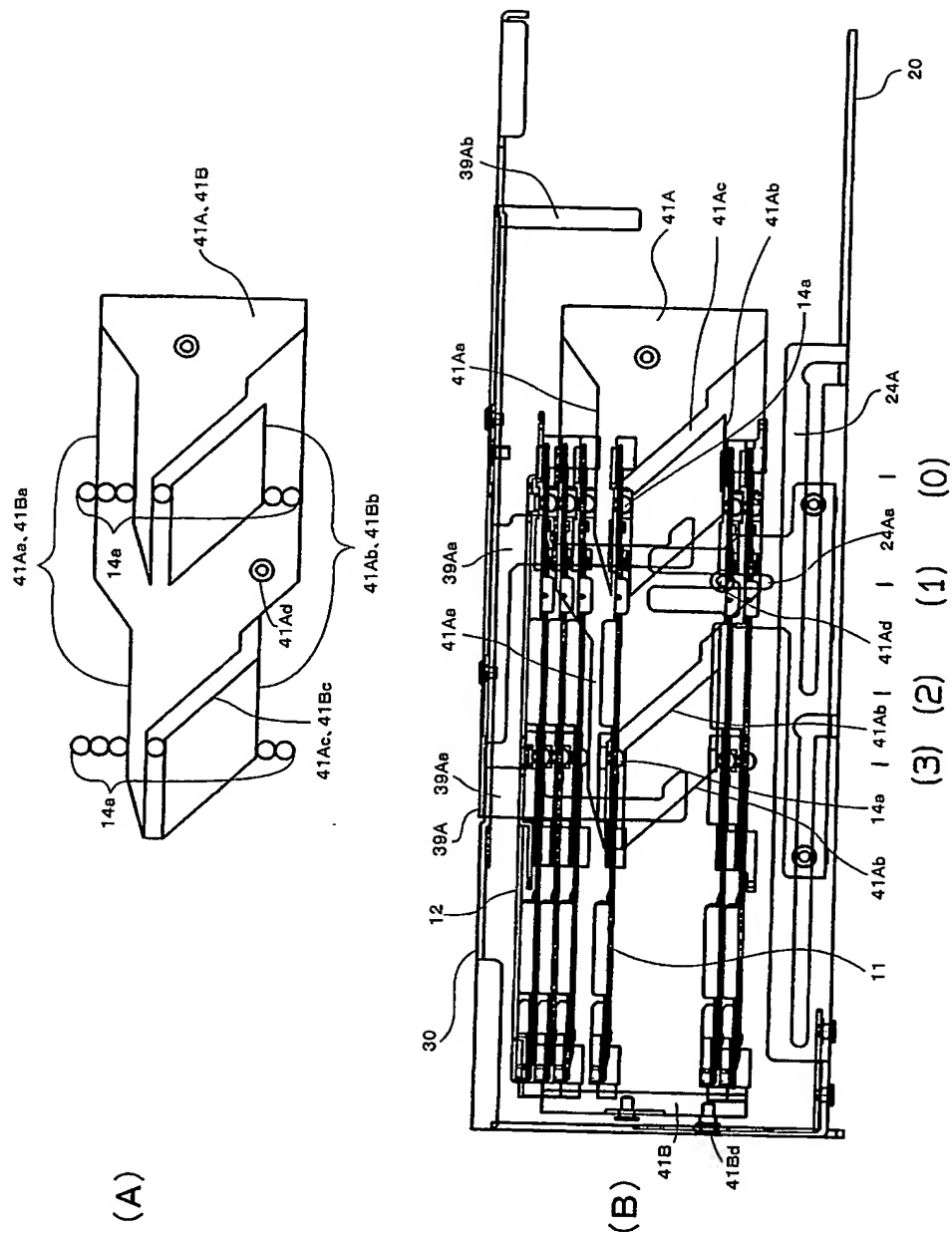
【図 55】



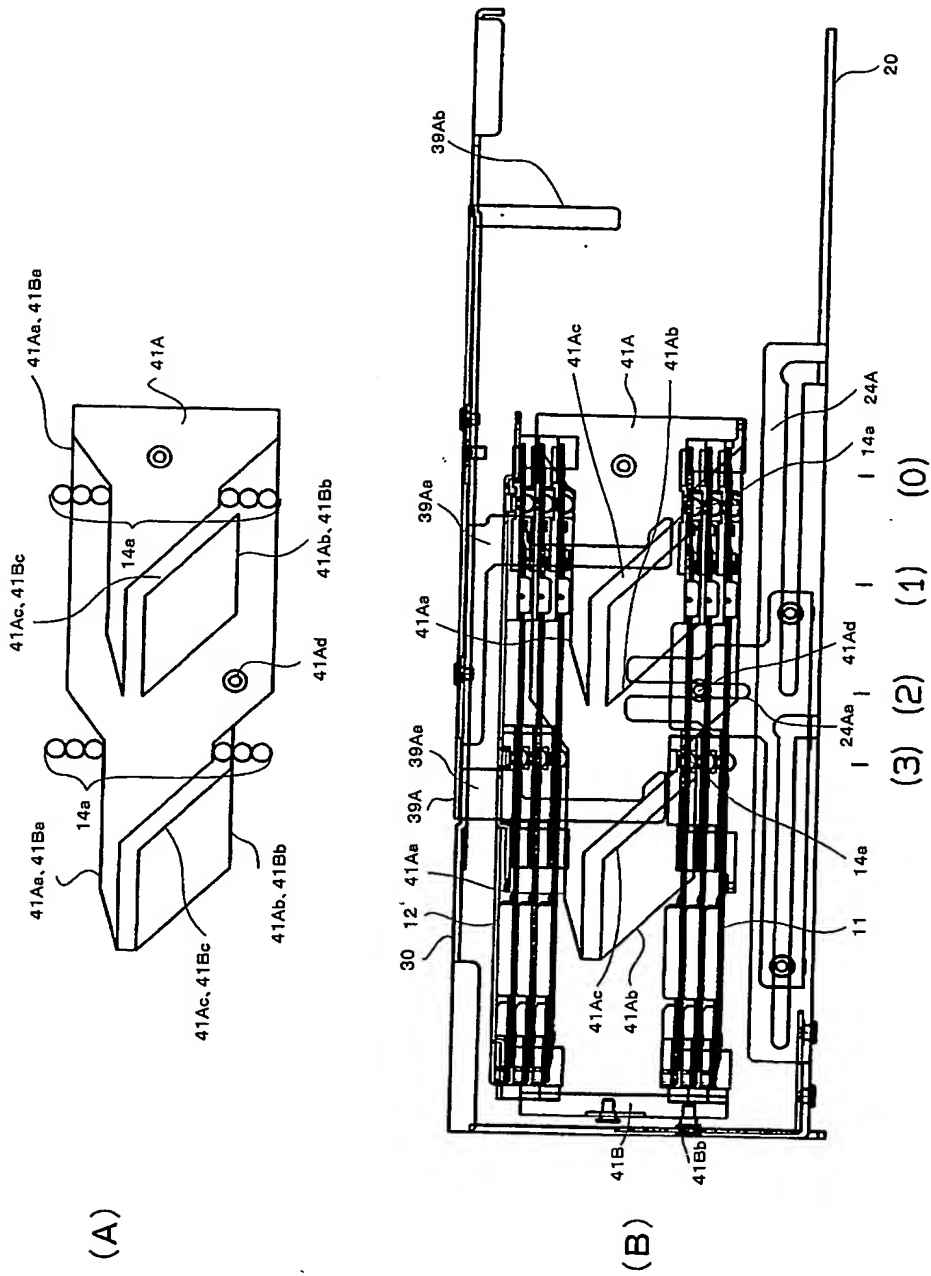
【図56】



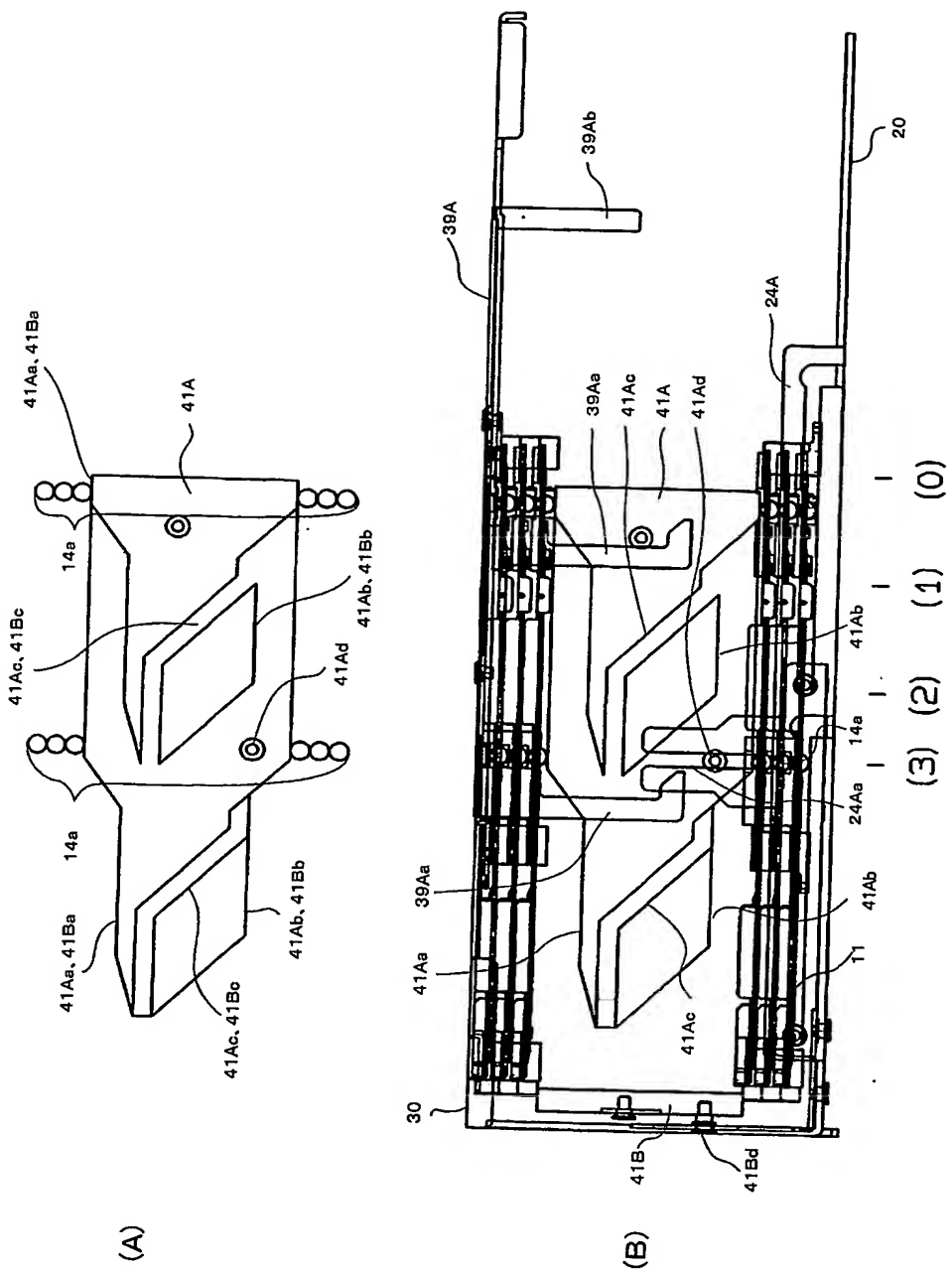
【図 57】



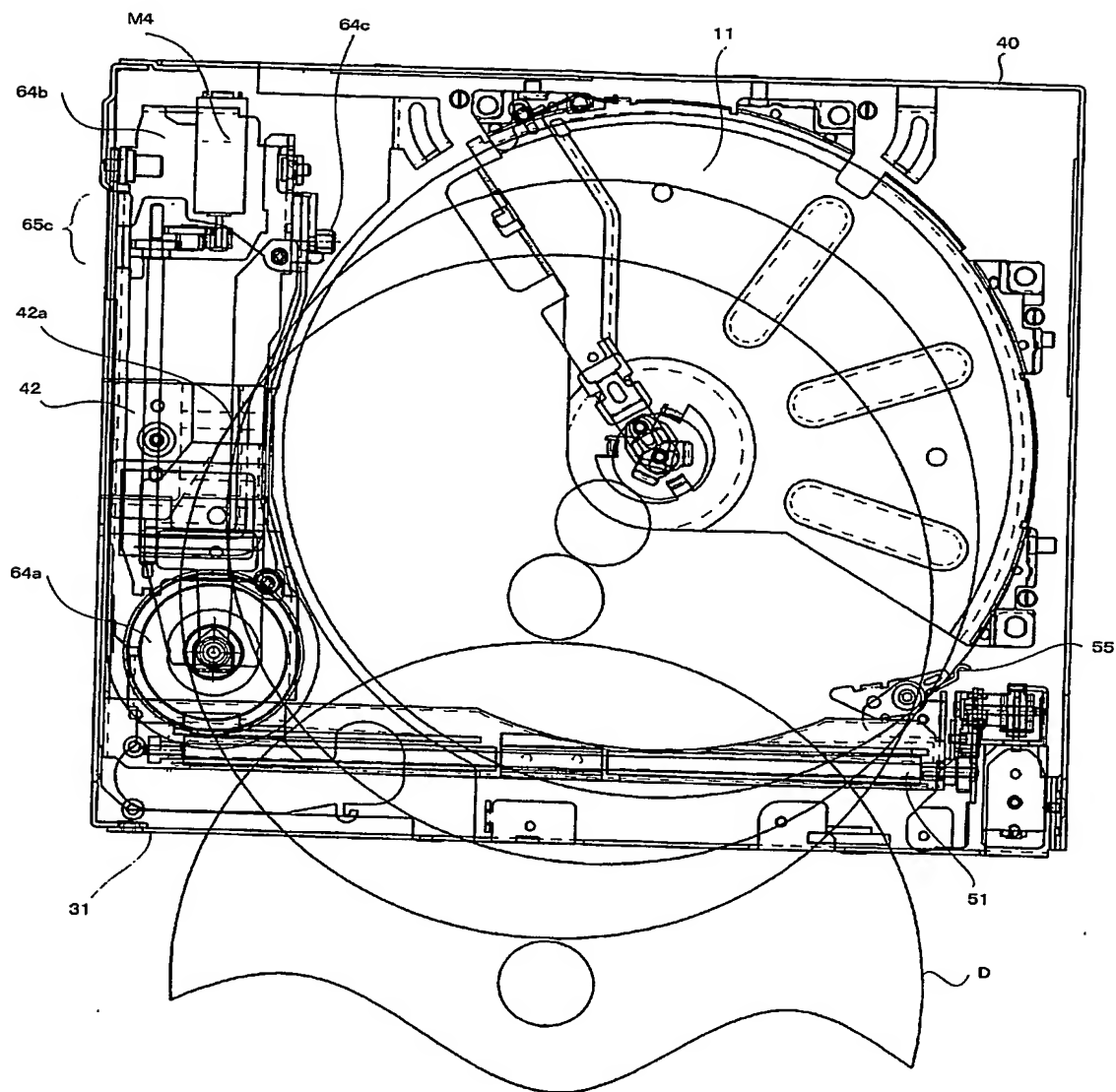
【図58】



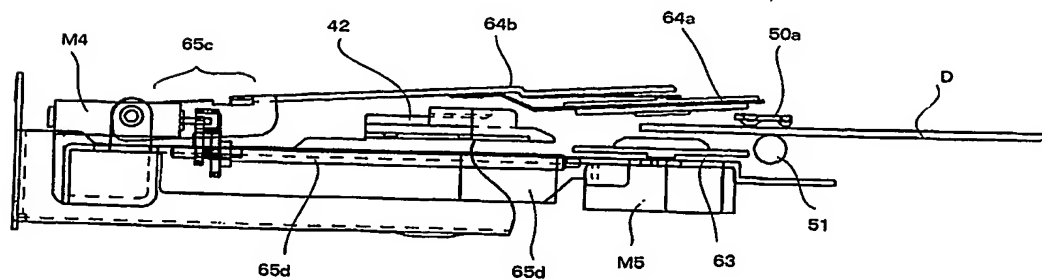
【図 59】



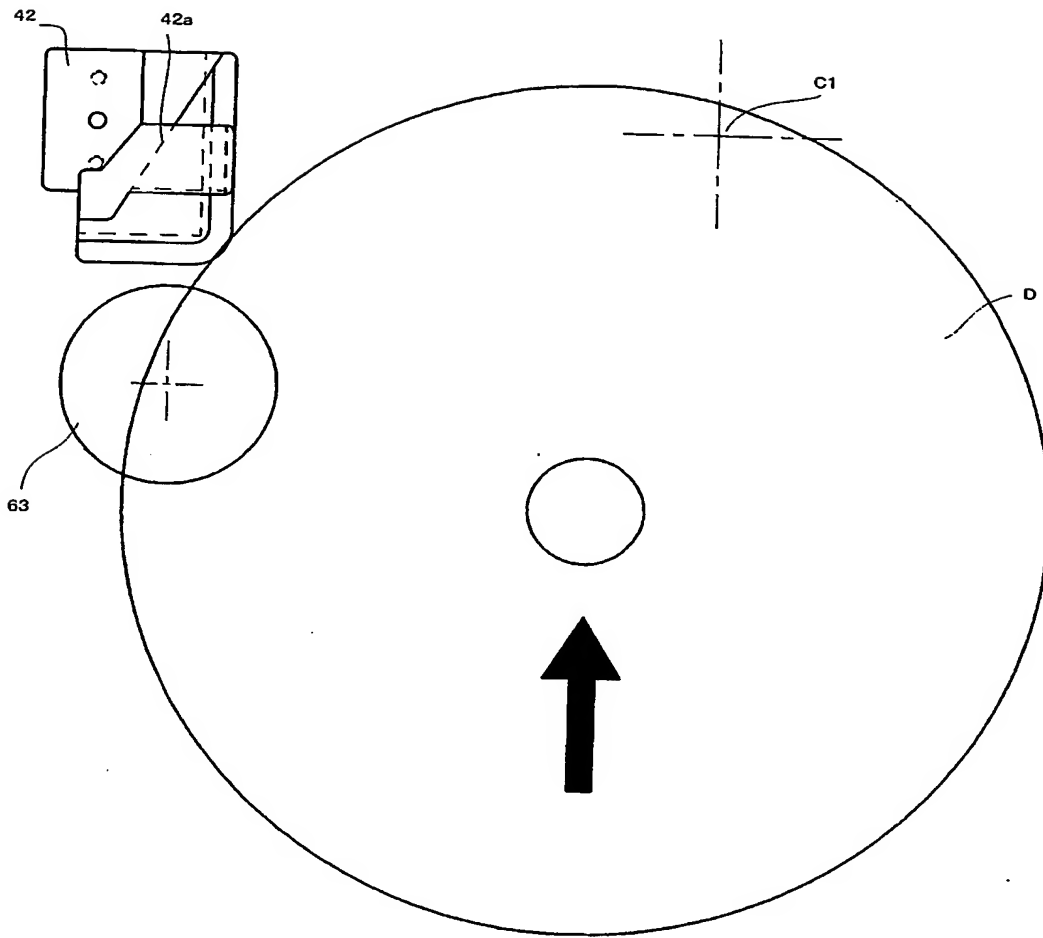
【図 60】



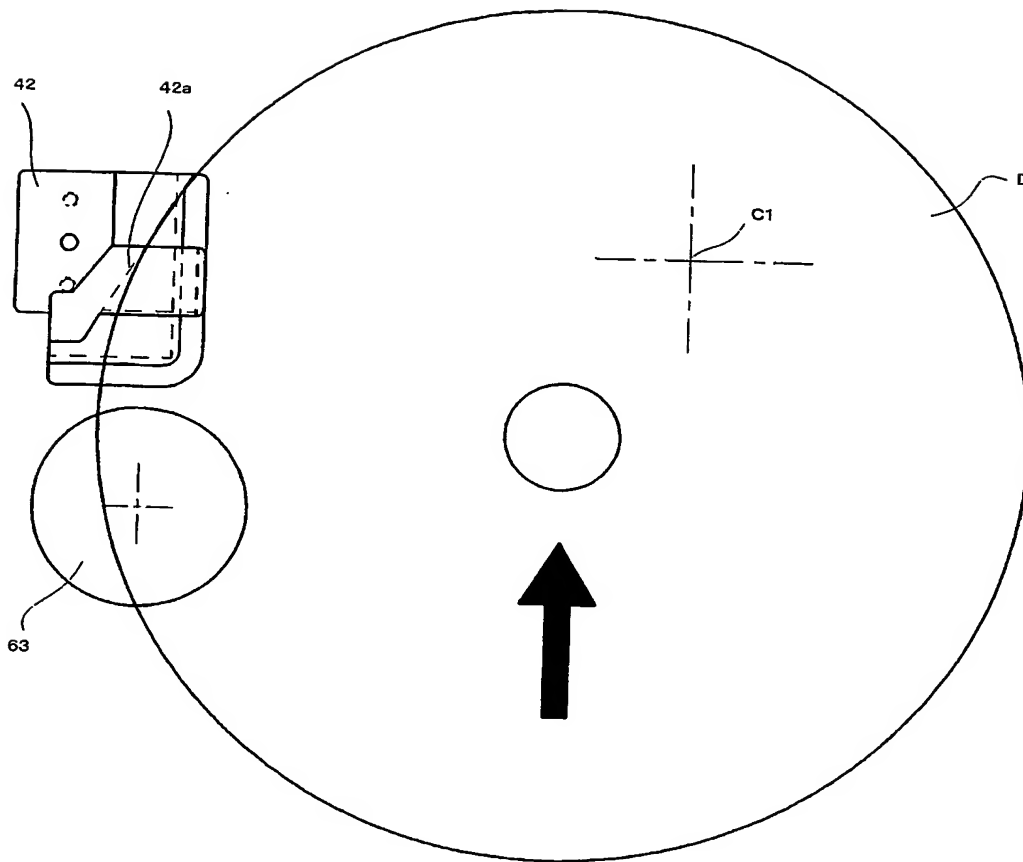
【図 61】



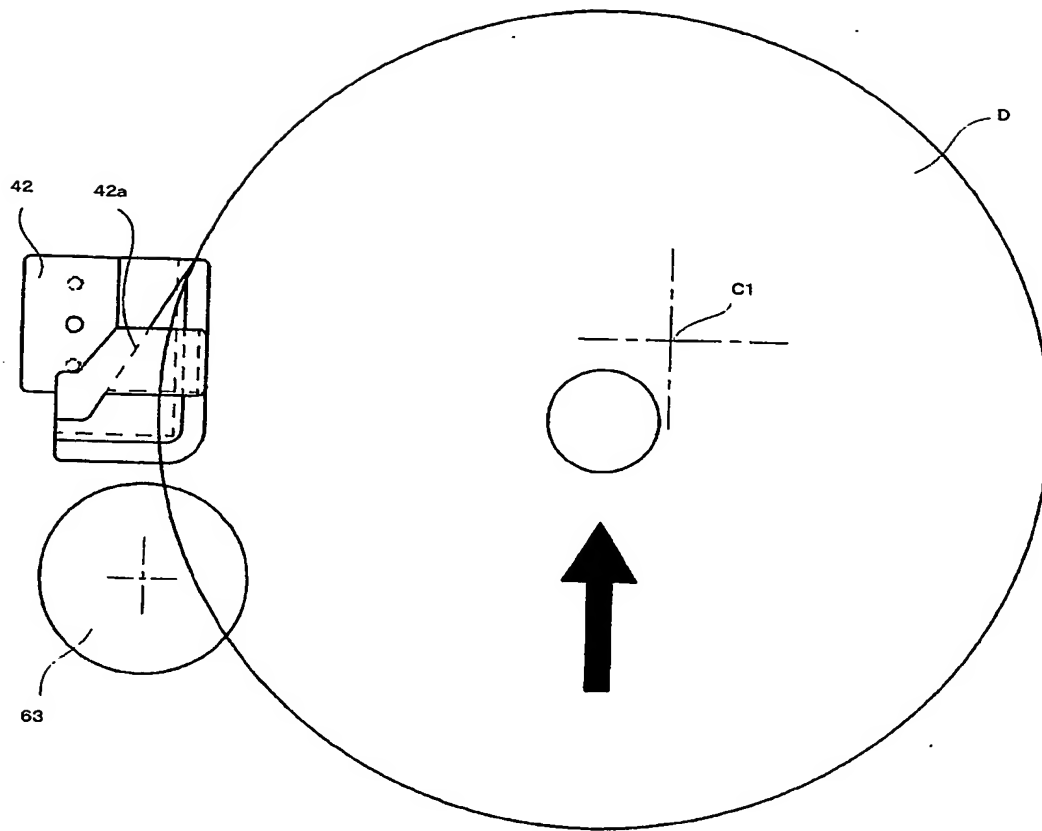
【図 62】



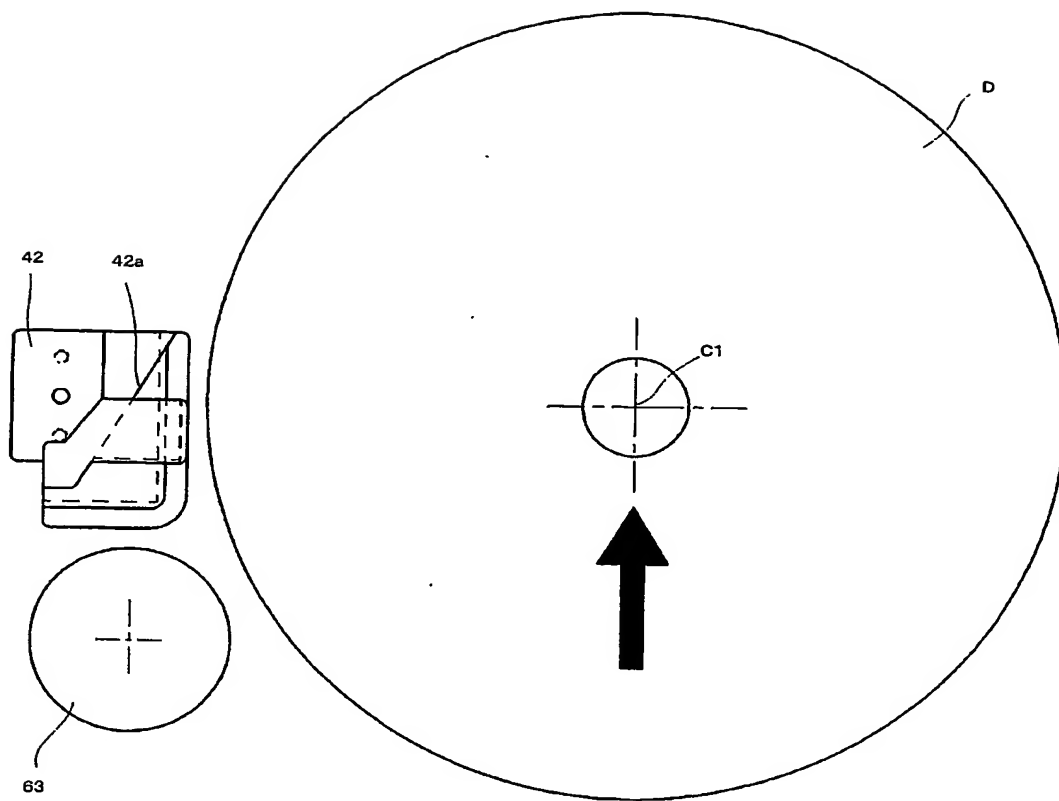
【図 63】



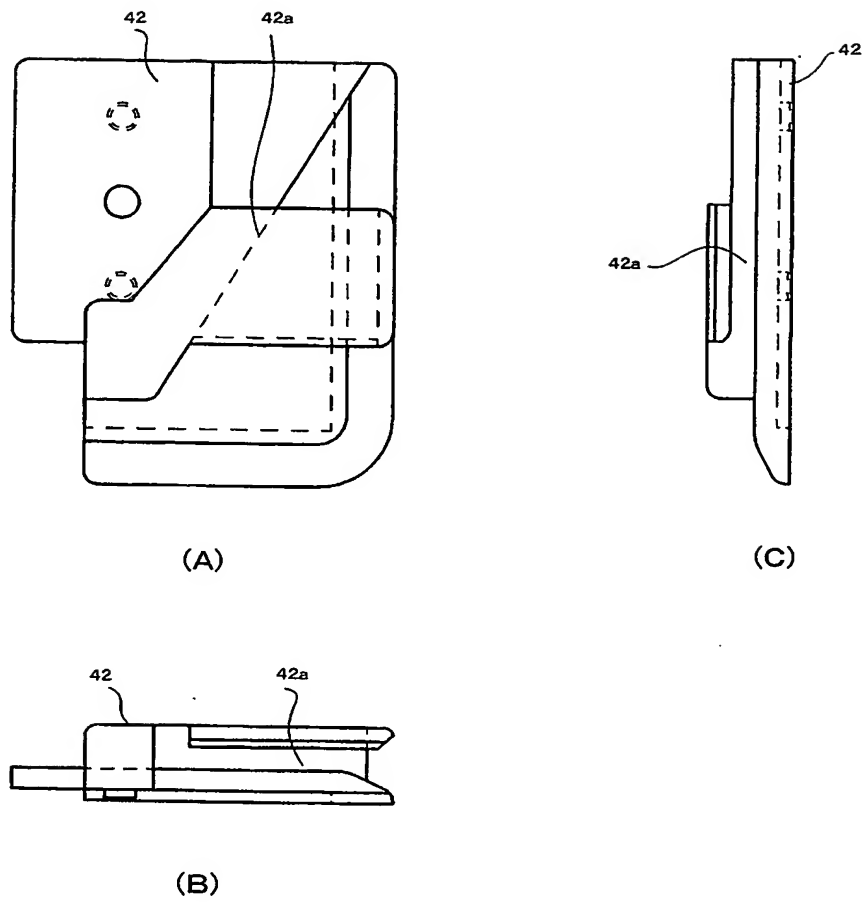
【図 6 4】



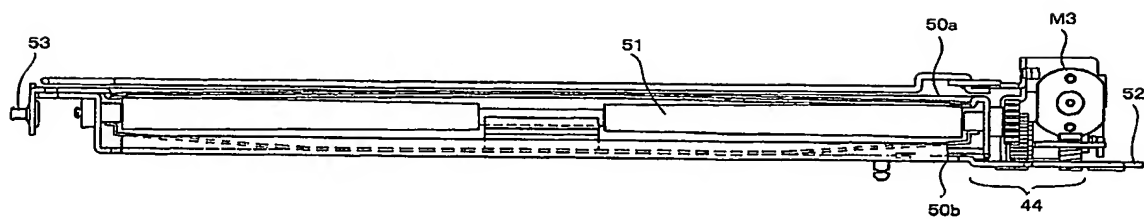
【図 65】



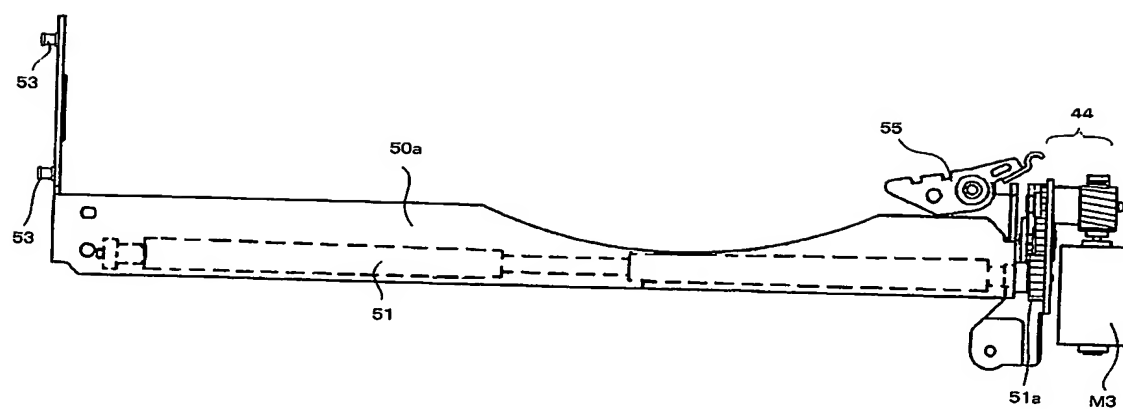
【図 6 6】



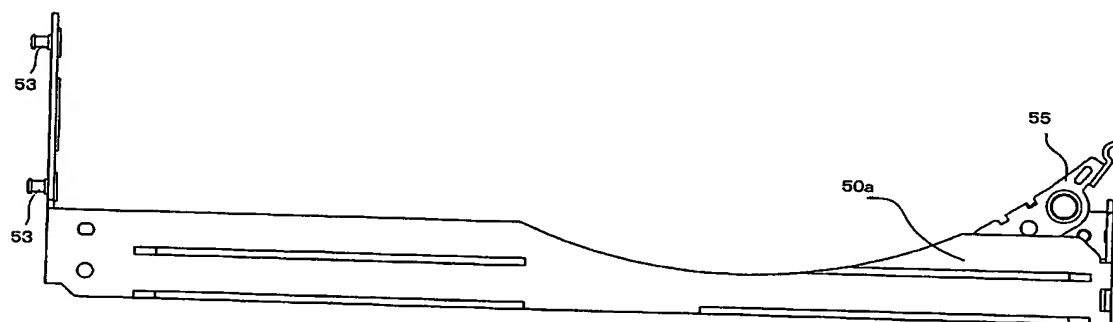
【図 6 7】



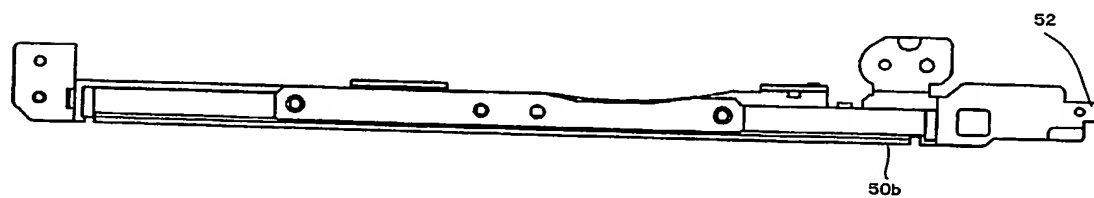
【図 68】



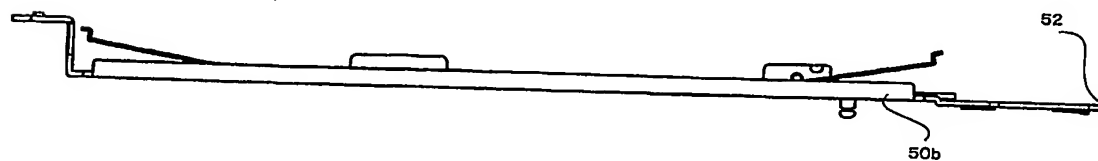
【図 69】



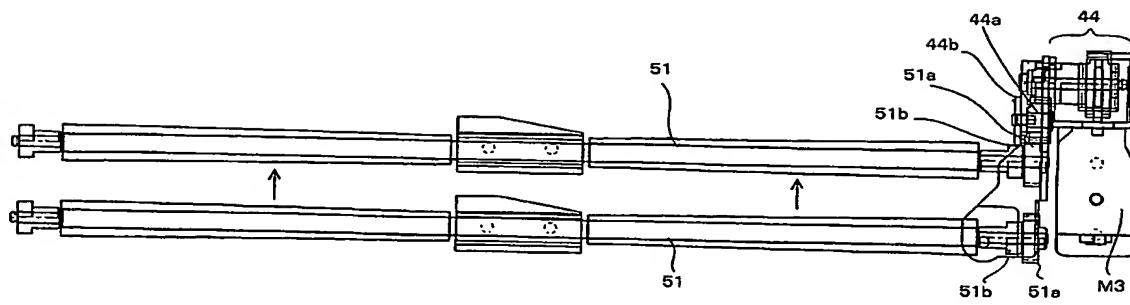
【図 70】



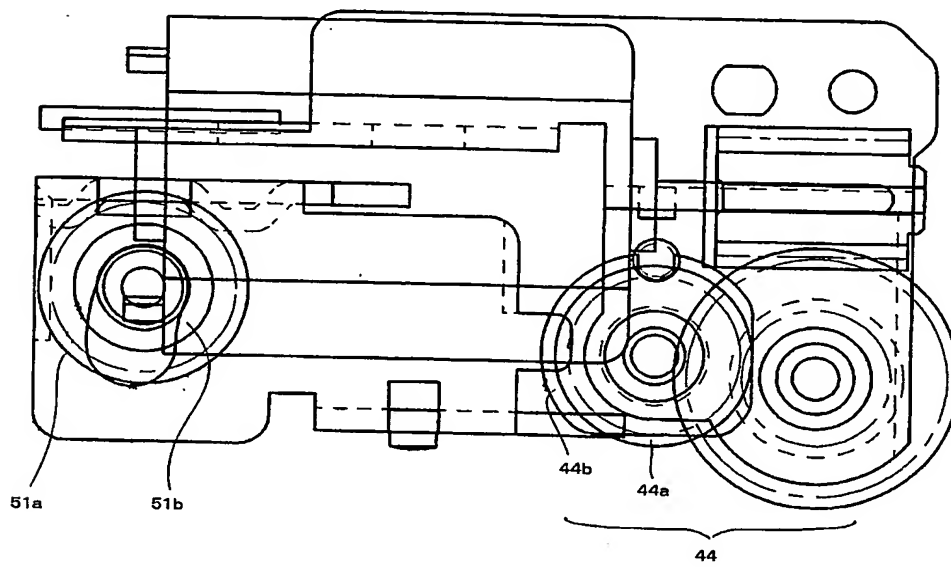
【図 71】



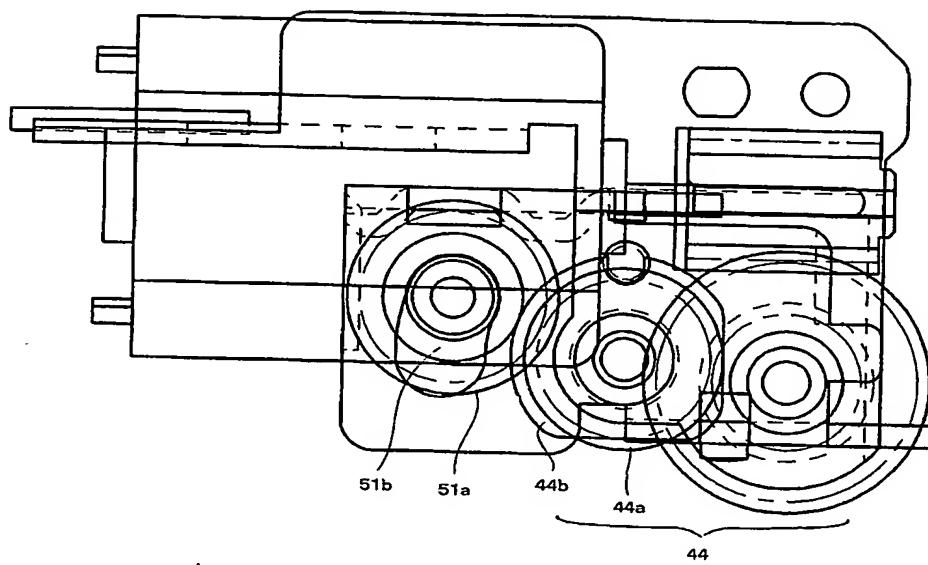
【図 7 2】



【図 7 3】

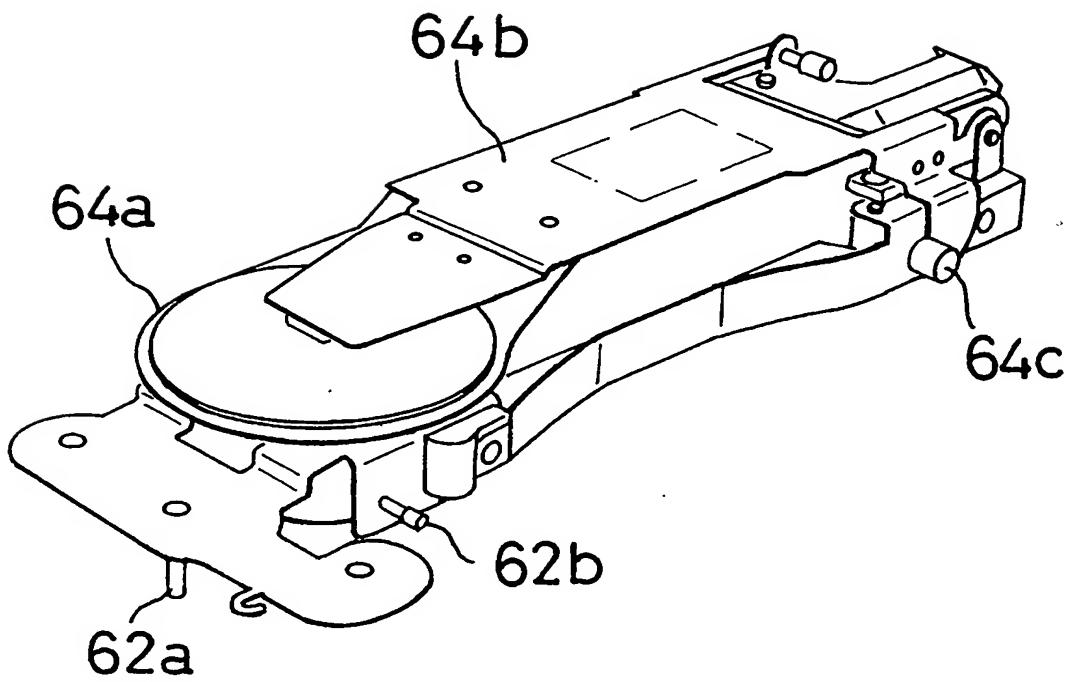


【図 74】

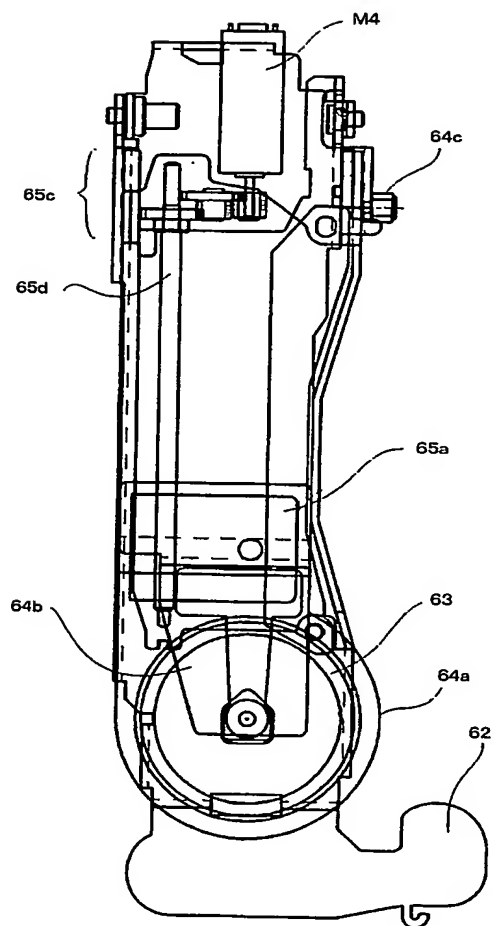


【図 75】

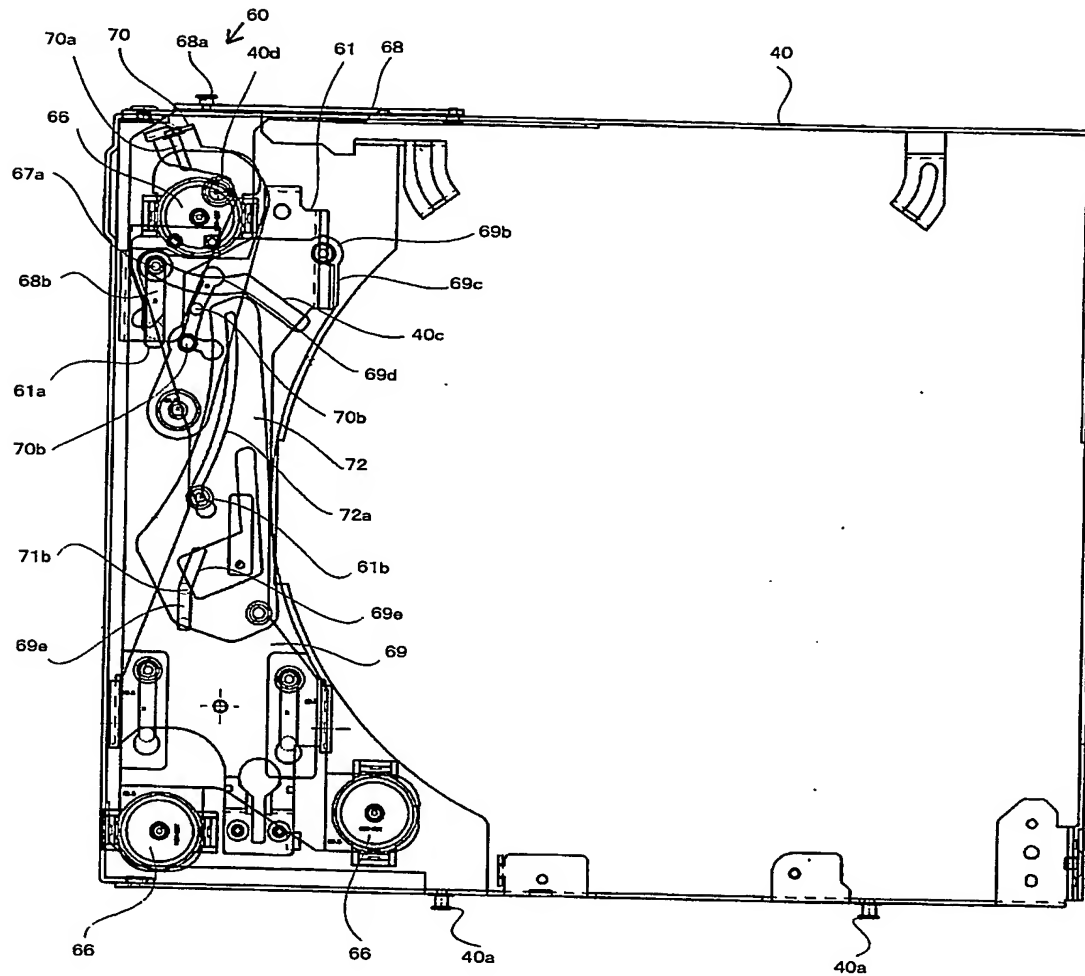
62



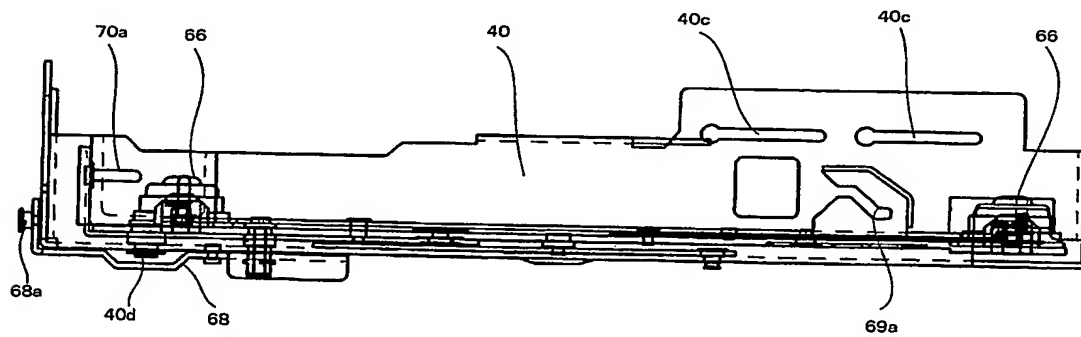
【図 76】



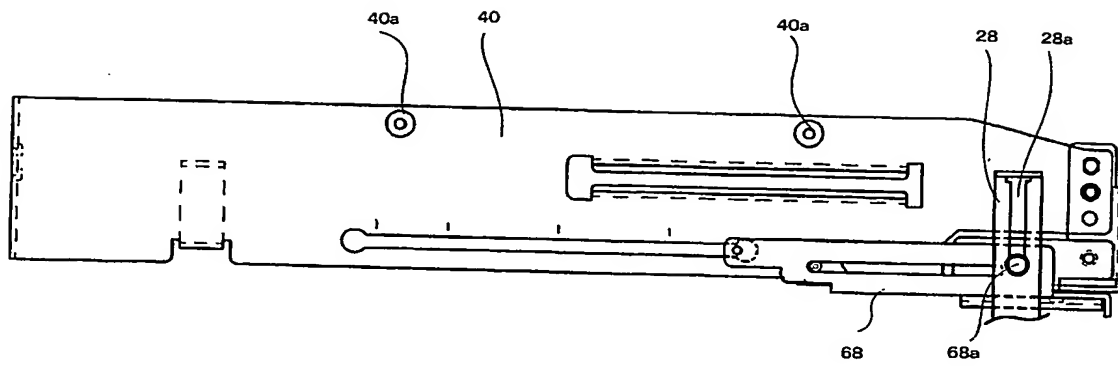
【図 77】



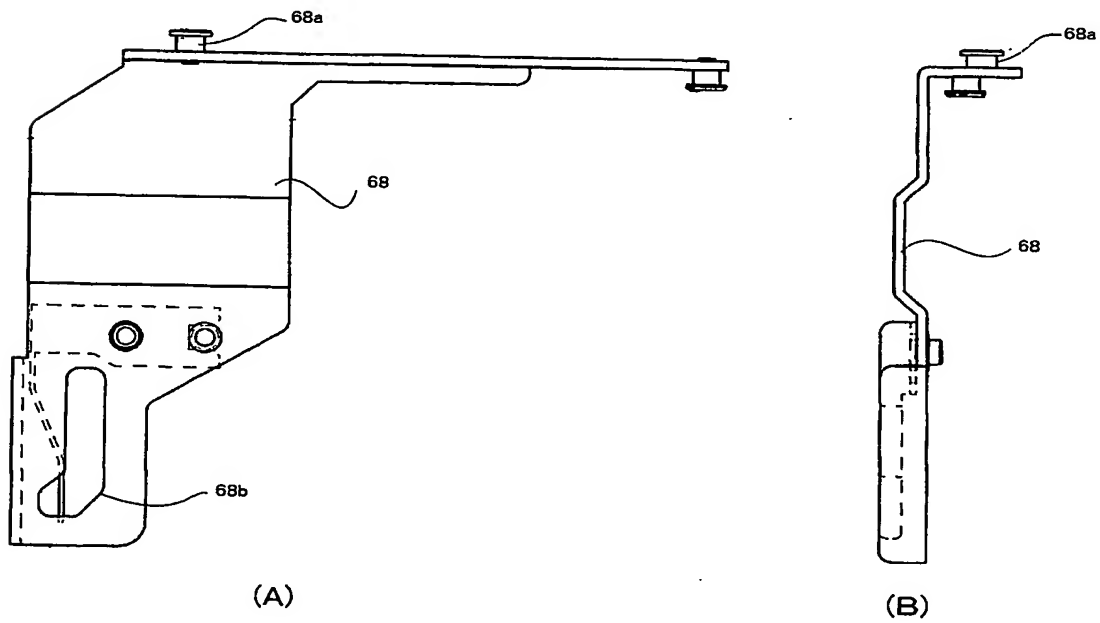
【図 78】



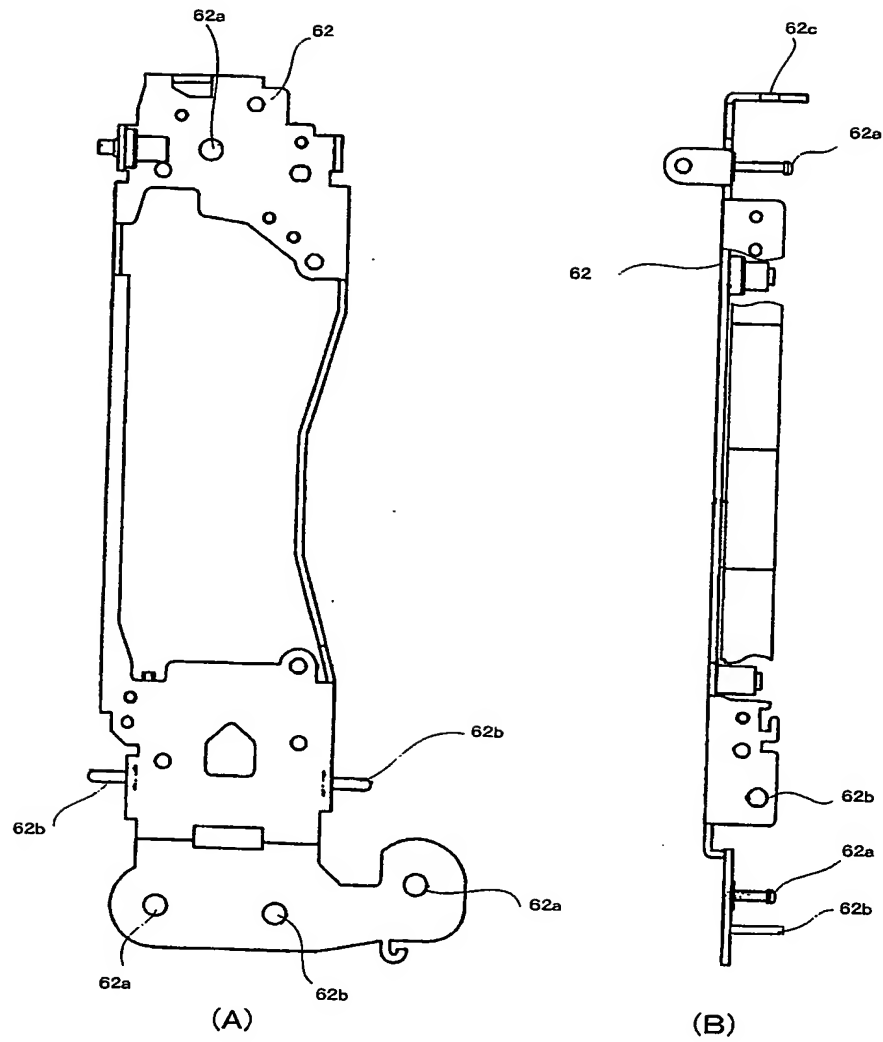
【図 79】



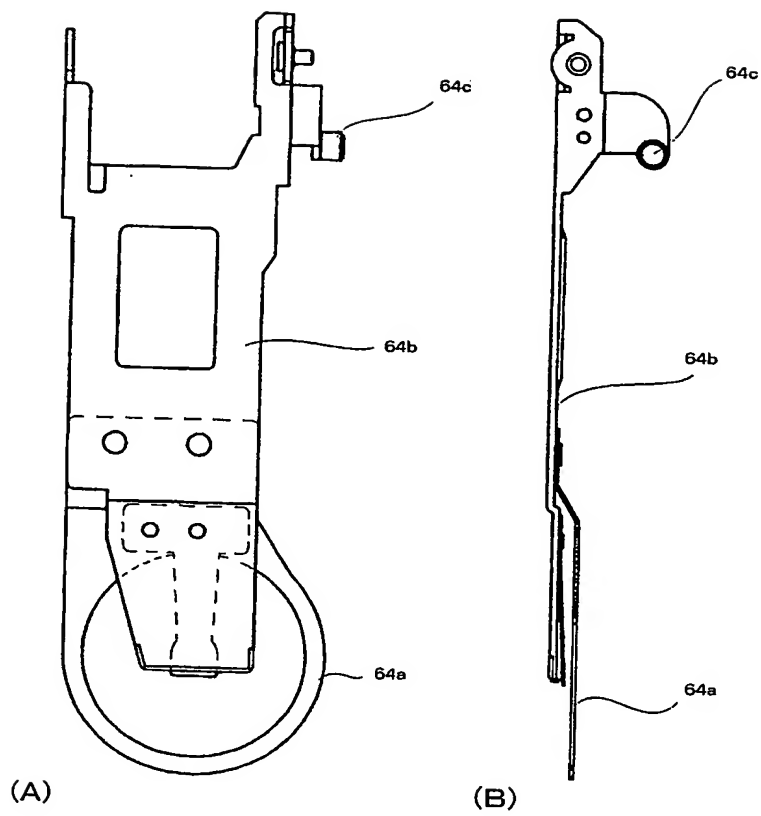
【図 80】



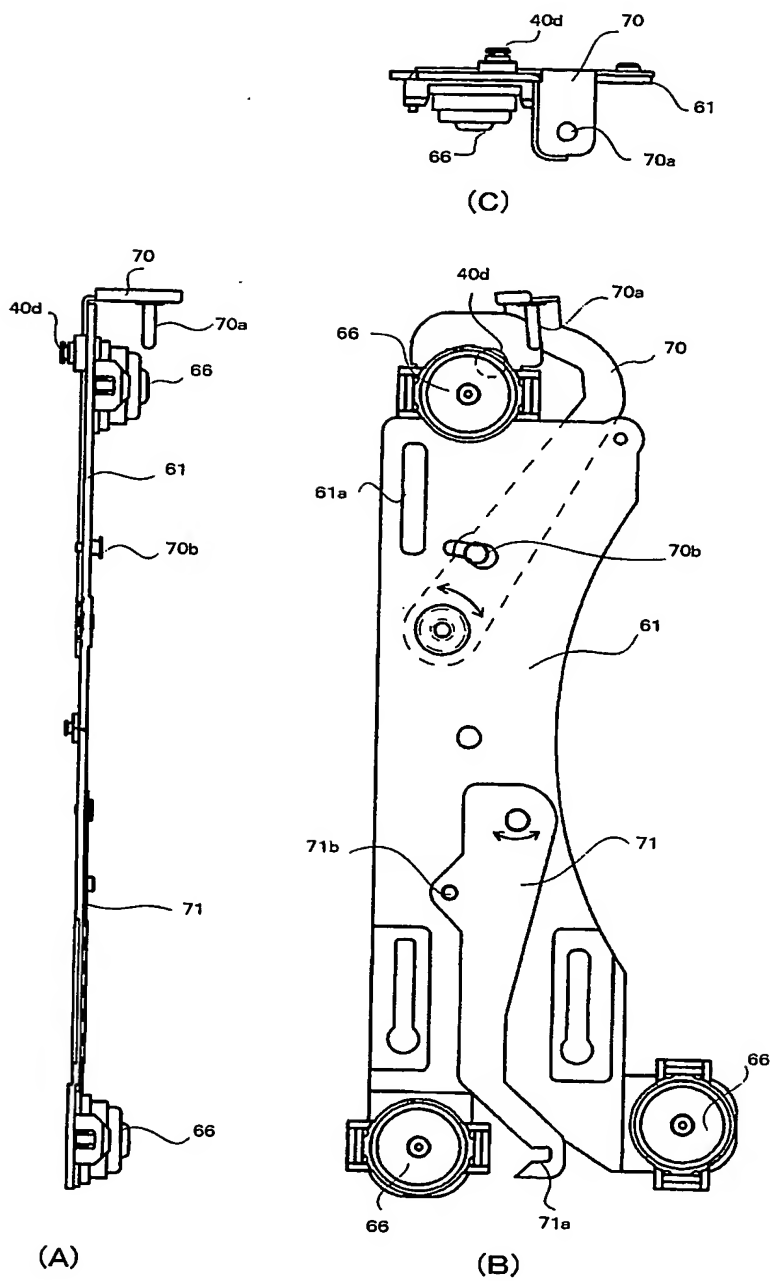
【図 81】



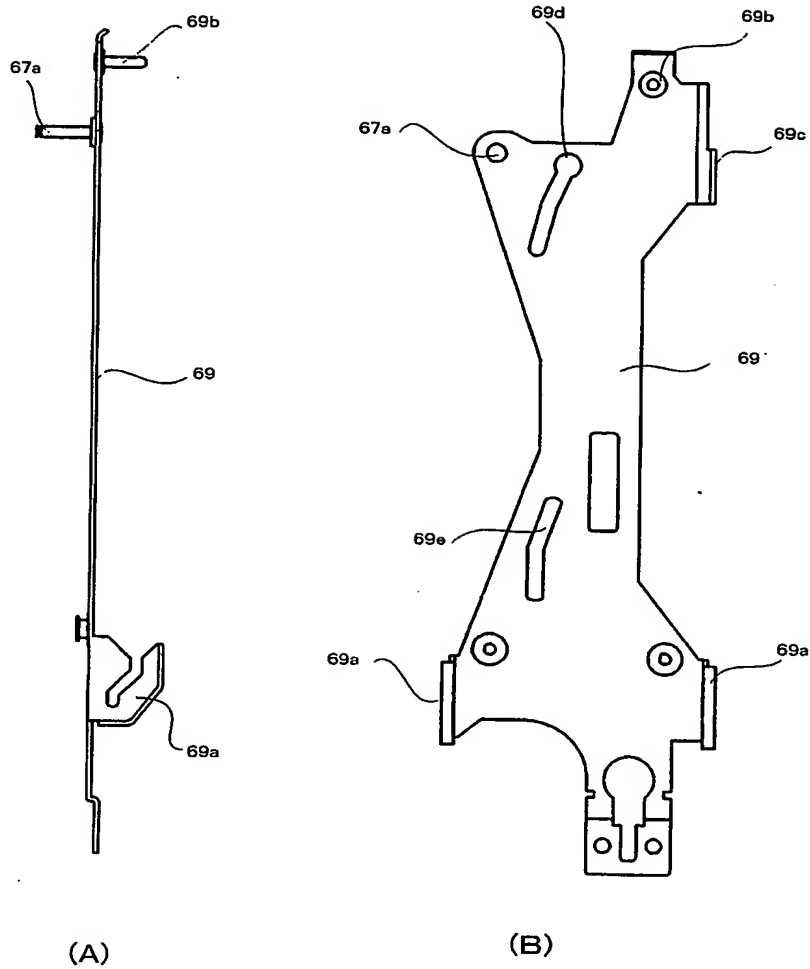
【図 82】



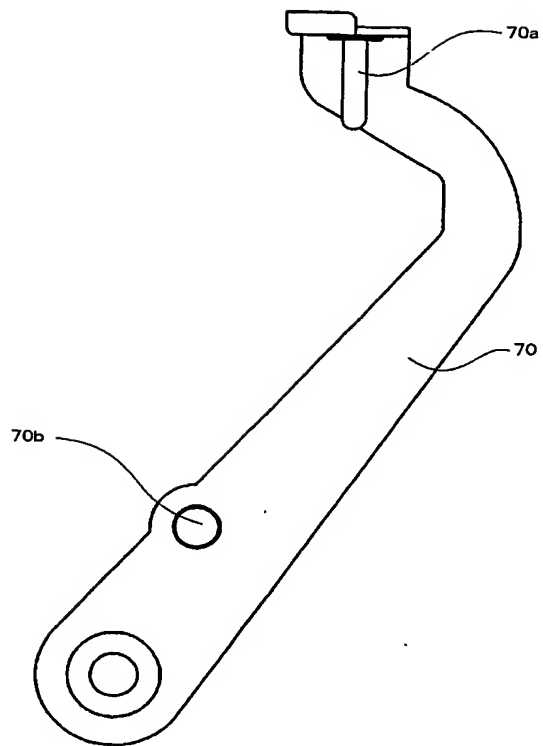
【図 83】



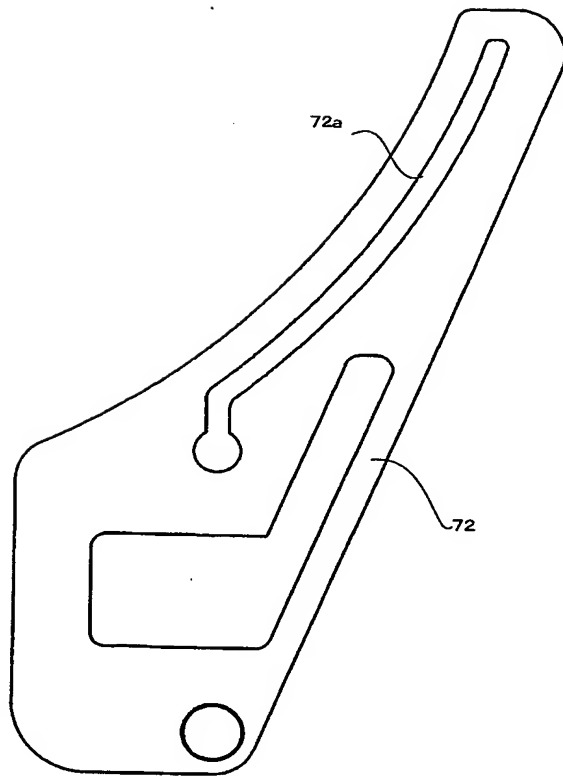
【図 84】



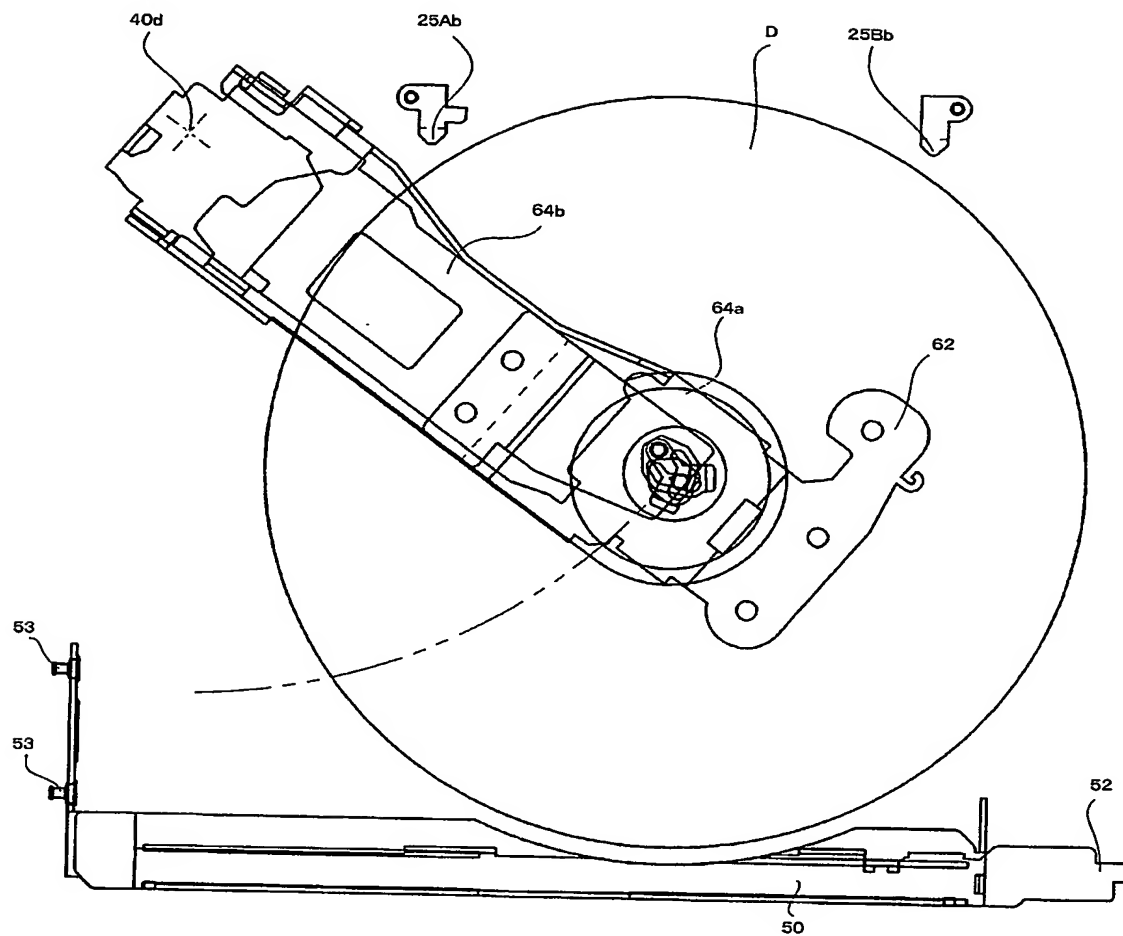
【図 85】



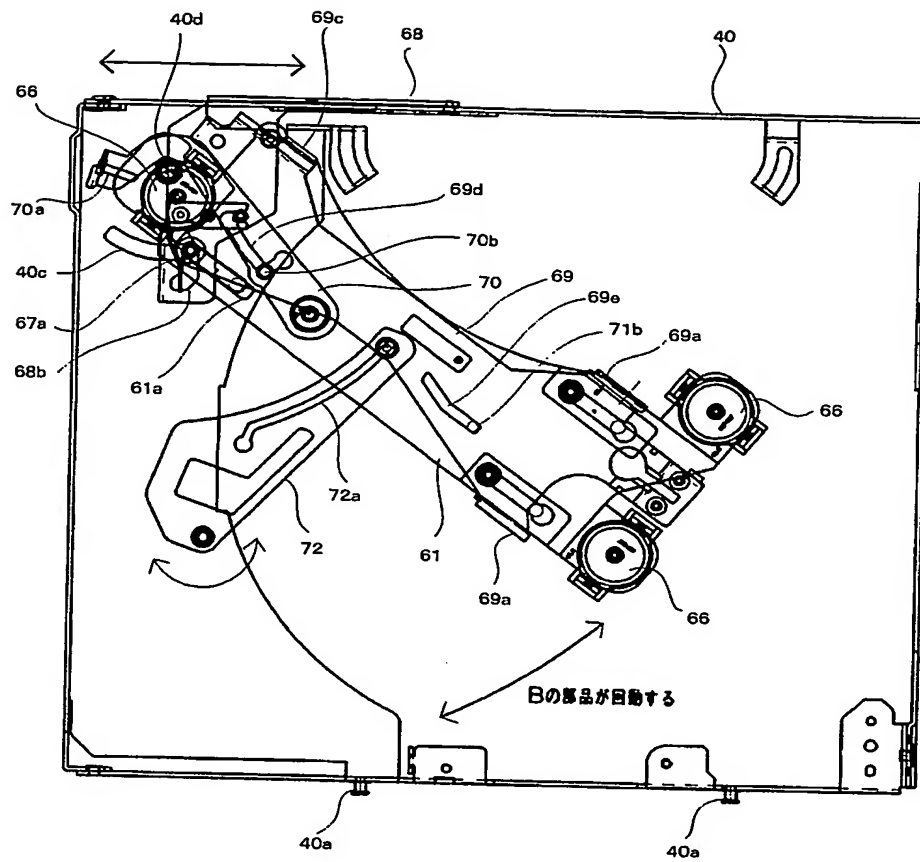
【図 86】



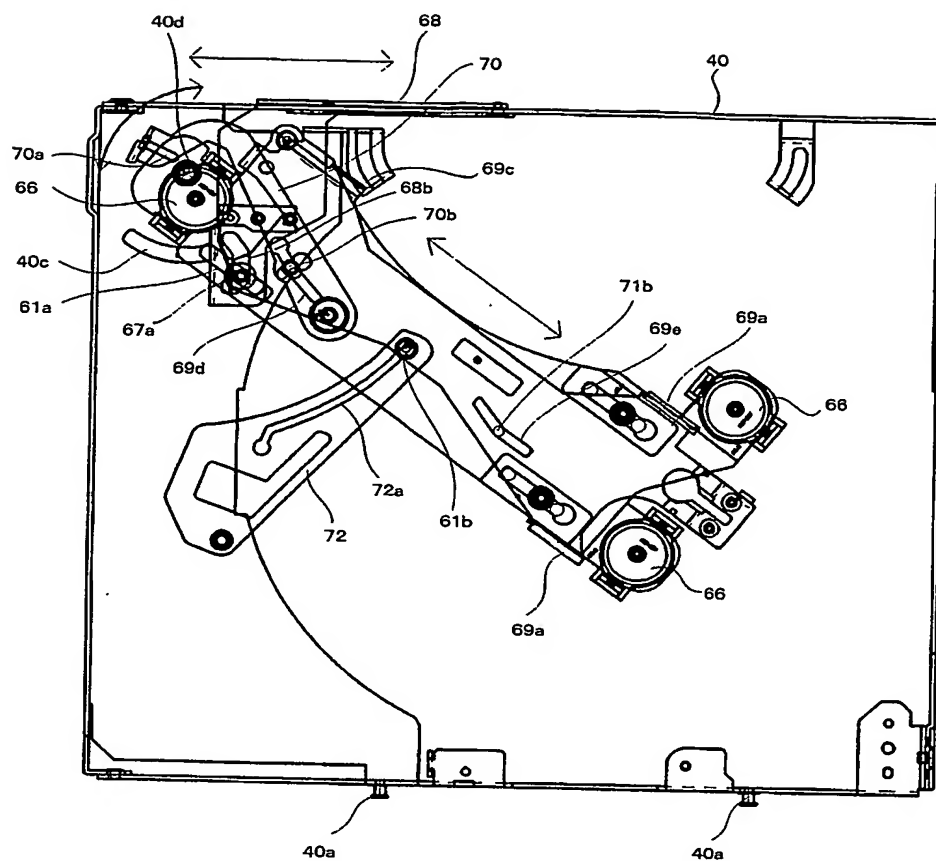
【図 87】



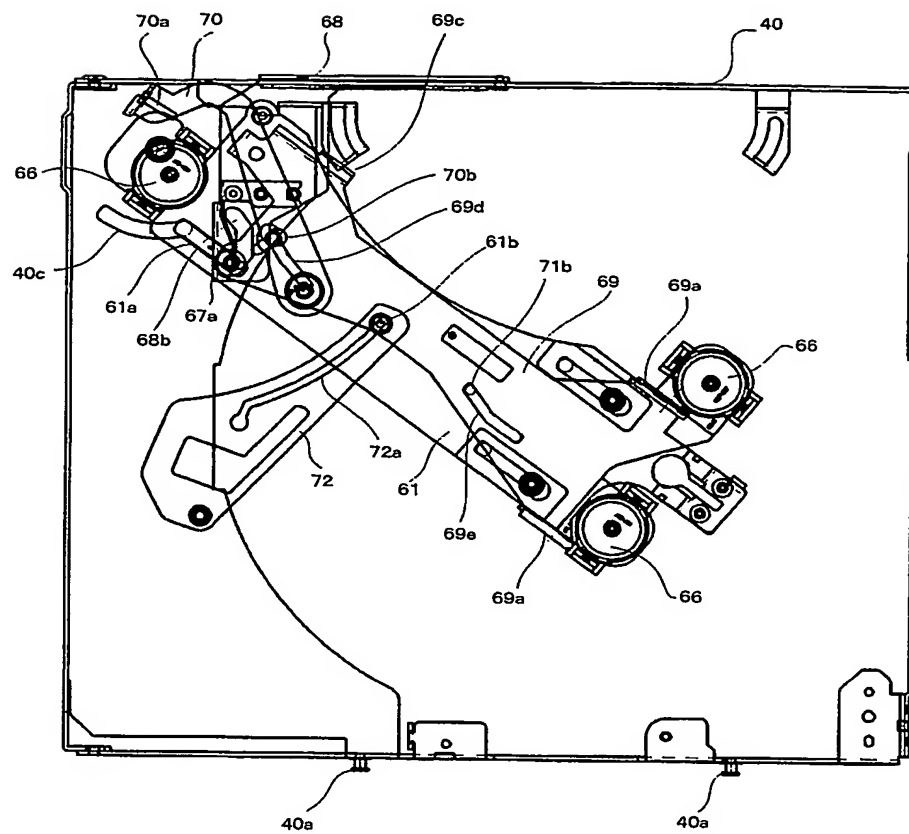
【図 88】



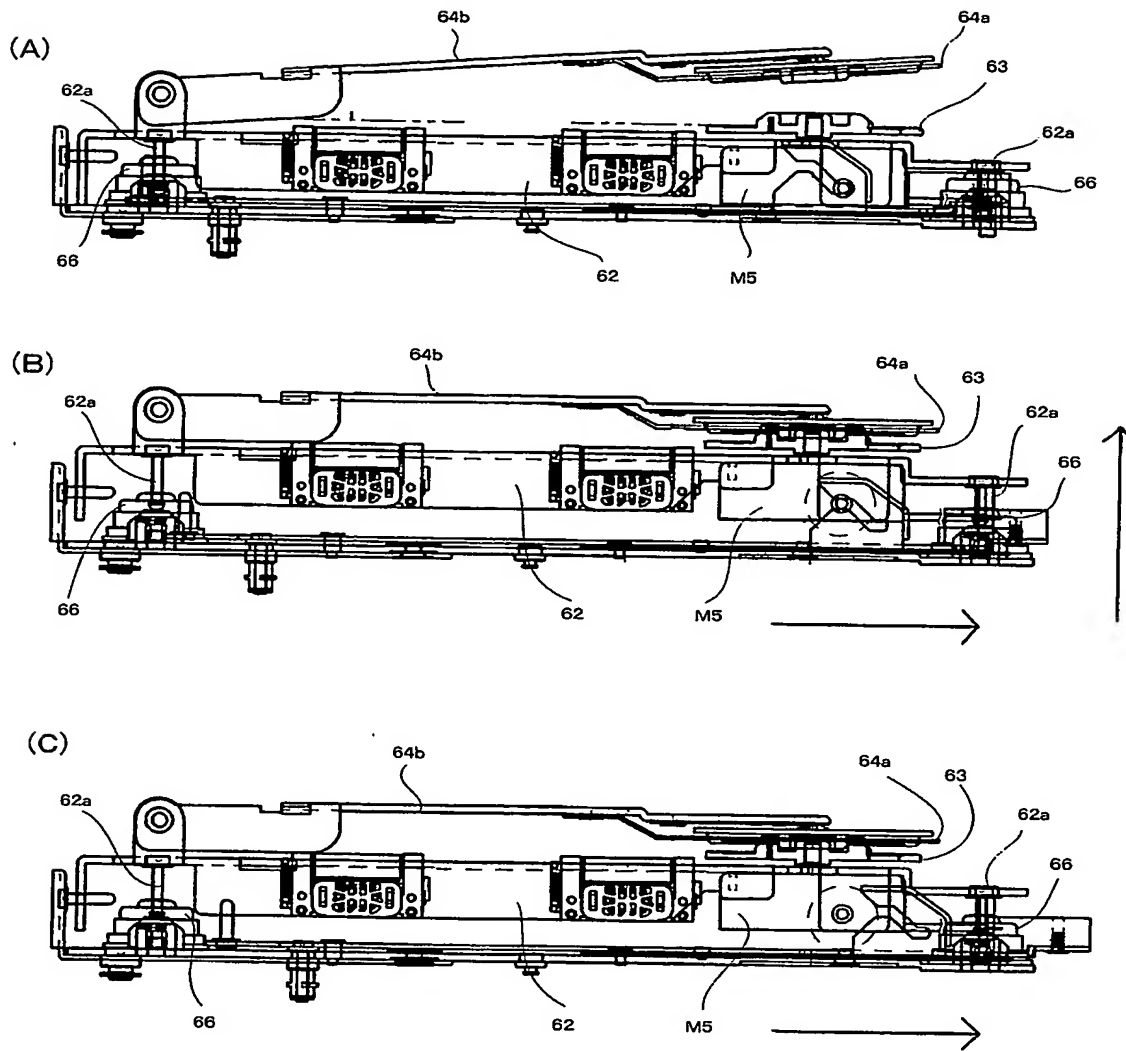
【図 89】



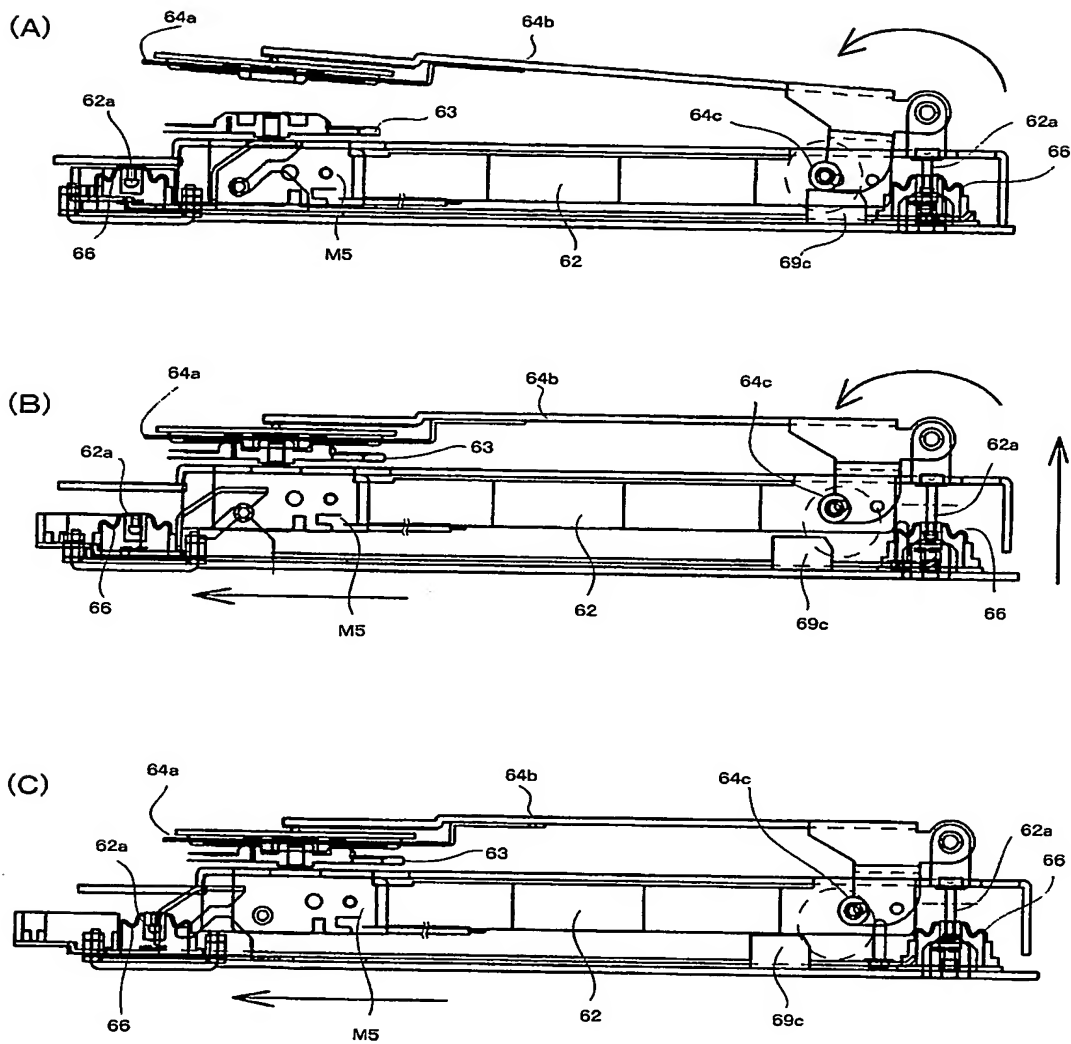
【図 90】



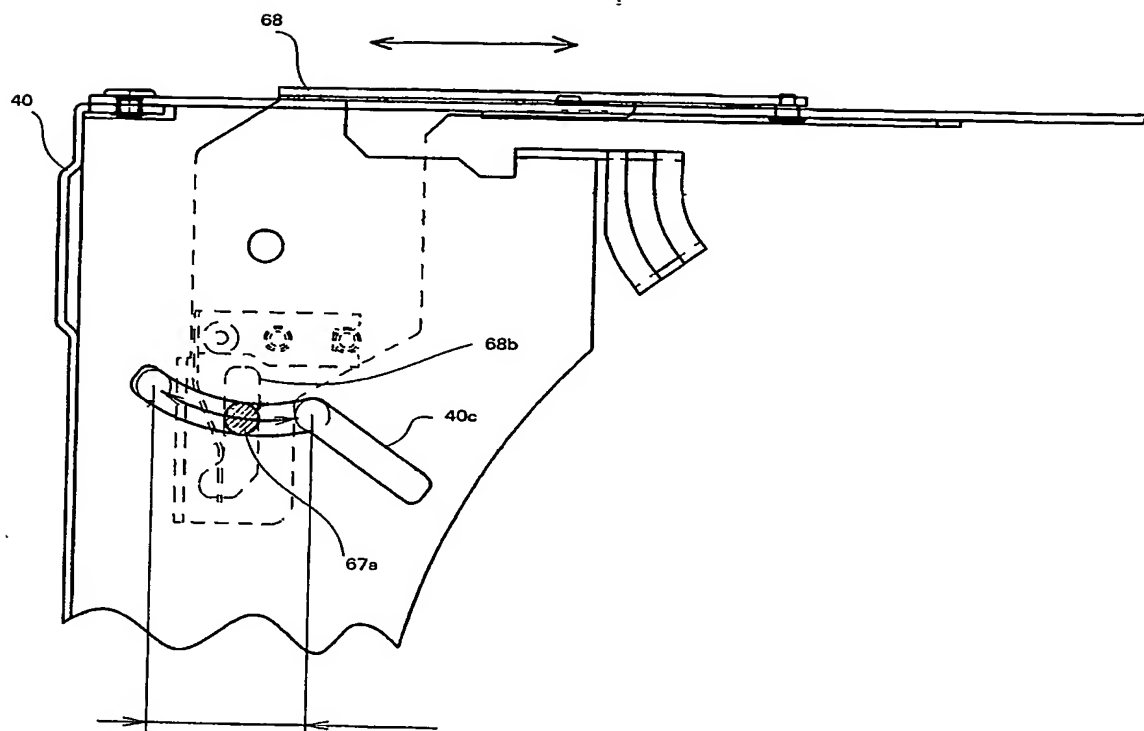
【図 91】



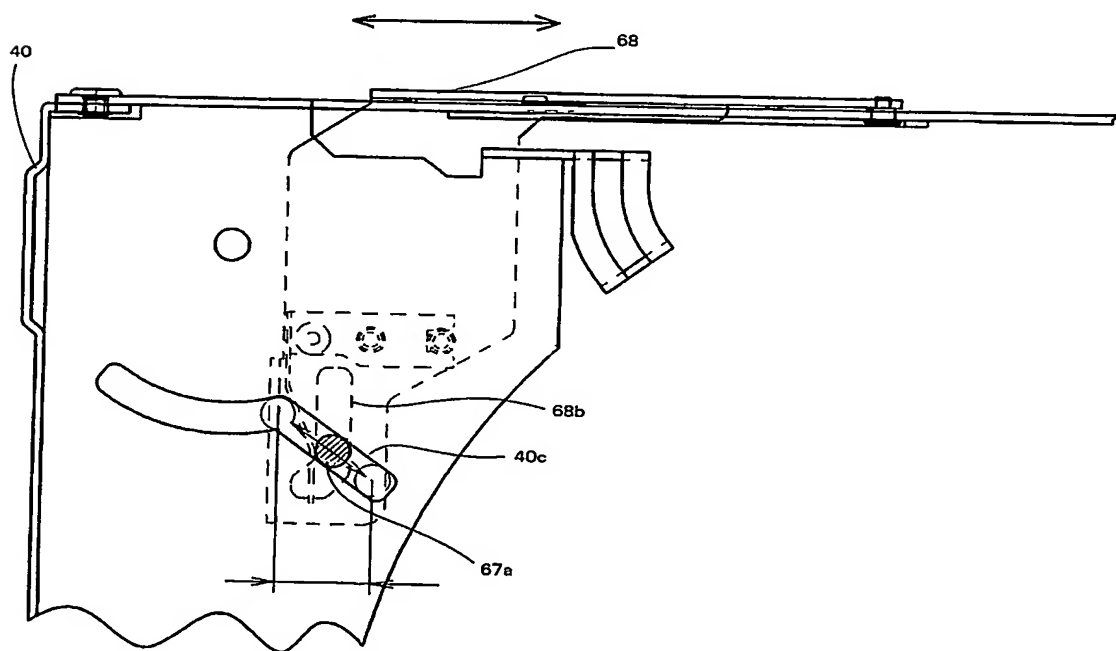
【図 9 2】



【図 9 3】



【図 9 4】



【図 9 5】

ディスクローディング時の動作の流れ

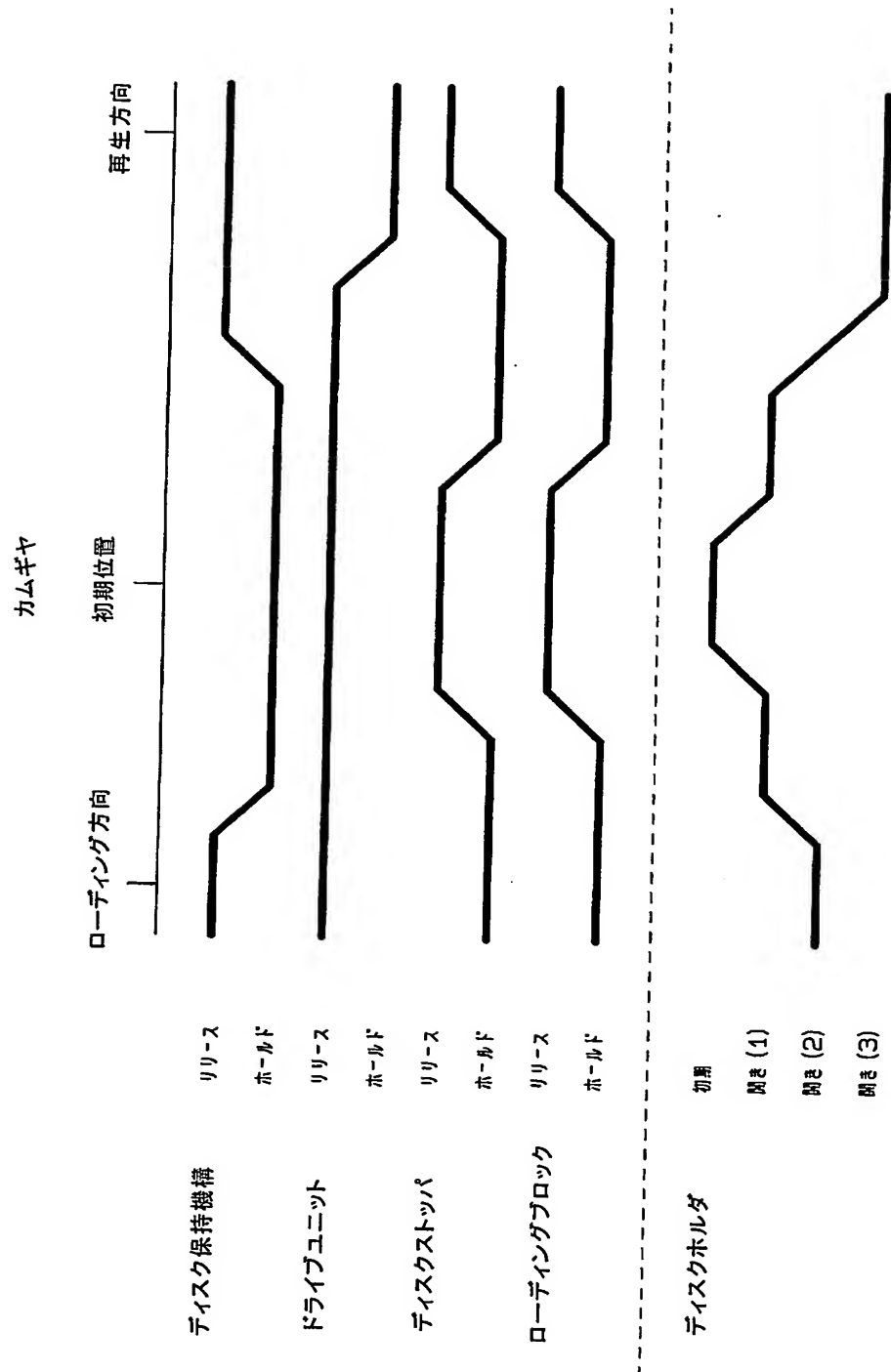
	動作内容	動かすモータ				
		M1	M2	M3	M4	M5
1	ローディングするディスクを収納するホルダプレートを選択できる位置にドライブシャシユニットを動かす。		○			
2	ディスクセレクトを移動して、ホルダプレートをローディングローラを挿入できる幅まで開く(ホルダー開き位置(1))。	○				
3	ドライブシャシユニットをディスクローディング可能な高さまで持ち上げる。		○			
4	ローディングローラをディスクホルダ側に動かす、ディスク保持ができる状態にする。 シャッターを開く ディスクホルドリックの係合爪を閉じ、ホルダプレートの中心がディスク挿入経路の邪魔にならないように更にディスクホルダーを開く。(ホルダー開き位置(2))	○				
5	センサでディスクを検出しローディングローラをローディング方向(正方向)に回転させる			○		
6	ディスクが完全にディスクホルダに収まったことを検出して、ローディングローラの回転を止める。					
7	シャッターを閉めて、ホルダプレート上にディスクを保持する	○				
8	ホルダプレートが初期位置の高さになるように、ドライブシャシユニットを動かす。		○			
9	ローディングローラ及びディスクストップをディスクから外す。 ホルダプレートからディスクセレクトを外し、ホルダプレートを密着させた状態にする。	○				
11	ドライブシャシユニットを初期位置の高さまで移動する。		○			

【図 96】

ディスク再生時の動作の流れ

	動作内容	動かすモータ				
		M1	M2	M3	M4	M5
1	再生するディスクを収納したホルダプレートを選択できる位置にドライブシャシューニットを動かす。		○			
2	ディスクセクタを移動して、ディスクホルダをローディングローラを挿入できる幅まで開く(ホルダー開き位置(1))。	○				
	ローディングローラ、ディスクストッパを動かし、ディスクを保持する。					
	ディスクホルトリックの係合爪を閉じ、更にディスクホルダーを開くことにより、ディスクを外す(ホルダー開き位置(2))。					
	ドライブベースが入れる様に、更にディスクホルダを開く(ホルダー開き位置(3))。					
	ドライブベースを回転させてディスクの下にターンテーブルを入れる。					
	ドライブユニットを持ち上げながら、クランパリングを閉じ、ディスクをターンテーブル上にチャッキングする。					
	ローディングローラ及びディスクストッパをディスクに接触しない位置まで動かす。					
	フローティングロックを解除して、ドライブユニットをフローティング状態にする。					
3	スレッドモータでピックアップを内周まで送る。				○	
4	ディスクを回転させて、再生する。					○

【図 97】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 本発明によれば、ディスクホルダからドライブユニットへのディスクの受け渡しをスムーズに且つ確実に行うことができるディスク位置決め機構を提供する。

【解決手段】 ディスクDを個別に保持する複数のホルダプレート11を備えたディスクホルダ10、ディスクDを再生するドライブユニット62、ホルダプレート11の昇降によって形成された空間に、所望のディスクDのみをホルダプレート11から分離して把持するローディングローラ51及びディスクストッパ機構25を備える。ローディングローラ51を、ディスクホルダ10内におけるディスクDに接離する方向に移動可能に設ける。

【選択図】 図2

認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2 0 0 3 - 0 9 6 8 6 3
受付番号	5 0 3 0 0 5 3 5 6 5 3
書類名	特許願
担当官	第八担当上席 0 0 9 7
作成日	平成 1 5 年 4 月 1 日

< 認定情報・付加情報 >

【提出日】	平成 15 年 3 月 31 日
-------	------------------

次頁無

特願 2003-096863

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[000001487]

1. 変更年月日

1990年 8月23日

[変更理由]

新規登録

住 所

東京都文京区白山5丁目35番2号

氏 名

クラリオン株式会社